

3. 女性研究者の上位職への積極登用に向けた取り組み

連携機関の機関長及び教育職員の人事に権限を有する管理職層を対象とし、本事業の趣旨、女性研究者の活躍推進やダイバーシティの必要性和効果についての理解を深めることを目的としたトップマネジメントセミナーを開催した。講師からは、豊富なデータに基づいた日本における労働力不足とダイバーシティ（多様性）に基づいた労務管理の重要性に関する説明が行われ、管理・運営する側の意識変革の重要性を4機関で共有した。

リーダーシップ研修は、性別にかかわらず研究者としてキャリアを構築するうえでの意識改革を目指すため、企業においてリーダー職にある講師を招き実施した。アンケート結果からは、研究面のみならず女性が管理職としてグループを率いるうえでの講師の実践方法が参考になったなど、有意義な研修となったことが認められた。

岐阜大学では2010（平成22）年から研究補助員配置制度を導入している。育児や介護等の理由により支援が必要な女性研究者、あるいは配偶者も同じく研究者である男性研究者に対して、研究補助員を配置する制度である。利用者からは、育児中であっても長期間の実験・計測などを効率よく継続できたという声が多く寄せられた。岐阜大学のような地方大学には配偶者と別居しながら育児をしている女性研究者も多く、2015（平成27）年に本事業に採択されて以降の状況を見ると、研究補助員を配置した女性研究者の多くが配偶者と別居しながら家庭においてほぼ1人で育児を担っているケースが目立っている。また、夫婦ともに若手研究者の場合、夫婦双方が研究業績に対する重いプレッシャーを抱えていることから、本制度が夫の育児への協力が得られない、または得られなかった女性研究者の支えになっていることが報告書等からうかがえる。

本制度は事業開始にともない他機関にも普及し、女性研究者の離職防止や育児による研究中断回避などの効果を発揮している。なお、アピ株式会社においては、民間企業のため労務管理上の諸事情から研究補助員配置制度とは異なるかたちで独自の対応を講じている。

企業インターンシップは、本事業の主要な目標である「地域循環型」の女性研究者支援の土壌を整備することにつながると期待されていると同時に女性研究者の満足度も高い取り組みである。昨年度（2017年度）は、岐阜女子大学からアピ株式会社へ、岐阜薬科大学から平成調剤薬局へそれぞれ女性研究者が派遣された。今年度（2018年度）は、岐阜薬科大学からアピ株式会社へ女性研究者が派遣され、民間企業における製品化プロセスについて理解するために研究所、工場、養蜂場などを見学したほか、女性研究者のための交流・情報交換会を開催し、女性研究者ネットワークの構築・拡大につなげることができた。

3-1. トップマネジメントセミナー

【演 題】地方創生と女性の活躍推進

【講 師】藻谷 浩介 氏（㈱日本総合研究所/主席研究員 日本政策投資銀行/特任顧問）

【日 時】2018（平成 30）年 8 月 1 日（水）10：30～12：00

【場 所】アピ株式会社 本社 4 階 大会議室

【参加者数】49 名（内 トップクラス 34 名 女性研究者 8 名 関係者 7 名）

藻谷浩介氏は、平成の大合併前の 3,200 市町村のすべてと海外 95 ヶ国を自費で訪問し地域特性を多面的に把握。地域振興や人口成熟問題などに関し、精力的に研究・著作・講演を行っている。2012 年より現職。著書にデフレの正体、里山資本主義、しなやかな日本列島のつくりかた、和の国富論、観光立国の正体、近著に、世界まちかど地政学など多数。



最初に、地方は貧乏というのは本当か？地方には仕事がないは本当か？若い女性が働くと出生が減る？？？若い女性が働いても出生は下らない。等々の疑問に対し、常に事実を数字で確認しないと間違った考えに陥ると指摘された。具体的に各都道府県を例に出して、国勢調査をもとに分析した解り易い納得がいく内容であった。

また、世界へ目を向け、中国、アメリカで起きていることに言及、高齢者の急増、移民の増加に触れた。日本では現役世代が減少していることから、高齢者、移民の人々を労働力、消費力に転化していかなければ、日本の経済発展は望めないと訴えられた。

講演時間がオーバーしたため、女性の活躍推進のテーマは駆け足となった。

日本経済再生の鍵として、女性の就労促進を訴えられた。

- ① 女性の就労を増やすことで：家計収入が安定し出生率、消費が増え税収も増える。
- ② 女性経営者を増やすことで：消費者の感性に対応した商品を出せる等。
- ③ しかもコストはない：外国人受け入れと違い教育コストは低く、生きがいのある元気な日本人が増える。

最後に、必要なのは性別年齢を問わない地域の人材力の総結集、結果として必ず、女性が地域づくりの前面に出てくると力説された。

参加したトップマネージャーをはじめ、様々な立場の聴講者にとって貴重かつ有意義な機会となった。

3-2. リーダーシップ研修

【演 題】医薬品の価値を最大化するためのバイオマーカー検討
～多様なメンバーでシナジーを発揮するチームの導き方～

【講 師】田窪 亮子氏（中外製薬株式会社トランスレーショナル
クリニカルリサーチ本部 臨床薬理部バイオマーカーリーダー）

【日 時】2018（平成30）年10月26日（金）16:00～17:30

【場 所】岐阜薬科大学本部 大学院講義室

【参加者数】49名（うち女性研究者 11名）

岐阜薬科大学 45名、岐阜大学 2名、岐阜女子大学 1名、
アピ株式会社 1名



講師はプロ職という、管理職ではあるが組織のマネジメントではなく、専門性を究めたサイエンス面のリーダーという立場にいる。管理職になった当初は研究プロジェクトを離れたマネージャー的な仕事も経験したが、研究を続けたいという気持ちもあり、サイエンス面で貢献するプロ職に転向した。

前半は講師が関わる研究紹介であった。バイオマーカー解析グループのバイオマーカーリーダーとして、患者試料をもちいた Translational Research の実施などを行っている。臨床薬理機能の紹介や、バイオマーカー解析グループの業務を紹介していただいた。近年は、企業においてもアカデミアに近い研究を行うことがあるということだった。

後半はリーダーシップについて、自身の経験をもとに話をしていただいた。

<企業におけるリーダーシップについて>

自身の経験による苦労や、それにより得られたリーダーとしての役割に対する思考、考え方を話していただいた。

講師が率いるバイオマーカーグループには、非常に多く専門領域があり、それぞれに役割がある。多岐にわたる専門性を理解してひとつにまとめることに苦労があったという。それをどのように克服してきたか。①自分の熱意が伝わるように、進むべき道筋をはっきり示し、コミュニケーションを通してメンバーを一つにまとめていくことが一番重要だと考え、②同じ目的に向かうために、一人一人がリーダーシップを発揮できるよう、期待することを伝えたり、機会創出を意識した。③ビジョン実現に向けて努力するメンバーを支援して、④成功や貢献を適切に評価した。以上の4点を行うことでメンバーにやりがいを与えることができたと考えている、ということであった。



これらを行うためには、①知識・情報②俯瞰的な視野・視点③説得力④対人関係力、というスキルが必要だと実感している。スキルを獲得するために、取り組みやすいところから勉強をして知識や情報を得て、様々な専門性や立場を持った人々と関わることで、彼らの視点やニーズを理解してきた。また、説得力を持つためには研究でプレゼン方法を学ぶとともに、熱意をもって話すことを意識して、場数を踏んだ。対人関係力は意識して努力するしかなく、相手を理解する気持ちも重要だと話された。

<グローバルチームを率いること>

また、外国人がチームメンバーとなるのが増えてきたため、コミュニケーションや評価、決断や見解の相違などそれぞれ指標において各文化の違いがあることを知っておく必要がある。違いがある事を理解して、チーム内でルールを設定することが重要である。英語でのディスカッションなどで分からないことをうやむやにせず、自分だけでなくメンバーの理解を助けることがリーダーの役割であると言われた。これは、日本語でも言えることではないか。

<企業におけるマネジメント>

マネージャーとリーダーは別物であり、補完関係にある。すなわち、リーダーとは「変化に対応して新しい道筋を示していく」者であり、マネージャーとは「リーダーが示した道筋に対して組織で達成していくために配分や管理をする」者である。企業ではリーダー兼マネージャーの役割を期待されることが多いが、両方こなすことは非常に困難であるため、自分はどちらのタイプか見極めることも必要である。

<企業におけるキャリア形成>

講師のキャリアを振り返りながら、キャリア形成について話をしていただいた。いつも目の前の仕事や課題に精いっぱい取り組んできたが、結果的に複数の専門性を獲得し、自信につながったという。グループマネージャーを経験し、組織の方向性や人員配置、予算配分などの視点を知ることができた。また、会社のキャリア研修において、「自分らしいキャリアの3要件」（高橋俊介氏による）や、節目を振り返る必要性を学んだという。

<ワークライフインテグレーション>

ワークライフバランスという言葉は、ワークとライフが相反するものであるという考え方であり、どちらかに比重がかかるとどちらかがおろそかになり、両方バランスよくこなすことは難しいと感じてしまう。

一方、ワークライフインテグレーション（integration 統合、まとめ、など）。これからは、生活するように働き、働くように生活する、というようなワークとライフを統合的に考える働き方が重要となってくる。企業側から見ても、生産性が上がるであろうし、人材を確保できるというメリットがあるだろう。柔軟に働ける、仕事と家庭を両立できる、人生を豊かにできる、などの

メリットがあるが、仕事が楽しく感じないと、オンとオフの切り替えがはっきりしない働き方をストレスと感じるデメリットもある。

<まとめ>

リーダーシップやマネジメントは人それぞれのやり方があり、それでよい。人材の多様性を理解して受け入れること。その時々で真剣に取り組む経験したことが自分の財産（キャリア）になる。自分のドライバーを知る。そして、ワークとライフがインテグレーションしてくる中で仕事を楽しくすることも大事である。

比較的若くして管理職になり、マネジメント職を経験した後に専門性を深めるプロ職に転向し活躍を続ける講師によるお話であった。実際に経験してきたことを分かりやすく話してもらった。学生も多く受講していたが、大学教員にとっても腑に落ちるような有意義な研修内容であった。

【アンケート結果】

回答数：38 名（回答率 78%）

2. 本日のロールモデル講演会についてお答え下さい。

項目	回答数（人）
1. 非常に有意義だった	13
2. 有意義だった	22
3. あまり有意義ではなかった	1
4. 有意義ではなかった	0
5. 無回答	2



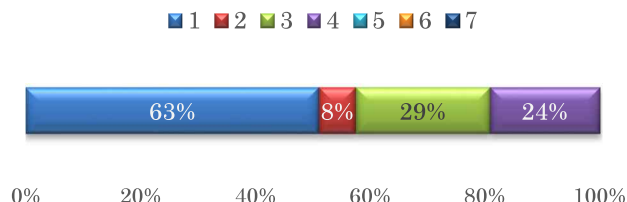
3. 2.でそのように答えた理由を教えてください。（自由記述）

- ・ リーダー研修として価値ある情報が得られた。
- ・ 他社の具体的な事例を聞いて参考になりました。
- ・ バイオマーカーを解析する様々な最近を聞くとともに、普段、大学の講義ではあまり聞かないようなお話を聞くことができ非常に有意義でした。

- ・ リーダーシップ研修は非常に新鮮だった。いつか、自分もリーダーシップを発揮しなくてはいけない場面があると思うので、リーダーシップを身につけたい。
- ・ 科学的視点とリーダーシップ視点と両社とも分かりやすかった。
- ・ リーダーシップをテーマにしたような講演に参加したことがなかったので、はじめて知ることも多くためになりました。
- ・ マネージャー、リーダー制度を自分のところでもつかおうかなと思いました。
- ・ 学生との距離が近い先生で良かった。
- ・ 実際の業務内容が知れて良かった。
- ・ 臨床薬理の話が長かった。臨床研究や開発に興味がある人には良いかもしれないが、リーダーシップ研修なのでk黄斑のキャリア形成やワークライフインテグレーションの話をメインで聞きたかった。後半はとても興味深い話だった。
- ・ ワークライフインテグレーションという新しい概念を学べたからです。
- ・ 様々な体験談を聞いたから。
- ・ ワークライフインテグレーションに関する話が大変参考になった。
- ・ 田窪先生の仕事のスケジュールが分かり、女性が家庭と仕事をどのように両立しているのか分かったから。
- ・ 自己啓発セミナーとしてとても考えさせられましたし、リーダーの素養だけでなく、マネジメントの素養も分けて知ることが出来ました。
- ・ 製薬会社の管理ポストの女性の働き方や業務内容について知ることができて参考になった。
- ・ 企業での働き方の一部を知ることができたから。
- ・ 製薬企業の仕事を詳しく知れる機会がなかったので。臨床研究は今の自分の研究とは離れているので、あまり聞くことができない話をきけてよかった。
- ・ 中外製薬のことだけでなく、ワークライフバランスの大切さや働き方について深く学ぶことができたから。
- ・ BMの話が興味深かった。
- ・ 大学とは異なる企業での働き方を聞くことができて、おもしろく、新鮮だった。在宅勤務ができるのは、とてもライフとワークを上手にやっていける方法だと思った。(職種にもよるかもしれない)
- ・ キャリア形成についての考え方について知ることができたため。企業におけるワークとライフのバランスについて話が聞けて良かったから。
- ・ リーダーシップについてなかなか聞く機会がなかったので、具体的な克服法があった。
- ・ 視野が広がった(異なる業種、立場の視点からのお話を聞いたので)
- ・ 企業で“バイオロジーにもどって病気(病態)を知るところから”という原点に立ち返るアプローチの話が新鮮だった。
- ・ 内容に興味がある。

4. 今回のロールモデル講演会の開催をどのように知りましたか。(複数回答可)

項目	回答数
1. 岐阜薬科大学からの案内	24
2. ポスター等の掲示物	3
3. e メール	11
4. 関係者から聞いた	9
5. プロジェクト通信	0
6. ホームページ	0
7. その他	0



5. 今後もこのような催しに参加したいと思いますか。

項目	回答数
1. 参加したい	24
2. テーマによっては参加したい	13
3. 参加したくない	1
4. 無回答	2



「テーマによっては参加したい」と答えられた方はどのようなテーマであれば参加したいとお考えですか。

- ・ 製薬企業内定者なので、これから社会人になるのに役立つようなテーマ。
- ・ 病院薬剤師として働きながら家庭を上手く両立していくための方法。
- ・ 病院薬剤師が行っている研究にはどのようなものがあるか。
- ・ どういった場所で働くか、適性や能力について
- ・ 薬剤師のキャリア形成について（企業、薬局、研究職など）
- ・ 最先端科学と技術に関するテーマ

6. 今後、どのような人の話を聞きたいですか。(複数回答可)

項目	回答数
1. 大学関係者	13
2. 企業関係者	20
3. 行政関係者	10
4. その他	2
5. 無回答	3



その他

- ・ 病院薬剤師（1）

7. 具体的に話を聞きたい人がいれば、名前を書いてください。

- ・ 今回の講義で紹介された高橋俊介氏（2）
- ・ バリー・シャープレス
- ・ 大垣市民病院の薬剤師の方

8. その他、感想やご意見、今後行ってほしい企画など、ご自由にお書きください。

- ・ 海外の研究者が日本の研究者と一緒に研究をした場合、良かったことや問題になったことなどを聞いてみたい。
- ・ 企業での働き方について知ることができました。ありがとうございました。
- ・ 若い人で頑張っている女性研究者の話を聞きたい。

3-3. 研究補助員配置制度

2018（平成30）年度の研究補助員配置の実績は以下のとおりである。来年度も今年度実績に基づいて実施する予定である。

岐阜大学

	2018（平成30）年度Ⅰ期	2018（平成30）年度Ⅱ期
採択者数	10名（うち女性7名）	4名（うち女性4名）
【効果】2017（平成29）年度（Ⅰ・Ⅱ期）	論文 13件、学会発表 12件、研究会発表 2件、講演 13件、受賞 1件	
2018（平成30）年度（Ⅰ期）	書籍 1件、論文 7件、学会発表 15件、ポスター発表 3件、講演1件、受賞1件、その他2件	

岐阜薬科大学

	2018（平成30）年度前期	2018（平成30）年度後期
採択者数	2名	2名
【効果】2017（平成29）年度	論文 3件、学会発表 4件	
2018（平成30）年度	論文 3件、学会発表 2件	

岐阜女子大学

	2018（平成30）年度
採択者数	2名（うち女性2名）

※採択者2名のうち1名は家庭の事情により採択後に辞退。

【効果】2017（平成29）年度 著書 1件、論文 7件、学会発表 1件
2018（平成30）年度 論文 2件、研究会発表 1件

アピ株式会社

	2018（平成30）年度
採択者数	0名

※アピ株式会社においては、研究補助員雇用における労務管理上の問題から本制度については実施しない。

3-4. 企業インターンシップ

岐阜薬科大学の女性研究者（1名）がアピ株式会社で3日間のインターンシップを実施した。大学における研究成果を地域社会に還元すると同時に大学研究者と民間企業研究者との交流を奨励することで更なる研究の発展を促す企業インターンシップの試みは本事業の特色のひとつであり、来年度も引き続き実施する予定である。

【インターンシップ実施概要】

参加者：永澤秀子（岐阜薬科大学 創薬化学大講座 教授）

文部科学省科学技術人材育成補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

インターンシップ実施記録簿

実施日	2018年12月11日（火）	担当者	荒木 陽子
時間	13:30 ～ 17:30		
実施内容	長良川リサーチセンターの実験室の見学 4F:一般実験室では、ローヤルゼリー、プロポリス、はちみつの高付加価値製品化についてディスカッション。また、細胞培養実験室、合成実験室、機器分析室では、多種多様な実験の情報交換を行った。 5F:安全性評価実験、臨床検査試験、病理組織検査試験、遺伝毒性実験の情報交換を行った。 池田食品製造第一、第二工場の見学 サプリメント製剤のライン、剤型別、ドリンク製造ラインを観察調査した。(永澤 記)		
実施日	2018年12月25日（火）	担当者	荒木 陽子
時間	16:30 ～ 17:30		
実施内容	川島養蜂場の見学 村瀬係長様のご案内で養蜂作業の見学を行った。花粉交配(ポリネーション)のためのミツバチを全国のJAを経由してハウス栽培農家に販売していることを学んだ。川島で養蜂はメインに行なってはならず、全国の養蜂業者から送られてくるミツバチの区分けと管理、配送を日々行っている。興味深いことに、沖縄はみつの取れる花木が少なく、はちみつ採取よりも養蜂に力が注がれており、北の方が多様な花木が繁殖しているのではちみつの採取に適しているとのことであった。巣箱には1匹の女王バチと3〜5万匹の働き蜂が飼われている。人工王台を観察し、大変興味を感じた。(永澤 記) 		
実施日	2019年1月8日（火）	担当者	荒木 陽子
時間	16:30 ～ 17:30		
実施内容	これまでの見学をふまえて、アカデミア女性研究者と、企業の女性研究者との交流、情報交換を行い、大変多い交流となった。(永澤 記)		

4. 意識啓発のための取り組み

本事業を発展させるためには性別や役職にかかわらず連携機関の全構成員、ひいては社会一般の意識変革が重要であるとの認識から、本事業ではフォーラム、各種セミナーや講習会等を開催している。

2018（平成 30）年度は、11 月 2 日に岐阜大学においてフォーラムを開催した。第 1 部では、エルゼビア・ジャパン株式会社の高石雅人ソリューションコンサルタントおよび岐阜大学研究推進・社会連携機構の利光哲哉特任講師による報告、続いて第 2 部では「岐阜で研究者としてのキャリアを構築する」と題して連携機関に所属する女性研究者 6 名によるトークセッションを行った。

フォーラムやシンポジウムが連携機関の取り組みを一般に向けて広く発信する機会であるのに対して、機関内部における意識変革を目指す取り組みとして意識啓発セミナーがある。今年度は、岐阜薬科大学およびアピ株式会社において意識啓発セミナーを実施し、共同実施機関からも多くの教職員が参加した。

キャリアパス支援講演会およびロールモデル講演会は、大学院生やポスドクなど若手研究者を含めて自身の将来像やキャリアパスについて考える機会提供として位置づけている。研究者としてのキャリアを構築する際に育児や介護などのライフイベントといかに向き合っていくのかについて経験者である女性研究者の話を聴くことは、研究者が家庭生活を大切にしながら意欲的に研究者としてのキャリアを追求するうえで重要である。

今年度も昨年度に引き続きニューズレターとして岐阜大学男女共同参画推進室「かもみーる通信」を毎月発行した。「かもみーる通信」は、岐阜大学および共同実施機関のほか、広く社会に対して本事業の取り組みを発信する媒体として重要な役割を担っている。

4-1. フォーラム

【演 題】地域貢献型大学における女性研究者
の活躍と AI 研究力分析

【日 時】2018（平成 30）年 11 月 2 日
15：00～17：00

【場 所】岐阜大学 講堂

【対 象 者】連携機関の構成員（教職員）
企業・自治体の担当者ほか

【参加者数】92 名（うち女性研究者 15 名）

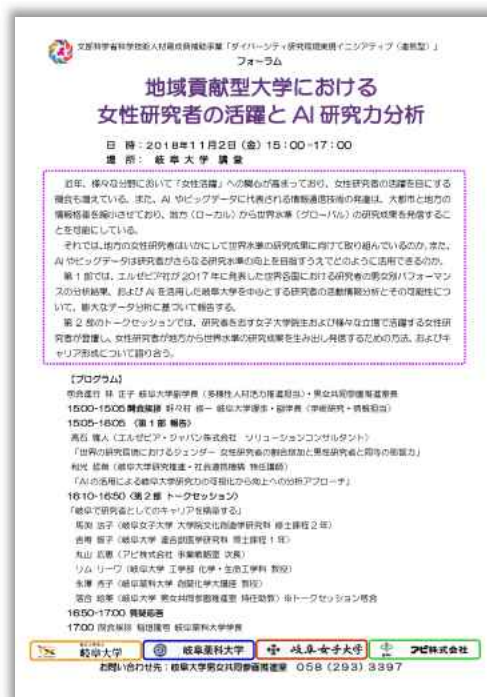
岐阜大学 41 名

岐阜薬科大学 20 名

岐阜女子大学 8 名

アピ株式会社 13 名

その他 10 名



【プログラム】

司会進行 林 正子 岐阜大学副学長（多様性人材活力推進担当）・男女共同参画推進室長

15:00-15:05 開会挨拶 野々村 修一 岐阜大学理事・副学長（学術研究・情報担当）

15:05-16:05 〈第 1 部 報告〉

高石 雅人（エルゼビア・ジャパン株式会社 ソリューションコンサルタント）

「世界の研究環境におけるジェンダー 女性研究者の割合増加と男性研究者と同等の影響力」

利光 哲哉（岐阜大学研究推進・社会連携機構 特任講師）

「AI の活用による岐阜大学研究力の可視化から向上への分析アプローチ」

16:10-16:50 〈第 2 部 トークセッション〉

「岐阜で研究者としてのキャリアを構築する」

馬淵 法子（岐阜女子大学 大学院文化創造学研究所 修士課程 2 年）

吉崎 響子（岐阜大学 連合獣医学研究科 博士課程 1 年）

丸山 広恵（アピ株式会社 事業戦略室 次長）

LIM Lee Wah（岐阜大学 工学部 化学・生命工学科 教授）

永澤 秀子（岐阜薬科大学 創薬化学大講座 教授）

落合 絵美（岐阜大学 男女共同参画推進室 特任助教）

16:50-17:00 質疑応答

17:00 閉会挨拶 原 英彰 岐阜薬科大学副学長

【概要】

11月2日（金）、第53回岐阜大学フォーラムおよび文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」フォーラム『地域貢献型大学における女性研究者の活躍とAI研究力分析』が岐阜大学講堂にて開催された。

野々村修一岐阜大学理事・副学長（学術研究・情報担当）の開会挨拶の後、第1部としてエルゼビア・ジャパン株式会社ソリューションコンサルタントの高石雅人氏および岐阜大学研究推進・社会連携機構特任講師の利光哲哉氏が報告した。その後、休憩を挟んで第2部として女性研究者らによるトークセッション「岐阜で研究者としてのキャリアを構築する」を実施した。最後に、岐阜薬科大学副学長の原英彰氏からの閉会挨拶でフォーラムが締めくくられた。

〈第1部 報告〉

第1部では、エルゼビア・ジャパン株式会社の高石雅人ソリューションコンサルタントが「世界の研究環境におけるジェンダー 女性研究者の割合増加と男性研究者の同等の影響力」と題して、エルゼビア社が2017年に発表した『ジェンダーレポート』に基づいて報告した。ここでは、日本における女性研究者の割合は男性に比べて際立って低い一方、男性よりも平均して多くの論文数を発表していることや日本から海外へ流出する女性研究者の人数が日本へ流入する人数を上回っていることなどについて国際比較の観点から説明した。

続いて、岐阜大学研究推進・社会連携機構の利光哲哉特任講師が「AIの活用による岐阜大学研究力の可視化から向上への分析アプローチ」と題して、AI（人工知能）を用いて岐阜大学の研究者をグループ化して分析した結果や学部・専門分野を越えた人的ネットワークの可視化について実演を交えながら解説したうえで、新たな価値を創造するためには研究者の特徴をとらえた分野横断的な共同研究がより一層求められていると指摘した。



〈第2部 トークセッション〉

第2部のトークセッション「岐阜で研究者としてのキャリアを構築する」では、女子大学生および企業や大学で活躍する女性研究者が登壇し、それぞれの立場から岐阜で研究者としてキャリアを構築する／してきた経験について語り合った。ここでは、岐阜県内には日本のみならず国際的に高い評価を得ている研究者が数多く活躍していること、所属機関にない設備・機材があれば他機関で利用するなど共同利用の取り組みも進んでおり研究環境の面で不利に感じることはほとんどないこと、また保育園への入りやすさや自動車通勤など居住環境の面からも研究生活を送りやすいといった指摘がなされた。

他方で、岐阜だけでなく日本では依然として家事・育児負担が女性（妻）側に偏る傾向が強い
ため、女性が研究者としてキャリアを積み上げていくためには夫婦の役割分担や職場環境、社会
サービスの活用などが重要といった発言が続いた。最後に、トークセッション司会の落合絵美特
任助教（岐阜大学男女共同参画推進室）より、新たな価値を生み出すためには所属機関や専門分
野のほか性別、年齢、国籍や障害・持病の有無などにかかわらず多様な人材がともに研究に取り
組める環境、すなわち多様性（ダイバーシティ）が保障された研究環境の整備が今後ますます重
要になってくるとの総括がなされた。

その後の質疑応答では、日本における職場慣行の問題点や AI による研究分析の可能性に関する質問のほか、トークセッションでの女性研究者の言葉に勇気づけられた等の発言が相次いだ。1 部・2 部を通して多角的な視点から女性研究者やダイバーシティ社会について再考する有意義なフォーラムとなった。



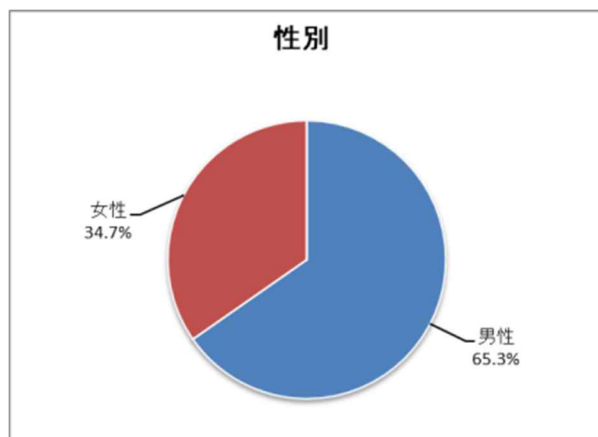
【アンケート結果】

回答数：49 名（回収率 53%）

1. あなたについて教えてください。

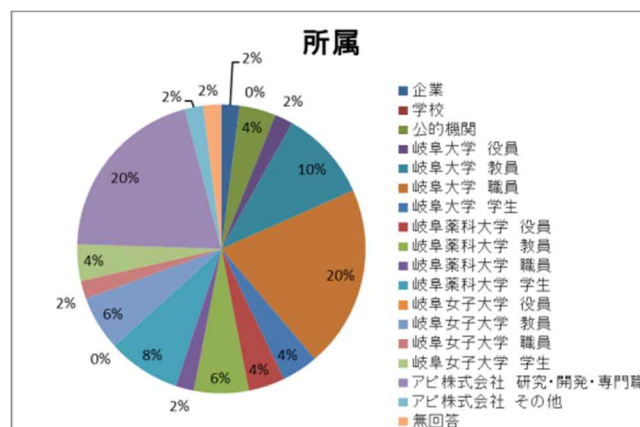
■性別

項目	回答数(人)	%
全体	49	100.0%
男性	32	65.3%
女性	17	34.7%



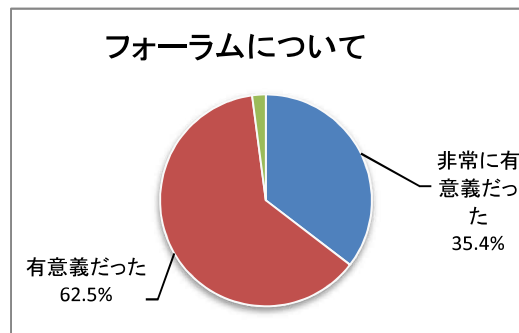
■所属

項目	回答数(人)	%
全体	49	100.0%
企業	1	2.0%
公的機関	2	4.1%
岐阜大学 役員	1	2.0%
岐阜大学 教員	5	10.2%
岐阜大学 職員	10	20.4%
岐阜大学 学生	2	4.1%
岐阜薬科大学 役員	2	4.1%
岐阜薬科大学 教員	3	6.1%
岐阜薬科大学 職員	1	2.0%
岐阜薬科大学 学生	4	8.2%
岐阜女子大学 教員	3	6.1%
岐阜女子大学 職員	1	2.0%
岐阜女子大学 学生	2	4.1%
アピ株式会社 研究・開発・専門職	10	20.4%
アピ株式会社 その他	1	2.0%
無回答	1	2.0%



2. 本日のフォーラムについてお答えください。

項目	回答数(人)	%
全体	48	100.0%
非常に有意義だった	17	35.4%
有意義だった	30	62.5%
あまり有意義ではなかった	1	2.1%



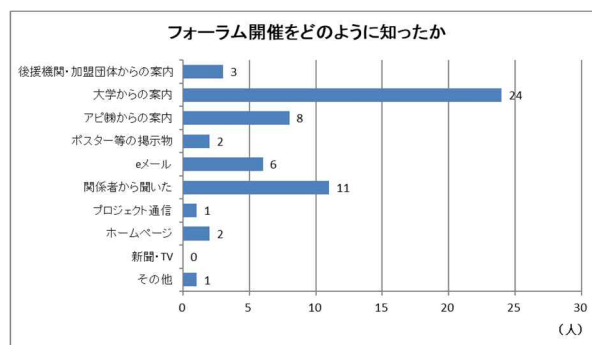
3. 2.のお答えについて理由を教えてください。

- ・ 講演よく分かった
- ・ 女性の意欲を改めて知り、エネルギーを頂いた。岐大の日本のプレゼンスを上げるため、男性陣も巻き込み頑張っていたきたい。
- ・ 短い時間で内容の濃いお話を聞くことができた。
- ・ 女性研究者が活躍している分野と、まだ活躍できていない分野が分かったため。女性研究者の実際の声が聞けたため。
- ・ AI による研究力分析が興味深かった。
- ・ 女性研究者が少ないため、女性に限定した研究者の採用枠があることは知っていたが、どうして女性研究者の人数を増やしジェンダー平等にすべきか、改めて勉強になったから。研究者 1 人あたりの執筆論文数（男女別）や学際論文の男女別などをもっと周知すれば、女性限定枠への風当たりが弱まると思った。
- ・ 第 2 部のセッションは、普段気になってはいるが、なかなか聞くことのできない貴重な話が聞けた。
- ・ AI を活用することによって、これまで明らかになっていない情報が導かれることが分かり、面白く感じた。トークセッションでは、実際に活躍されている方々の話が聞けて参考になった。
- ・ 様々な視点からテーマについて考えることができた。
- ・ ジェンダーレポートや AI を利用した活動など、大変興味深かった。シンポジウムでも多様な意見が聞けて面白かった。
- ・ 利光先生の AI の講演が興味深かった。
- ・ AI の活用
- ・ 岐阜大学の AI を用いた研究者同士の組み合わせの話が目新しく興味深かった。
- ・ エルゼビア高石氏のお話は、日本の実態がよく分かった。利光先生の講義は、AI の活用方法が分かって面白かった。データの少ない若い研究者のグルーピングはどうするのだろうと思った。トークセッションは、女性の研究に対する課題や世代を生かしたトークが聞けたので良かった。

- ・ いま妊娠中で、産休後の働き方を生の声から、より現実的に考えることができた。制度的にも整ってきてはいるが、不安はとても大きい。だけど、働いている人の声に励まされる。
- ・ トークセッションで、働きながら研究・子育てをされている先生方のお話を聞けて良かった。何か一つのことにしか注力できないと思っていたが、どんなことも強い意志（+助け合い）があれば頑張れるのだと思った。
- ・ 今まで、働きながらこの先のライフイベントと両立させていくことに不安を感じていたが、色々なお話の中で希望が持てた。
- ・ 実際に仕事や研究と家事を両立されている方の経験談が聞けて参考になった。
- ・ 企業、大学で研究をされている女性の方々の声を聞くことができた。
- ・ 普段、講義などでは、大学全体の活動についてを学べる機会がとても少なく、教授の人達も自分の事をあまり語ろうとしない。今回「岐阜大学の教育・研究と運営」の、講義では決して聞くことができないマクロな視点からの事実を知ることができてとても良かった。
- ・ 若い研究者から、ライフを乗り越えて実績を上げておられる研究者まで、様々な話題がコラボしたトークセッションに元気をもらった。当センターの女性の方々にも、当フォーラムで聞いた話を伝えていきたいと思った。
- ・ 主人が研究者だが、学会においても共同研究者にも女性は少なく女性研究者の声を聞く機会がなかったが、今日知った現状がとても貴重な情報になった。地方だから不利であると感じない、不便であると感じないというご意見は、男女問わず研究者には前向きで元気になるご意見で、聞かせていただけ励みになった。研究者に関わらず、働く女性に頑張ろう！と感ずることができる皆様のご意見で嬉しかった。
- ・ 研究におけるジェンダーの実態が明確に分かった。
- ・ AI の活用についても良く理解することができた。また、トークセッションでも、今後このような女性研究者になりたいという像を具体的に持つことができた。
- ・ AI の使い方による研究の広がりというものがとても興味深かった。自分の知りたいことを人を通して知ることができ、関わりも広がっていくのは研究の幅が広がるだけでなく、知識も増えると思うので、とても良いものだと感じた。また、女性の働き方に関して、改めて感じさせられる、考えさせられるものとなった。
- ・ 講義内容がデータに基づいていたり、新たな技術をどう活かしていくのかと親しいことであったりと、新鮮であったため。トークセッションで、女性の生の声が聞けたため。

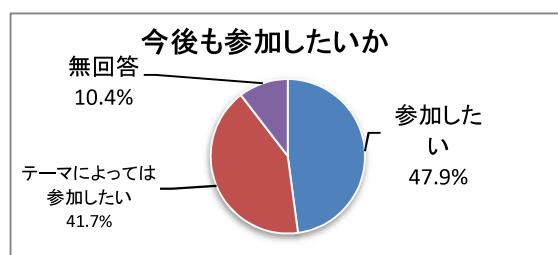
4. 今回のフォーラムの開催をどのように知りましたか。(複数回答可)

項目	回答数(人)
後援機関・加盟団体からの案内	3
大学からの案内	24
アピ(株)からの案内	8
ポスター等の掲示物	2
eメール	6
関係者から聞いた	11
プロジェクト通信	1
ホームページ	2
その他	1



5. 今後もこのような催しに参加したいと思いますか。

項目	回答数(人)	%
全体	48	100.0%
参加したい	23	47.9%
テーマによっては参加したい	20	41.7%
無回答	5	10.4%



「テーマによっては参加したい」と答えられた方はどのようなテーマであれば参加したいとお考えですか。

※その他の回答を選択された方も、興味深い催しのアイデアがございましたらお書き込みください。

- ・ 女性の社会進出のサポートについて。
- ・ 生物分野の研究について、或いはAIの研究活用について等のテーマに興味がある。
- ・ 「ジェンダー平等」や「女性活躍」と聞くと、男性に対する批判の催しかなと感じて参加したがらない男性も少なからずいると思う。上手い方法やテーマは不明だが、男性がもっと催しに参加すべきだと思った。
- ・ 生産性の向上
- ・ 自分が工学部の人間なので、理系のテーマにはやはり興味がある。

6. 今後、女性の活躍推進のために、どのような取り組みが必要だと思いますか。

- ・ 女性研究者が生活を送っている自治体、都道府県を巻き込み、職場のみならず地域からも応援する、支える取り組みが必要と考える。地域や近隣住民の目を気にせず働ける、インセンティブを受けられる、夫や祖父母などの家族も支援を得られる仕組み、システムが構築されると良い。
- ・ 敷地内保育所の設置。男性の育休取得率の向上。ワーク・ライフ・バランスの確立（可能な限り残業を減らすなど）
- ・ 男女に関わらず、良い仕事/研究が評価される環境づくり。
- ・ 家庭での活動の支援（延長保育、ヘルパーなど）。男性の家庭での活動の支援、家事の分担について考える講演会を開くなど。
- ・ それぞれの立場で腹をくくって理解し合いながら働く場所を見つけ、地域を考える人材を確保する。
- ・ 利光先生が、岐阜大学の教員をデータベース化されているため、ある公募に対して誰と誰が手を組めば（共同で研究すれば）良い成果が見出せるか、ある程度目に見える形になると思う。AI は、男性女性で差別することなく客観的に結果を出してくれるため、それを利用することで女性の研究者が活躍できる場（機会）を逃すことが少なくなると感じた。また、限りある予算の中で職員向けの保育園を運営するなど、岐阜大学は頑張っている方だと思った。
- ・ 第2部のセッションのような話
- ・ 都心に比べて地方では、昔ながらの考え方が深く根付いているように感じる。女性が無理なく働くことができる制度や設備を整えることも大事であるが、女性の周りの人たちの意識の改善が更に必要だと考えている。
- ・ ユニークな独自性ある研究で話題提供。子育てと仕事を楽しむ心。
- ・ 環境整備。家庭環境の整備路援助。
- ・ 既にあるかもしれないが、在宅勤務の制度は必要かと思う。
- ・ 在宅での仕事環境の整備。都合で休むことがあっても（子供や介護の理由で）、家で何かしら仕事をしながらできると、より良いと思う。
- ・ 基本的には、女性研究者の優遇という措置が必要になってくると思う。しかし、自分自身が男性ということもあり、女性のみが優遇されるということについて、やや複雑な心境になる。
- ・ ライフイベントの中でも、特に育児中の環境整備が重要である。制度の利用や環境整備がなされた上で、更に目的を達成するためのアウトソーシングなども必要である。協力してくれる人のネットワークをしっかりと作ることも大切になってくる。
- ・ この様なフォーラムに男性研究者が多く参加していただき、現状を知っていただくことが大切だと思う。若い学生さんのうちから、キャリアビジョンについての教育が必要だと思う。

- ・ 地域（←「地方」のつもり？）であるために人と人との距離が物理的に離れており、連携研究が難しいという特性があると思うので、その離れた人同士でも連携して研究ができるやり方を広める取り組みがあっても良いのではと思った。
- ・ 科研費などの採択。女性研究者同士の連携。自律、独立心、情熱を持ち続ける。
- ・ 地域の人たちの理解に関する取り組みが必要なのかなと感じた。研究者が活躍することだけに問わず、共に働く人たちの理解、周囲に理解を持ってもらうための講演会であるなどを聞くことで、更に働きやすくなるのではないかと感じた。
- ・ 日本の文化、風習、考え方をいかに変化させるか、これが大きな課題と感じる。

7. その他、感想やご意見、今後行ってほしい企画など、ご自由にお書きください。

- ・ 就職後、結婚、出産のサポートについて。
- ・ 岐阜で女性研究者として生きる参考になる。地域性が理解できると良かったのではないかな。
- ・ 年配の方は比較的まだ男性は仕事、女性は家事という考え方を持っていることが多いが、我々若い世代は、家事も育児も夫婦平等に行うのが普通だと認識している割合が多い（少なくとも私の周りでは）。夫だけの収入では生活できないなど、世の中の事情も影響しているが、今は女性も同じように活躍する時代なので、分担し助け合うのが当たり前だと感じている。ただし、男性も女性も同じように残業したり夜勤したりなど（男性だけが夜勤有等の仕事もあるため）、男女で不平等にならないようにしなければ、風当たりは弱まらないと思う。
- ・ 女性に協力的な職場環境。保育所などの環境。
- ・ Lim さんのような海外研究者からの話や視点が良かったと思う。
- ・ 同じような内容でも再度お願いします。
- ・ より働きやすい状況に持っていくように努力する。良い国（オランダなど）を見習って、真似できるところは取り入れていくような法整備をしてもらいたい。
- ・ ありがとうございます。
- ・ 研究について競争という形をとりつつも、多様性の維持が必要な理由についての講演も聞いてみたい。
- ・ 利光特任講師の報告からは、地方や女性といった制約は今後一層 AI が果たす役割によって可能性が広がっていくのだと感じた。自分のやりたいことがあったら、積極的に声を出していくことを経験的に積み重ねて成果を上げてこられた永澤教授の言葉に感銘を受けた。これからの女性研究者へのエールになった。
- ・ 難しいテーマかなあと思って参加したが、私にも分かる内容、貴重な情報、ご意見を聞かせていただき、ありがとうございます。心豊かになる時間を過ごさせていただいた。
- ・ トークセッションは、深い内容で良かった。
- ・ お名前は存じ上げている学内の先生で、伺えて興味深かった。
- ・ 岐大、岐阜大、岐女大にも、輝いている先生方や研究者がたくさんいると思うので、この

トークセッションのように、家庭、仕事の両立についていろんな先生方の話を聞いてみたいと思った。男性も、家庭、仕事の両立を頑張っている人の登壇があっても面白いかもしれない。

- ・ 様々な業種などにおいて、女性への理解、働きやすい環境が作られていくと良いなと感じた。ありがとうございました。
- ・ 誠にありがとうございました。

4-2. 意識啓発セミナー

意識啓発セミナー 1

【演 題】やりがいや充実感を持つためのワークライフバランス

【講 師】小原 道子氏

(岐阜薬科大学地域医療薬学寄附講座 特任教授)

【日 時】平成 30 年 12 月 20 日 (木) 15:30~17:00

【場 所】岐阜薬科大学本部 大学院講義室

【参加者数】45 名 (うち女性研究者 9 名)

岐阜薬科大学 41 名、岐阜大学 3 名、岐阜女子大学 1 名



講師は本学寄附講座の特任教授であり、業界最大手ウエルシア薬局株式会社の会長付地域連携推進担当部長や関連会社の取締役などを勤めている。在宅医療の専門家である。大学薬学部を卒業後に都心の総合病院で薬剤師として勤務、その後農村に開設した調剤薬局に転職し、当時はまだ珍しかった訪問薬剤師として在宅医療業務に携わる。挫折を感じながらも自ら工夫して取り組み、患者家族との交流により、「薬剤師には、患者の生活に寄り添うことで必要な情報を提供する役目がある」と意識したという。これが今の仕事の原点であると話された。

講師は、これまで複数の疾患で手術を受けたり、家族の介護によるストレス疲労で入院したりと、医療従事者でありながら、患者の立場で医療に接してきた経験がある。また流通業界で職を得ていた時代もあり、様々な経験をしてきた。現在も闘病中であると告白された。

今回の講演では、与えられた命・人生をいかに生き抜くか、ワークライフバランスは人生の過点でありその先を生き抜くために今すべきことは何か、意識すべきことは何か、ということ、講師がこれまで経験した仕事、病気に関すること、介護などの経験により得られた知見や考え方を聞くことができた。

自分が生きてきて得た経験はすべて大きな財産である。これを男女ともお互いにシェアリングするのがこれからの生き方の一つになると思うと話された。

また、良い記憶をもって人生を生きるためには、良い仲間、あるいは良い仲間と出会える場所が重要であると考えた。これがリーダーシップやワークライフバランスとかかわってくる、と展開された。

ワークライフバランスは男女とも大事

大事なことは、自分の人生スタイルに自信を持つことである。自信を持てるようになれば、ワークライフバランスにつながっていき、充実した人生を送れるのではないかと話された。

とを精いっぱい取り組み、希望や夢を絶対に忘れない。相談できる人を持ち、自分のスタイルを確立していく。

そしてワークライフバランスをとって生きぬくために最も大事なことは、人脈であると述べられた。講師は過去の患者の家族、心身ともに困難な時期に励ましてくれた 10 歳以上年上の先輩女性たち、また闘病中に出会った人々など、様々な縁を得てきた。すべての人にとって、様々な社会に少しずつつながりを持つことがいいことではないか、と述べられた。人の縁は薄れることはあっても切れることはない。



いまは目の前にある仕事や人間関係で日々を過ごしているだろう。ワークライフバランスを人生の通過点と捉えたとき、如何様な人生を生き抜くのかと考えると、いまのワークライフバランスが明確になってくるのではないか。豊かな人生を生きぬくためにすべきことは何か、ということに気がつくのではないか。「自分自身が楽しく生き抜くための通過点がワークライフバランスであり、ワークライフバランスは自分の大切なこと探しの時間」であるとまとめられた。

リーダーとは自分自身が磨かれないといけない。自分自身に希望をもたなければいけない

リーダー論についても話が合った。自尊心を高めて自分を輝かせるしかない。

自分の人生は自分で創造できると確信すること。素晴らしい人生を創造すれば自分の中の頂点に立てる、その瞬間だれもがリーダーになる。これは講師のワークライフバランス論に通じるものである。誰かに認められるためではなく、自分自身がリーダーとして構築されていれば、人についてくるのではないかという話であった。

生物的な男女差はいかんともしがたいが、女性は感情的になりやすいと言われがちである。また、企業でも女性管理職はごく少数であり、女性主導の業務がとても少ない。身近なところでは、会議を主催することもほとんどない状態であった。お手本がないため、自分が最初に行う時は非常に悩んだそうである。自分が優位になるよう決めたルールを紹介された。①ポジティブな意見を話す。②発言者を必ず褒める。③否定的な意見の時には代替案を用意してから発言するよう求める。そして、初めて議長をするので手を貸してほしいと素直に出たそうである。現在も、軽やかに和やかに進行するように努めているということであった。男性にするように、女性にも同じようにアドバイスをして経験させる必要があると考えている。

男女ともにお互いにとっていい働き方ができる社会づくりを推進していくことが重要だと思う。男性も女性も社会にとっては同じくらい重要な存在である、これからどう過ごしていくかという事をお互いが心をつなげて話し合う場が必要である。

これまでワークライフバランスに関して、女性が結婚、出産、育児、介護などをしながらでも働き続けるために、仕事と家庭とのバランスをいかにしていくか、という切り口の講演をきい

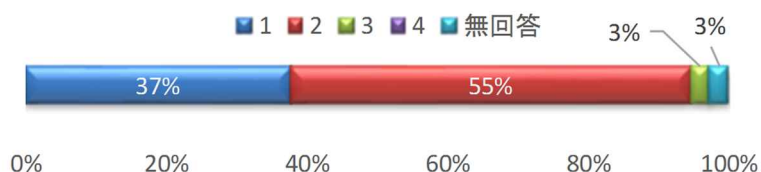
てきた。今回のセミナーではとても新鮮な観点を示され、まさに意識啓発にふさわしいセミナーであったと思われる。

【アンケート結果】

回答数：38 名（回答率 84%）

2. 本日の意識啓発セミナーについてお答え下さい。

項目	回答数（人）
1. 非常に有意義だった	14
2. 有意義だった	21
3. あまり有意義ではなかった	1
4. 有意義ではなかった	0
5. 無回答	1



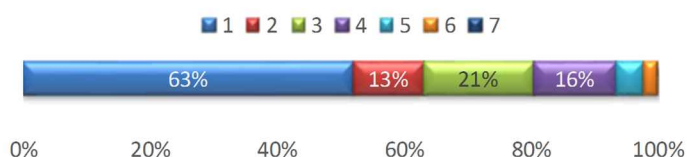
3. 2でそのように答えた理由を教えてください。（自由記述）

- ・ 先生ご自身の経験や考え方を拝聴し、大変勉強になりました。
- ・ 違う視点での話を聞くことができた。
- ・ 女性が力強く社会を生きぬいていくための心構えや実際の行動を具体的に知ることができた。
- ・ 今回の講演は、これまで色々な講演と比べて No1 でした。感動しました。涙が出そうでした。心から感謝します。
- ・ 「ワークライフバランス」論は数多くありますが、自分自身が「楽しく生き抜くための通過点がワークライフバランス」であるという小原先生のご論から、「目から鱗」の体験をさせていただいたから。
- ・ 生きることそのものが試練であるが、前向きさと明るさに驚かされました。
- ・ 他ではきけない新鮮な話だと感じました。
- ・ ワークライフバランスについて改めて考える機会になりました。“生きてゆく”ということを考え直す機会となりました。
- ・ 自身の体験に基づくお話を頂き、とても興味深い話でした。とても参考になりました。
- ・ 個人的な人生の実例ですが、学ぶところ、参考にできるところがたくさんありました。人との関係性をどのように作ったらよいか、ということも学びました。

- ・ 普段あまり聞くことのできない半生を聞かせていただいた。
- ・ 今後長い人生を考えるうえで、自分がやることに自信をもつ、構築することが大切だということを深く考えたことがなかったため、良い機会となった。
- ・ ご自身の体験に沿った貴重なお話を多くお聞かせいただけてとても参考になりました。
- ・ 自信の体験を元にいかに人生を楽しく過ごすかをご紹介いただき、参考になることがたくさんありました。
- ・ 小原先生の知らない話を知れました。
- ・ 自分の人生に自信をもてるようになった。
- ・ 色々な経験をされている方のお話は、自分の生き方を見直す良い機会になりますし、大変参考になります。
- ・ 自分はこれまで自尊心が低く、自分を大切にできていないことが多かったので、今回のお話を聞いて、もっと自分を好きになって豊かに人生を送っていきたいと思ったから。
- ・ 大変印象深いお話であったため。
- ・ がん患者さんが病気になってからも食事やオシャレを良い仲間と楽しみたいと思っていることが初めて分かったから。病棟薬剤師は劣等感を感じることがあると分かったから。
- ・ 知っている先生の今までの仕事や人生について知ることができた。1つの仕事ではなく、様々な仕事につくことで得られるスキルややりがいを感じることができた。人生を様々な切り口から考えることで色々なことを吸収できるということが分かった。
- ・ 人生の岐路での具体的な話が聞けて参考になりました。
- ・ 様々な経験を拝聴することができ、自分にとって興味深い内容であった。
- ・ 女性が社会で働いていく上で・・・だけでなく、人生を楽しく充実させるためのノウハウを教えてもらったと思えたため。
- ・ いろいろ考えさせられました。
- ・ 会議の進め方は大変参考になりました。
- ・ ワークライフバランスを尊重することは重要だが、現実的にサバイブする職であることから、そのバランスを考えることは厳しい。

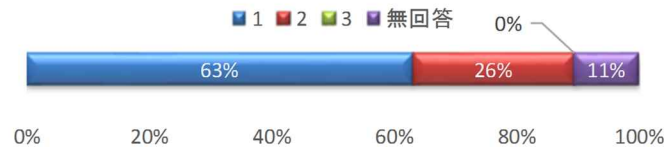
4. 今回の意識啓発セミナーの開催をどのように知りましたか。(複数回答可)

項目	回答数
1. 岐阜薬科大学からの案内	24
2. ポスター等の掲示物	5
3. eメール	8
4. 関係者から聞いた	6
5. プロジェクト通信	2
6. ホームページ	1
7. その他	0



5. 今後もこのような催しに参加したいと思いますか。

項目	回答数
1. 参加したい	24
2. テーマによっては参加したい	10
3. 参加したくない	0
4. 無回答	4

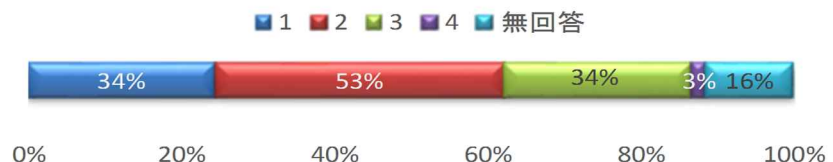


「テーマによっては参加したい」と答えられた方はどのようなテーマであれば参加したいとお考えですか。

- ・ 「どのような生き方をしてきたか、困難に遭遇した時どのように対処したか」という内容が含まれるテーマ
- ・ 基礎研究者の講演
- ・ ベンチャーを立ち上げた方の講演（自分で働く環境を開拓された方）
- ・ 他大学の女性の学長や学部長の講演
- ・ 興味があるもの（政策など）

6. 今後、どのような人の話を聞きたいですか。（複数回答可）

項目	回答数
1. 大学関係者	13
2. 企業関係者	20
3. 行政関係者	13
4. その他	1
5. 無回答	6



その他 病院薬剤師（1）

7. 具体的に話を聞きたい人がいれば、名前を書いてください。

- ・ 大垣市民病院の薬剤師の方

8. その他、感想やご意見、今後行ってほしい企画など、ご自由にお書きください。

- ・ 「清流の国 輝くギフジョ」とあるので難しいかもしれませんが、女性だけでなく、ダイバーシティ（多様な人材の活用）の本質的な意味合いに沿った人種、ハンディキャップの有無、あるグループの中での特殊性に目を向けた企画を望みます。例えば①営業グループにおける開発者の存在意義、②大企業の中に中小企業の文化を持ち込んだ成功例、等。

- ・ 良い記憶をたくさん持てるような生き方。良い記憶の原点は、良い仲間、良い仲間と会える場所。今回の講演は素晴らしかった。まさに意識啓発セミナーでした。感謝感激でした。
- ・ 行政と「薬」について実際に働いた人の話を聞いてみたいです。
- ・ いろいろ勇気づけられました。
- ・ 私は特に最後のメッセージ「人脈を大切に！」という言葉が心に残りました。自分も今までの、そしてこれからの人脈を大切に、生きていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・ 例えば政治家に大学教員の働きについて知ってもらうことが、ワークライフバランスに繋がると考える。残業時間規制が設けられているのも、小・中・高の教員が対象であり、大学教員はなおざりにされている。
- ・ FD・SD 委員会との合同開催はやめていただけないでしょうか。ダイバーシティ推進室とは直接関係ありませんが、薬学教育に関する FD・SD 講演会の開催が必要だと思います。

意識啓発セミナー 2

【演 題】「人を育てる職場づくり～個性を活かしたキャリア形成～」

【講 師】安原 文美氏

(中部電力(株)/販売カンパニー お客様営業部 WEB サービスグループ部長)

【日 時】2019 (平成 31) 年 2 月 20 日 (水) 13:30～14:45

【場 所】アピ株式会社 本社 4 階 大会議室

【参加者数】87 名 (うち 女性研究者 14 名)

岐阜大学 5 名、岐阜女子大学 2 名、アピ株式会社 56 名、アピグループ (株式会社 UNIGEN) 5 名、その他 19 名



安原先生は、1993 年に中部電力に入社され、名古屋支店熱田営業所での勤務を経て、1995 年からは三重支店人事課で採用と教育を担当された。1997 年からは、本店広報部に異動し、2013 年に名古屋支店広報課長、2015 年に名古屋支店天白営業所長になられた。様々な部署を経験され2018年から現職の販売カンパニー お客様営業部の部長を務められている。現在は、WEB サービス「カテエネ」等を手掛けられて

おり、家庭では 2 人の娘の母親でもあります。

本セミナーでは、最初に、中部電力の会社概要と、社会における女性活躍推進の流れを述べながら、会社として、どのような取り組みがなされたか、話があった。

安原氏は、まだ制度が整っていない時代に上司を初めとした周囲の協力によって、単身赴任や二人の子供の子育てを乗り越え、キャリアアップされてきた。このようなキャリア形成ができた要因は、常に自己分析を行い、資格への挑戦など自身の強みをどのように強化するか考え、行動にうつすことを繰り返されてきたためだ。そして、年上部下を多く持つ管理職となった現在も「強力なリーダーシップを発揮しマネジメントする」リーダーではなく、「縁の下の力持ちとして、全体をみてフォローする」リーダーとして、任せるところは任せ、期日と短期目標の報告を徹底することで、総合力が発揮されるチームとするなど、自身にあったマネジメントのやり方を考え、実践されている。この「自分にあったマネジメントスタイル」を含め「自分の言葉で伝える」「話しやすい環境・関係をつくる」という安原氏が管理職として、大切にしている 3 つの提言は興味深く、アンケートでもこの箇所についてさらに詳細な話を希望される方が多かった。

また、「部下の安全と健康」を守ることは、管理職の仕事であり、会社として、「健康経営」に取り組むことの有用性もお話された。この「健康経営」という考え方にも、興味を持った参加者が多かった。

最後に、今後の社会においてキャリア形成をしていくためには、A I やロボットの一般化により、自己分析などを行い強化された人間力の必要性が高まることと、デジタル化、テレワークの導入等により、「おひとりさま職場」が増え、ノウハウの共有や人材育成が行いにくくなることから、「コミュニケーション」の必要性がこれまで以上に高まることを言及された。

【アンケート結果（抜粋）】

アンケート回答数：79 名/87 名（回答率 91%）

※一部の設問にて無回答あり

1. あなたについて教えてください。

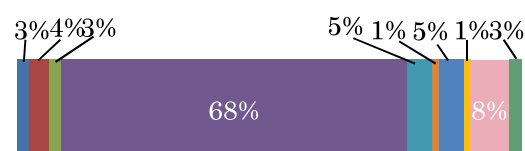
性別

項目	回答数(人)
■ 男性	39
■ 女性	37
その他	0
■ 無回答	3



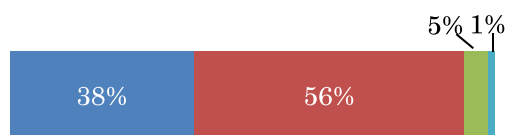
所属

項目	回答数(人)
■ 岐阜大学(教員)	2
■ 岐阜大学(職員)	3
■ 岐阜女子大学(教員)	2
■ アピグループ	54
■ その他(岐阜県庁)	4
■ その他(岐阜市役所)	1
■ その他(中部電力(株))	4
■ その他(森松工業(株))	1
■ その他	6
■ 無回答	2



2. 本日の意識啓発セミナーについてお答えください。

項目	回答数(人)
■ 非常に有意義だった	30
■ 有意義だった	44
■ あまり有意義ではなかった	4
有意義ではなかった	0
■ 無回答	1



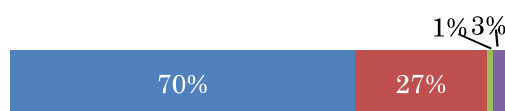
理由

- ・ 講師の具体的なキャリア形成の経験を踏まえた話であったため分かり易い内容であった。
- ・ ご自身の経験から、「大切にしていること」を説明頂くことで、共有・参考出来る点が多い。
人材育成に関する思いが伝わってきた。
- ・ 講師の経験に即した具体的な内容であった
- ・ 今までの講演では、組織をぐいぐい引っばって先頭に立ってやって行くタイプの方が多かった
と思いますが、今回は先生が縁の下の力持ちという通り、組織全体を見わたしてサポートを
していくスタイルで、女性リーダーといってもいろんなタイプがいていいんだということが
実感できました。
- ・ 管理職として大切にされていることが具体的に例示されて分かり易くコミュニケーションのと
り方など早速取り入れさせていただきたいと思いました。
- ・ 人を育てるために管理職の方の考えが聞けたことが為になりました。
- ・ 「健康経営」という考え方が役に立った。
- ・ 「健康経営」という考え方は無知であったので、参考になった。
- ・ 大企業の社員を大切にしようという取組、努力を聞くことができてよかった。究極的な課題は
同じと分かった。
- ・ ライフワークバランスに suite、中部電力の先進的な取組みを知ることが出来た。WIL、中部
WIN について知ることができた。
- ・ あらためて、普段の仕事をどのように行うべきか、考えることが出来たため。
- ・ 母親をしながらも、やる気さえあればどんどん仕事をするとはできるとはげみになったから。
- ・ 他社の取組みを知れて、当社にフィードバックできる部分を見出すことができました。
- ・ 企業の取り組みの現状（と限界）から分かる内容だった。
- ・ 前例がなくとも、意志を強く持って前進される姿が素晴らしいと思ったから。
- ・ 様々な部署を経験される中で、努力されてきたことが伝わってきた。
- ・ 自分も管理職ですが、他の頑張っている方の話はいつでも参考になる。
- ・ 職場作りのポイントをもっと深く聞きたかった。
- ・ 人柄がよく表われた話で、会社の在り方もよく分かったのでよかった。男性の育休取得につい
てもお聞きしたかった。

・「管理職として大切にしていること」に関して、より深くきければ良かった。

3. 今後もこのような催しに参加したいと思いますか。

項目	回答数(人)
■ 参加したい	55
■ テーマによっては参加したい	21
■ 参加したくない	1
■ 無回答	2



※興味深い催しのアイデア

- ・ワークライフバランス
- ・パワハラについて
- ・企業管理職向けの内容であれば。
- ・サイボウズ（青野社長）などワークライフインテグレート（ワーク・ライフ・インテグレーション）を実践している企業の話。
- ・管理職より下の職位の方の話も聞いてみたいです。
- ・企業での働いてきた方の実体験を通しての内容

4. どのような人の話を聴きたいですか。（複数回答可）

項目	回答数(人)
大学関係者	10
企業関係者	67
行政関係者	17
その他	1

※具体的に

- ・秋山咲恵

5. その他、感想やご意見、今後行ってほしい企画など、ご自由にお書きください。

- ・質疑応答のお話しが特に印象に残る、一つひとつに真剣に向きあう方であることが伺い知れた。
- ・管理職とは？を回答して頂ける内容でありためになった。
- ・岐阜県健康福祉部の方が参加されていたので、岐阜県の取り組みがききたいです。
- ・色々な方のセミナーを聞いたみたいと思いました。
- ・女性の活躍は必要であると思うが、何故少ないのか、自分でも分析してみたい。
- ・ありがとうございました。今後増える女性管理職のお話を拝聴したいと思います。
- ・男女問わず、若手（30代まで？）にも意欲的になれる企画をお願い致します。できれば短時間だとありがたいです(1時間程度)

4-3. キャリアパス支援講演会およびロールモデル講演会

キャリアパス支援講演会

【演 題】個別化治療を目指した新薬”アレクチニブ“の研究開発
ーダイバーシティ実践による製薬企業での夢の追求ー

【講 師】青木 裕子 氏

(エーザイ (株) 癌領域ポートフォリオマネジメント部
シニアディレクター)

【日 時】2019 (平成 31) 年 2 月 1 日 (金) 15:00~16:30

【場 所】岐阜薬科大学本部 第二講義室

【参加者数】106 名 (うち女性研究者 10 名)

岐阜薬科大学 97 名、岐阜大学 1 名、岐阜女子大学 2 名、
アビ株式会社 6 名



講師は、大学時代に“個別化治療”について学んだことから、その有用性に惹かれ、個別化治療の実現に関わる仕事に携わりたいという目標を持った。その夢を持って創薬・開発を続け、肺癌の新薬を世に送り出すことができたという。本講演会では、その薬剤開発に関する企業の視点や、開発時の話をデータを示しながら話をしていただいた。

大学院薬学研究科を修了後、製薬会社である Hoffmann-La Roche の研究所に就職し、新薬の創製・開発に携わった。そこでは様々な知識が必要とされ、学生時代に化学、物理学、生物学などの幅広い分野の学問を学ぶことができたことのありがたみを痛感したという。自分の専門ではない分野も理解できるということが、本当の意味でのチームワークと創薬の生産性に繋がるとの考えを示された。

研究から開発・申請承認に至るまでには様々なプロセスが必要で、国内に限らず海外チームとの連携も欠かすことのできない重要な要素であった。そこでは自身が女性ということもあり、実

に多様な方々との議論・連携が功を奏したということであった。

学生の中には現在取り組んでいる研究課題と関連させて聴講していた者もあり、質疑応答時には積極的に質問をする姿も見受けられた。

当時はまだがん領域の個別化治療の市場は小さく、新薬開発の成功率は非常に低いものである。企業は収益高上が求められる中、利益が見込まれないと考えられていた薬剤の開発をどのように



進めてきたのか、あきらめることなく続けてこれたのはなぜかという質問があった。これには、個別化治療には将来に有用性があること、また患者数を全世界的に見て理詰りで上層部を説得したという話であった。

研究に関する話の後、講師のキャリアパスについてお話しいただいた。結婚、出産、介護と経験されながら、研究部長などの管理職にも就任されてきた。

<製薬企業の研究者として気を付けてきたこと>

“創薬”のみを目標とした。すなわち、仕事は”研究“や”出世“のためとはしなかった。

創薬はチームワークである。チームワークを醸成するためには、①女性であることに甘えない、②仕事を一緒にするメンバーのモチベーションをいちばんに考える（性別・部署・ポジション・地域／国を意識しない）、③創薬リーダーとしての役割を果たすために、自分のプロフィール（博士号、ポジション、英語能力など）を長期的に作る、④前職について自分からは話さない、ということ意識して努めてきた。



特に、博士号を持たないと外国では相手にしてもらえないという話もあった。また現在も海外出張を多くこなしているという。英語力向上については、最初の勤務先であるロシュの時代、会社の制度を利用して語学留学をしたそうである。自分から積極的に取り組む重要性も伝わったと思われる。

新薬開発という成果を上げた後、確かに昇進や昇給はあったそうである。ただより長く創薬に携わりたいという希望もあったところ、折よく声がかかった現在の企業に転職したということであった。

今回の講演会では学部生が多く聴講していた。卒業後のキャリアパスがイメージしやすかったのではと思われる。企業研究者のロールモデルを知ることができ、また自分の現時点の課題や、今後に向けて取り組むべきことなど、具体的に考えることができる有意義な機会となったと思われる。

【アンケート結果】

回答数：76 名（71.7%）

2. 本日のロールモデル講演会についてお答え下さい。

項目	回答数(人)
1. 非常に有意義だった	24
2. 有意義だった	50
3. あまり有意義ではなかった	0
4. 有意義ではなかった	0



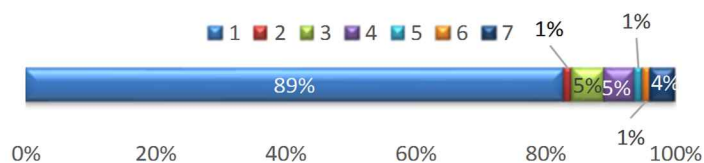
3. 2でそのように答えた理由を教えてください。（自由記述）

- ・ 非常に興味深かったため。（1）
- ・ たくさんのスライドを使ってとてもわかりやすかったから。
- ・ 先端の研究についてわかりやすく講演いただき勉強になった。
- ・ 研究および臨床開発、臨床試験にしっかり重点を置いたものだったため。
- ・ 創薬における非常に深い部分の話を聞くことができた。
- ・ 薬の開発について詳しく知ることができて良かった。
- ・ 創薬プロセスを知ることができ勉強になりました。
- ・ 女性としての働き方としてとても参考になりました。
- ・ 創薬について知ることができた。
- ・ 創薬が常に競争におかれていることがファイザーとの話からわかりやすかった。世界的な臨床試験の傾向（Phase II の段階での承認も認める。あらかじめ遺伝子のスクリーニングを行うなど）を知れた。
- ・ 創薬の過程で注目してきた事柄や他社の動きなどを知ることができ、企業同士の競争の中で新薬を開発する流れを具体的に知ることができたので、とても興味深かった。
- ・ 薬、企業、新薬開発の一連の流れがよくわかったため。
- ・ がんについて詳しいお話を聞くことができた。
- ・ 現在の癌治療の現状をきくことができたため。
- ・ 途中から自分のやっている研究内容と（EP 的に）似ているところがあり、分かりやすかった。
- ・ 現場での開発の話が聞けたので興味深かった。
- ・ 新薬の研究開発過程を知ることができたため。
- ・ 研究内容を細部まで知ることができたから。
- ・ 貴重なお話をいただき、ためになった。
- ・ 研究職に興味があり、どのような点に着目し、創薬につなげていけるのかをお話ししていただけてよかった。

- ・ 本邦で発見された標的遺伝子に対し本邦で創薬を達成したストーリーに感銘を受けました。
- ・ 低分子創薬なので分かりやすかった。
- ・ がん治療に対する創薬の大きなストーリーがわかってよかった。
- ・ 分子標的薬の開発までの流れをきくことができておもしろかった。
- ・ がん治療について現状、今後の課題が考えられた。
- ・ これからもっと重要になっていくであろう個別化医療について詳しく聞くことができた。
- ・ 臨床研究における詳細なお話を聞くことができ、どのように進めていくかということがよくわかった。
- ・ 具体的な話が聞けてよかった。
- ・ 企業志望なので
- ・ 経験、体験を通しての研究内容であった。
- ・ 自分の研究している分野に近いので。
- ・ 女性が活躍しているモデルになるので。
- ・ 貴重なお話をたくさん聞くことができ興味深かったから。
- ・ なかなか聞けないような興味深い話が聞けた。
- ・ エビデンスが多く示されたこと。パワーポイントの作り方が参考になりました。
- ・ がんの個別化医療について専門的な研究を行っている方の話が聞けて勉強になったため。
- ・ 企業の研究者としても成功した方の話を初めて聞けたから。
- ・ 具体的な研究の話が聞けて興味深かった。
- ・ 普段の授業では学べないことを学べたので有意義でした。
- ・ 研究計画について知ることができた。
- ・ P2→P3 がスキップできる事例があること。
- ・ 創薬を実際に行っている人の話はなかなか聞けないので。
- ・ 自分の研究に関連した内容だったから。
- ・ 個別化医療の現在と今後の課題について興味深いお話を聞くことができたから。
- ・ 創薬をどのようにしているのか知ることができた。
- ・ 実際の研究をくわしく知れてよかった。
- ・ 企業での働き方について、イメージを持つことができた。
- ・ 肺がんの診断薬でがん種が 1 対 1 では分からないことが分かりましたが、これは逆に考えると、まだまだがん診断は発展していくことが可能であるということなので、期待がもてました。
- ・ 丁寧なスライドでお話を聞けて、とてもわかりやすかったです。
- ・ 私はがん治療について一番興味があり、これからの治療に対する期待として挙げられていたがんになる前からの治療に私も携わっていきたいと思ったためです。
- ・ 授業で抗がん剤の話は勉強したが、その開発の裏側や道のりを知ることができ、勉強になった。また開発の流れを知り、自分のモチベーションにもつながったと思う。

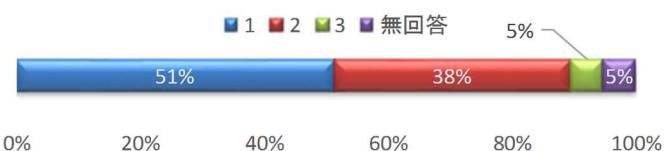
4. 今回のロールモデル講演会の開催をどのように知りましたか。(複数回答可)

項目	回答数
1. 岐阜薬科大学からの案内	68
2. ポスター等の掲示物	1
3. eメール	4
4. 関係者から聞いた	4
5. プロジェクト通信	1
6. ホームページ	1
7. その他	3



5. 今後もこのような催しに参加したいと思いますか。

項目	回答数
1. 参加したい	39
2. テーマによっては参加したい	29
3. 参加したくない	4

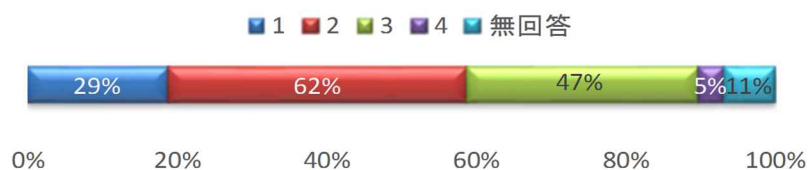


「テーマによっては参加したい」と答えられた方はどのようなテーマなら参加したいですか。

- ・ 今回のようなテーマ（新薬の開発、臨床試験）
- ・ 臨床に関わる話
- ・ 興味をもつようなテーマ
- ・ 化粧品のような、薬というより医薬部外品の開発について聞きたい。
- ・ 分子研究所長 川合真紀氏
- ・ 企業などの研究テーマ
- ・ がん、難病
- ・ ダイバーシティの面からのテーマ
- ・ 病棟薬剤師が実際に行っている（行った）研究について。
- ・ 薬剤師、公務員
- ・ 薬剤師免許をもった公務員の話

6. 今後、どのような人の話を聞きたいですか。(複数回答可)

項目	回答数
1. 大学関係者	22
2. 企業関係者	47
3. 行政関係者	36
4. その他	4



その他

- ・病院関係者
- ・病棟薬剤師

7. 具体的に話を聞きたい人がいれば、名前を書いてください。

- ・製薬企業の女性開発職の方
- ・ノーベル化学賞受賞者
- ・瀬名秀明、深井良祐
- ・がん専門薬剤師

8. その他、感想やご意見、今後行ってほしい企画など、ご自由にお書きください。

- ・とても貴重な講演でした。
- ・講演はスライドもあり何とか理解できたが、質疑応答は聞きとるのが困難でした。
- ・岐阜の企業や行政関係にはどんな会社や仕事がありどのようなことをしているのかをもっと聞きたい。
- ・講演者の声が聞こえにくかった。せっきくの内容が十分聞けなかった。マイク、ボリュームを考えて頂きたかった。
- ・音量が小さく聞くとりにくい部分があった。

ロールモデル講演会

【演 題】女性研究者・医療職として等身大で生きる ～ワークライフバランス～

【講 師】錦織 淳美 氏（岡山大学病院薬剤部・薬剤師、Pharm.D.）

【日 時】2018（平成 30）年 10 月 9 日（火）13：00～14：30

【場 所】岐阜薬科大学本部 第二講義室

【参加者数】90 名（うち女性研究者 3 名）

岐阜薬科大学 87 名、岐阜女子大学 1 名、アピ株式会社 2 名

講師は岐阜薬科大学卒業生であり、卒業後にアメリカのフロリダ大学薬学部にて臨床薬剤師の学位である Doctor of Pharmacy（Pharm.D.）を取得した経歴を持つ。現在は大学病院の薬剤師であるが、調剤や服薬指導などを行う薬剤師業務だけではなく、研究活動、大学講義で教壇に立つなど、幅広く活躍されている。

まずは医療人が行う研究について、講師が行っている研究の概要紹介された。病院薬剤師でありながら科研費も取得しており、その研究内容についても紹介があった。業務中に疑問に思うことが研究課題になると言われた。

次に、一昨年、アリゾナ州ツーソンメディカルセンター病院において、退院後フォローアッププログラムの電話カウンセリングシステムの見学・研修に参加されたため、その内容の紹介があった。アメリカでは、退院後 1 ヶ月以内に再入院するとその医療費について医療保険から支払われないことになっているため、このシステムを考案・導入されており、アメリカらしい制度と実感したそうである。

また、昨年はニュージーランドや岡山大学の海外派遣プログラムによりフィリピンの薬局に研修に行き、実地で多くのことを学んだと話された。

3 つ目のテーマとして、岡山大学病院で一昨年度より取り組んでいる「保険薬局薬剤師向けのシミュレーション教育」の開発について、実際の映像もまじえて紹介していただいた。医師や看護師と共通言語、つまり専門用語を理解して医療現場で薬剤師として任務を全うすべく、研修プログラムの構築に取り組んでいるということであった。

最後に、ワーク＆ライフ・バランスのとり方について、講師の実経験にもとづき話していただいた。岡山大学の取り組み、さらに今後の目標についてお話しいただいた。家庭（プライベート）と仕事のバランスをとり、そのために家族や友人の協力を得たり、仕事の選択（在宅でできる業務）を行ってきたりした。気力、体力、公私ともに時間を確保し自分の中で優先順位をつけてバランスをとり、志を維持していくことの重要性をお話しいただき、学生や研究者にとって励みになるものであったと思われる。



まとめとして、研究者として続けていくために重要なこととして、研究マインド（疑問点や問題点の抽出、気力の維持）、チームの協力、情報収集・推進力と時流を感じるアンテナを常に立てていること、を挙げられた。また、自身のキャリアに特性を見つけて伸ばしていく努力を惜しまない重要性も述べられた。

病院薬剤師として働く講師の話聞き、薬剤師としての業務、研究者としての取り組み、大学教員としての講義内容など、様々な業務について紹介いただき、大学病院勤務の薬剤師の姿を具体的に知ることができた。また、結婚、出産などライフイベントの話だけではなく、仕事に取り組む姿勢について多く話していただき、学生にとっては今後の人生設計において大いに参考になる有意義な講演会であった。

講演会後には、講師を囲んで直接質問をする場を設けたところ、6人の女子学生の参加があった。海外留学や海外での仕事、モチベーションの維持について具体的に話をしていただき、学生の意識向上や励みになったと思われる。



【アンケート結果】

回答数：44 名（回答率 49%）

2. 本日のロールモデル講演会についてお答え下さい。

項目	回答数（人）
1. 非常に有意義だった	15
2. 有意義だった	28
3. あまり有意義ではなかった	1
4. 有意義ではなかった	0



3. 2. でそのように答えた理由を教えてください。（自由記述）

- ・ 薬剤師としてはたらく上でのワーク＆ライフについてきけたのが非常によかった。
- ・ 病院と薬局の連携の仕方について聞いたのが初めてで、確かに診断名が分からない状態で指導と言われても、適切な服薬指導が行われてないのはその通りなので、今回でた岡山の連携の仕方を行っていない病院などに就く場合、自分が主体となって動きたいと思わせていただけたからです。
- ・ 病院薬剤師の方でも育児休暇制度が整っており、現場復帰に力を入れられていることを知ることができたので。
- ・ 女性なのでライフイベントがいろいろあり心配だったが、とても参考になった。
- ・ 服薬アドヒアランス評価について学ぶことができたから。
- ・ 薬剤師として病院でどのように、どのような研究をしているのかをわかりやすくお話してくれて、とても興味深かった。
- ・ 実際に海外研修に行かれた方のお話をきけてよかった。
- ・ 病院薬剤師の研究者がどのように研究を進めているのか、患者を相手にする研究の難しさなどが聞けたから。
- ・ 海外での薬剤師業務が興味深かった。
- ・ 海外での医療現場や取り組みがわかってよかった。
- ・ 海外への研修の話がおもしろかった。日本と同じような状況で、違った方法による問題解決策をしていて興味深かった。また岡山大学での勉強も岐薬のものと異なり、新鮮だった。
- ・ 人生の設計に役立った。
- ・ 留年歴や結婚等で自分のキャリアを望むことはおそらくできないと思っていたので、もう少し自分の薬学を経たライフバランスを考えてもいいように思えたから。
- ・ 働く女性の話が聞けたため。
- ・ 病院薬剤師の現在の状況についてよく知れたから。
- ・ 最近卒業後の生活について考え始めていたので、女性目線でのワーク＆ライフバランスの話

が聞けて良かった。

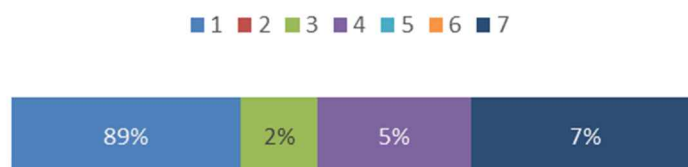
- ・ 病院での研究について知ることができた。また、外国の薬剤師の事情について知ることができて、興味深かった。
- ・ Pharm.D.に興味があったので、実際にそれを取得された方のお話を聞けたから。
- ・ ワーク&ライフまで話していただけた。
- ・ 実際に行った研究とその結果を聞いてわかりやすかった。海外の例は、日本とのメリットデメリットを比較して、特徴をつかめたのでよかった。
- ・ 実際に、現場の薬剤師さんのお話をきけて、将来的に自分がどのような事を行うのが明確になったため。
- ・ 現場の薬剤師の生の声が聞けた。
- ・ 日本だけでなく、海外ではどのようなことが行われているのかを知ることができたから。
- ・ 病院で実際に行われている心臓リハビリや、海外ではどのようなことが行われているのかなど、貴重なお話を聞けたから。
- ・ 病院で薬剤師がどのような研究を行っているか分かったから。また、将来育児、出産を行う際にどのようなサポートが必要かよく分かったから。
- ・ 臨床研究についての大学病院での研究の話がきけた。
- ・ 知らなかったことを知ることができた。
- ・ 育児もキャリアも両立されている方のお話を聞けるのは貴重だったため。
- ・ 結婚・出産をしてからも仕事との両立ができることが具体的な話を聞けて、とてもためになりました。
- ・ 海外での話を含め、貴重なお話を聞けた。
- ・ 病院薬剤師がどのような研究を行っているのかを少し知ることができた。
- ・ 自分が将来進むと思われる方向に近かったから。
- ・ ライフイベントによって働き方が変化する女性の働き方を知れてよかった。海外の薬剤師について知れてよかった。
- ・ 医療従事者同士の連携について、具体的なれ鶴を加えて話して下さり、理解を深めることができました。また、海外の体制についてやワーク&ライフについての実体験を交えた話はとても興味深かったです。
- ・ 海外(アリゾナ)での退院後の指導に関する話が興味をもてたため。
- ・ 女性としてのライフイベントと両立する仕事を考えているので、その点は有意義だった。ただ、年齢(タイミング)についても気になっていて、何歳くらいまで何を優先したらいいのかアドバイスがほしかったです。
- ・ 薬剤師でない自分ですが、非常に参考になった。しかし専門用語の意味が理解しにくかった。
- ・ 日本と医療費の体制が異なることから、予防医療が発達しているアメリカにおける退院後フォローアッププログラムの話が興味深かった。
- ・ シリーズものの研修の3回目の講演であったが、毎年内容の更新が行われ、具体的でいいね

いな話で学生にとっても有意義であろうと思われた。

- ・ それぞれお話にナンバリングされていたが、あまり伝えたいことが伝わってこなかった。もっと短くまとめてほしい
- ・ ワーク&ライフバランスがしっかりしていないのに、働けと言われても不快な気しかなかったです。

4. 今回のロールモデル講演会の開催をどのように知りましたか。(複数回答可)

項目	回答数
1. 岐阜薬科大学からの案内	39
2. ポスター等の掲示物	0
3. eメール	1
4. 関係者から聞いた	2
5. プロジェクト通信	0
6. ホームページ	0
7. その他	3



5. 今後もこのような催しに参加したいと思いますか。

項目	回答数
1. 参加したい	27
2. テーマによっては参加したい	14
3. 参加したくない	3



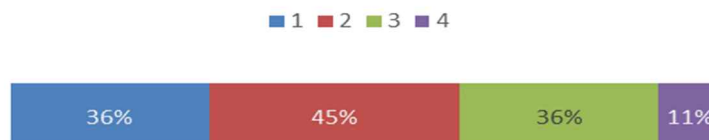
「テーマによっては参加したい」と答えられた方はどのようなテーマなら参加したいですか。

- ・ 研究者（特に女性）
- ・ 医薬品開発、そのプロセス、成果
- ・ 医薬品の安全性
- ・ 薬学部の女性の学生は将来どのような活躍の場があるのか（病院、企業など）。またその活躍の場において、ライフイベントが発生した際、どのように対応し乗り越えたのか？これはライフイベントに案化している男性の方の話でも可。
- ・ 医療データネットワーク化の実情がわかってよい。A I時代の薬剤師の役割に関する解説など（次年度のテーマとして）
- ・ 精神のスペシャリストの話
- ・ 開発に携わる女性の話
- ・ 病院薬剤師関係（2）

- ・ 海外の事情についてもっと知りたい。
- ・ 海外の薬学部教育、薬剤師に関することが含まれていれば。
- ・ 海外での経験をまじえたお話。
- ・ 医療関係のテーマ（１）

6. 今後、どのような人の話を聞きたいですか。（複数回答可）

項目	回答数
1. 大学関係者	16
2. 企業関係者	20
3. 行政関係者	16
4. その他	5



その他

- ・ 医師
- ・ 専門薬剤師
- ・ 病棟薬剤師

7. 具体的に話を聞きたい人がいれば、名前を書いてください。

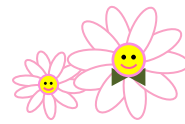
- ・ 本庶佑氏

8. その他、感想やご意見、今後行ってほしい企画など、ご自由にお書きください。

- ・ 海外で働いている人のお話とかきく機会が欲しいです。
- ・ 岐阜薬科の学生ですが、事前にテーマを教えてほしかったです。授業の延長でぬるっと始まったので、心の準備ができていませんでした。
- ・ 実体験を交えたお話でとても興味深い内容ばかりでした。今まで知らなかった制度や現状を知ることができ、自分の将来を考えるうえでとても参考になる講演でした。

4-4. ニュースレターの刊行

本事業内容を紹介するとともに必要な方々に広く本事業を活用して頂けるように、岐阜大学男女共同参画推進室のニュースレター「かもみーる通信」を毎月1回の頻度で発行している。2018年10月には第100号を発行した。今後も学内外の読者に対して岐阜大学および共同実施機関における女性研究者支援を中心とした各種取り組みに関する情報を積極的に発信して行く予定である。



CONTENTS

- * 男女共同参画推進室ご紹介
- * サイエンス夢追い人育成プロジェクト
- * ワーク・ライフ・バランス
- * カモミール月暦
- * メンター制度
- * 保育園たより

男女共同参画推進室ご紹介

新年度、興戸律子さん、魚住郁子さん、古山浩子さん、上田浩司さん、落合絵美さん、5名の新室員をお迎えしました。事務局は、早野美里 職員育成課長、加藤一郎 男女共同参画係長、カモミール・カフェの松居容子さんが、引き続き担当して下さいます。皆さん、どうぞよろしくお願い致します。

男女共同参画推進室員



林 正子
副学長・室長
地域科学部 教授
— 担当 —
総括
地域連携、大学連携



興戸 律子
教育学部 助教
— 担当 —
WEBサイトの運用
学生コミュニティ構築



松尾 幸忠
地域科学部 教授
— 担当 —
研究補助員配置制度



森田 浩之
医学系研究科 教授
— 担当 —
障がいのある構成員への
支援、フォーラム



魚住 郁子
医学部看護学科
准教授
— 担当 —
英文校閲
学生コミュニティ構築



古山 浩子
工学部 准教授
— 担当 —
学生コミュニティ構築
サイエンス夢追い人
育成プロジェクト



椎名 貴彦
応用生物科学部
准教授
— 担当 —
学生コミュニティ構築
サイエンス夢追い人
育成プロジェクト



加納 亜紀
保健管理センター
助教
— 担当 —
研究補助員配置制度
メンター制度
生涯支援



魏 永芬
流域圏科学研究センター
准教授
— 担当 —
外国籍構成員への支援



上田 浩司
人材開発部長
— 担当 —
研究補助員配置制度
岐阜大学基金の運用
女性管理職の比率向上



落合 絵美
特任助教
— 担当 —
コーディネート全般
各種相談対応

男女共同参画推進室

WEB
<http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>
E-mail
sankaku@gifu-u.ac.jp



カモミール月暦 (室長からのメッセージ)

副学長(多様性人材活力推進担当) 林 正子



「清流の国 輝くギフジョ」支援プロジェクト」中間評価結果

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境イニシアティブ(連携型)」(2015年度～2020年度)「地域循環型女性研究者育成・支援プログラム」を開始して、早くも3年近くの月日が経過しました。6年の事業期間の折り返し地点を迎えたことになります。

昨年2017年11月1日(水)には、JST東京本部にて「中間評価のためのヒアリング」を受け、この度、**総合評価 A**(所期の計画と同等の取組が行われている)(目標達成度:b 取組:a 取組の成果:a 実施体制:a 今後の進め方:a)との通知が、文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課よりありました。

岐阜大学・岐阜薬科大学・岐阜女子大学・アピ株式会社、4連携機関の多様な設置主体(国立・市立・私立・民間企業)の特長を活かし、「清流の国 輝くギフジョ 支援プロジェクト」と称する本事業について、「**代表機関(岐阜大学)のリーダーシップの下、女性研究者の活躍促進を図る先駆的な取組を広く地域に普及させたことは評価できる**」との「評価コメント」をいただいた次第です。

具体的には、「**連携型共同研究プロジェクト支援制度**」を構築し、女性研究者が代表である**36件の共同研究**の成果として、新たな**競争的研究資金**や**特許**の獲得、**昇任人事**を実現したことや、アピ株式会社や平成調剤薬局など民間企業での「**女性研究者インターンシップ**」を実施したことが称揚されています。併せて、岐阜大学における**女性限定公募**の実施、工学部「**多様な人材参画推進室**」の設置、**保育園**の拡充、**病児・病後児保育**の実施等も高く評価されています。

しかしながら、現時点では、女性研究者在職比率、上位職比率の数値目標について、岐阜女子大学以外の3機関では未達であり、**女性研究者の採用・昇任に向けた実効性の高いポジティブ・アクション**の実施が求められています。この課題について、岐阜大学では、昨年度設置された「教育研究院」にて女性および若手教員の雇用促進に資する人事を優先的におこない、岐阜薬科大学では非常勤の女性教授を新たに雇用し、アピ株式会社では公募における女性の応募者獲得に力を注ぐことになっています。在職比率の数値目標を達成している岐阜女子大学では、研究力向上の課題に継続して取り組んでゆきます。

文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課からは、今年度より事業期間終了までの3年間は、「**自主経費による補助事業期間**」として、「**自主的に事業の発展や見直し等の改善**」を進め、「**より積極的な自立的運営を促進**」するよう求められています。

「**今後は、これまでの連携機関の円滑な協力関係をさらに発展させ、所期の目標達成に邁進することを期待する**」との「評価コメント」を受け、4連携機関が従来の連携力をより強化し、女性研究者の育成・支援に係る諸課題を克服するとともに、「地域循環型」事業の成果を挙げてゆくことを願ってやみません。構成員の皆さんはじめ、関係の方々のご支援ご協力、引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

サイエンス夢追い人育成プロジェクト

(女子大学院生による出前講義)

女子大学院生の皆さんに、県内の中・高等学校で自らの研究内容とこれまでの進路選択の経緯をお話ししていただいているこのプロジェクトでは、目下、出前講義をしてくださる女子大学院生を募集しています。講師として参加すると、学会発表などにも役に立つプレゼンテーション能力を修得でき、自分の経験を振り返ることにより自身の研究の社会的意義を再認識できます。

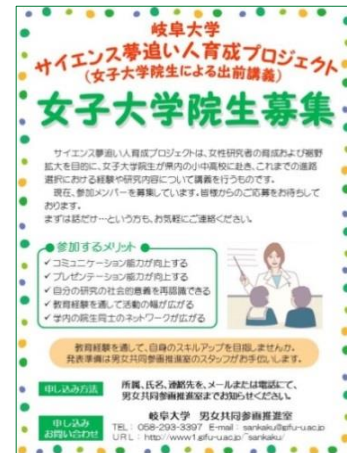
ランチタイム カモミール・カフェ

—出前講義説明会開催—

日にち： 4月25日（水）
時 間： 12：10～12：50
場 所： カモミール・カフェ
(大学会館2F 生協中央店前)

昼食をご持参
ください♪

みなさまのご参加をお待ちしています。



メンター制度

(カモミール・キャリアアシスト制度)

男女共同参画推進室では、女性研究者および研究者を目指す女子学生が生活上、学業上、進路選択上の悩みを抱えた際に、同様の経験を乗り越えてきた先輩研究者（メンター）に相談できる環境を提供することで、女性研究者の育成および研究者としてのキャリア形成を支援しています。

利用対象者

本学に在籍する女性研究者（教員、医員、研修医、研究員）、女子大学院生、研究者を志望する女子学部生。（男性の研究者、大学院生、学部生で利用を希望する場合についてはお問い合わせください。）

利用方法

1. カモミール・カフェ（内線 3397）に利用をお申込みください。
2. カモミール・カフェにて、コーディネーターがメンター 制度の説明および相談内容をお聞きします。
3. 相談内容からコーディネーターがメンターを選定・紹介し、相談日程を調整し、ご連絡します。相談場所はカモミール・カフェ、日時は平日の9：00～17：00の時間帯となります。
4. 当日、カモミール・カフェにてメンターと面談をおこないます。

- ☆ 1回の面談は30分から1時間程度です。
- ☆ 個別面談の他、グループ面談も受け付けます。
- ☆ 2回目以降はメンターと相談の上、面談の日程と場所を決めていただきます。
- ☆ E-mail、電話での相談については情報の管理方法や相談可能時間についてメンターとよくご相談ください。
- ☆ 悩みが深く体調不良が生じている、セクハラやアカハラ相談等学内の他の相談窓口が適切である場合には、対応できないことがあります。学内外の適切な相談窓口をご案内する場合があります。
- ☆ 秘密は厳守されます。

本制度は、平成22年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業の本学の提案課題「多様な活力発揮に向けての女性研究者支援」の一環としてスタートし、現在も継続して取り組んでいるものです。

ワーク・ライフ・バランス

仕事と生活の調和とは

仕事は、暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらすものですが、同時に、家事・育児、近隣との付き合いなどの生活も暮らしに欠かすことができないものであり、その充実があってこそ、人生の生きがい、喜びは倍増します。しかしながら、現実の社会には、安定した仕事に就けず、経済的に自立することができない、仕事に追われ、心身の疲労から健康を害しかねない、仕事と子育てや老親の介護との両立に悩むなど、仕事と生活の間で問題を抱える人が多く見られます。これらが、働く人々の将来への不安や豊かさが実感できない大きな要因となっており、社会の活力の低下や少子化・人口減少という現象にまで繋がっていると言えます。それを解決する取組が、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現です。

仕事と生活の調和が実現した社会

(1) 就労による経済的自立が可能な社会

経済的自立を必要とする者、とりわけ若者がいきいきと働くことができ、かつ、経済的に自立可能な働き方ができ、結婚や子育てに関する希望の実現などに向けて、暮らしの経済的基盤が確保できる。

(2) 健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会

働く人々の健康が保持され、家族・友人などとの充実した時間、自己啓発や地域活動への参加のための時間などを持てる豊かな生活ができる。

(3) 多様な働き方・生き方が選択できる社会

性や年齢などにかかわらず、誰もが自らの意欲と能力を持って様々な働き方や生き方に挑戦できる機会が提供されており、子育てや親の介護が必要な時期など個人の置かれた状況に応じて多様で柔軟な働き方が選択でき、しかも公正な処遇が確保されている。

仕事と生活の調和の実現は、一人ひとりが望む生き方ができる社会の実現にとって必要不可欠です。自らの仕事と生活の調和の在り方を考えてみませんか。

(内閣府男女共同参画局WEBサイトから)

保育園たより

3月3日

ひな祭り会

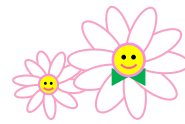


岐阜大学男女共同参画推進室（人材開発部職員育成課男女共同参画係） URL：http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL：058-293-3378 FAX：058-293-3396 E-mail：sankaku@gifu-u.ac.jp

*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。

かもみーる通信



95号

2018年5月

CONTENTS

- * 新室員ご挨拶
- * ランチャタイム カモミール・カフェ
- * 室員インタビュー
- * カモミール月暦
- ～サイエンス夢追い人育成プロジェクト～
- * 保育園たより

新室員ご挨拶

興戸 律子 教育学部附属学習協創開発研究センター 助教

今年度より男女共同参画推進室の室員を拝命いたしました。私自身は、育児休業もない時代でしたので、家族の協力、職場の理解を得て続けることができました。さらに働きやすい職場環境となることを願い、微力ですがお手伝いさせていただきます。よろしくお願いいたします。

魚住 郁子 医学部看護学科 准教授

4月より、男女共同参画室室員を務めさせていただくことになりました。私自身、看護の仕事をしてながら、2人の子供を育て一息ついたと思いきや、現在は同居の実母の介護に日夜忙しくしております。職場の理解をいただいてなんとか、仕事と介護を両立しております。高齢社会を迎え、様々な状況の中ですべての人がイキイキと仕事ができるよう、微力ながらお手伝いできれば幸いです。よろしくお願いいたします。

古山 浩子 工学部化学・生命工学科 准教授

4月から男女共同参画室の室員を拝命いたしました。これまで教育研究活動だけに従事してきましたが、今回、懐妊したことからはじめて本推進室の取り組みに関心を抱きました。林室長および室員の先生からご教授をいただき、微力ながら役目を果たしたい所存です。

落合 絵美 男女共同参画推進室 特任助教（コーディネーター）

4月より男女共同参画推進室の特任助教として着任しました。学生、教職員ほか岐阜大学に関わる皆様にとって有意義な事業を展開していきたいと思っておりますので、ご意見・お問い合わせなどいつでもお寄せください。男女共同参画推進室（カモミール・カフェ）でお待ちしております！

上田 浩司 人材開発部長

本年4月1日付で人材開発部長を拝命しました。前職は大阪教育大学で総務部長をしておりました。歴史と伝統ある岐阜大学で勤務できることを非常に光栄に思っております。林室長及び室員の方々のご指導を賜りつつ、本学の男女共同参画推進に取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

カモミール月暦（室長からのメッセージ）

副学長（多様性人材活力推進担当） 林 正子

「かもみーる通信」93号（2018年3月）において、「**多様な人材参画推進室**」設置をはじめ工学部の多様性人材活力推進に係る精力的な活動についてご紹介しましたところ、相次ぐ朗報として入ってきましたのが、**妊娠中の女性研究者を対象**とする「**研究補助員配置制度実施要項**」（2018年4月18日 工学部長裁定）が工学部で独自に制定され、運用が開始されたとのニュースです。

女性限定公募も積極的に実施し女性研究者の活躍を促進している工学部の「研究補助員配置制度」では、「**研究補助員を配置することができる期間は、妊娠中の期間**（産前休暇中を除く。）とし、原則として**週20時間未満**とする。」、「**希望する支援期間の2週間前までに**、研究補助員制度利用申請書（別紙様式1）を学部長に申請するものとする。」というように、想定・計画通りにはゆかない「妊娠」という状況下にある研究者に対して、可能な限りの便宜を図り、手厚い支援をおこなっていることがうかがえます。

これまで岐阜大学では、**男女共同参画推進室**の取り組みとして、育児や介護等と研究との両立支援および研究補助員（研究支援者）のチャレンジ支援・再チャレンジ支援に寄与することを目的として、「**研究補助員配置制度**」

<https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/activity/05.html>

を運用してきました。2014年度からは、申請資格条件を満たす女性研究者のみならず男性研究者の方々にもご利用いただける制度となっています。

具体的には、**育児や介護等により研究時間の確保が困難な研究者の方々を対象**に、研究データ解析、学会発表資料作成、実験補助、文献調査、統計処理等の研究補助業務をおこなう研究補助員を配置し、**育児や介護等と研究との両立を支援**することを目的としています。また次世代育成のために、研究支援者と被支援者双方の**キャリア形成、キャリア復帰等のチャレンジ支援・再チャレンジ支援**に寄与することを趣旨としています。

また、「かもみーる通信」74号（2016年8月）「カモミール月暦」欄でご紹介しましたように、**各部局において育児休業等により欠員が生じた場合**、運営上、さまざまな支障をきたす恐れがあるとともに、産休・育児休業中の職員が業務（自宅からの指示を含む）に従事することは、労働基準法や特別休暇の趣旨にも反することから、**当該部局に対する本部の対応**として、次のような支援策が講じられています。

産前産後休業中の職員には給与（100%）が支給されるが、当該部局では減員となること、職員就業規則において当該期間中の代替職員（常勤）の雇用が認められていることから、人件費相当額を配分するのではなく、**代替職員等の人件費を本部経費で負担**するかたちで、部局への支援をおこなう。

部局において、育児休業等（産休を含む）により減員が生じた場合、当該職員の人件費の範囲内で、

①代替職員（常勤） ②非常勤講師（みなし代替職員） ③非常勤職員（学術研究補佐員、技術補佐員、技能補佐員）（みなし代替職員） いずれかの雇用により支援する（併用は原則として不可。場合によっては、②と③の併用可）。

以上のように、「男女共同参画推進室 研究補助員配置制度」も「教育職員が育児休業等を取得する際の当該部局への支援」についても、予算運用の都合上、付帯条件をなくすことは容易ではありませんが、**岐阜大学の多様な人材の活力発揮に向けて**、さまざまの方策が講じられているところです。今回、工学部の画期的な取り組みをご紹介することで、当該課題に対する構成員お一人おひとりの一層のご理解やご協力が得られれば幸いです。「**働きやすく学びやすい大学**」をめざして、引き続き、皆様のご支援ご協力、どうぞよろしくお願いいたします。

ランチタイム カモミール・カフェ

サイエンス夢追い人育成プロジェクト
(女子大学院生による出前講義) 説明会

4月25日(水)に男女共同参画推進室(カモミール・カフェ)にて「サイエンス夢追い人育成プロジェクト(女子大学院生による出前講義)」説明会を開催しました!

説明会では、男女共同参画推進室の落合絵美コーディネーターが出前講義の趣旨や内容について説明したあと、参加者と意見交換をおこないました。参加者からは、「研究室の先輩から『楽しいよ!』と聞いたので私もやってみたい」「塾で講師をしているけれど、自分の研究についても高校生の前で講義してみたい」などの声が寄せられました。今年度もすでに岐阜県内の高校から続々と出前講義への依頼が舞い込んでいます(例:長良高校、大垣工業高校など)。あなたも出前講義の講師になってみませんか? 講義の準備は教員がサポートします! 今後は出前講義登録者向けの交流イベントも開催していく予定です。で、こちらにも奮ってご参加ください。

ランチタイム カモミール・カフェ —出前講義講習会のお知らせ—

日にち: 5月15日(火)
時間: 12:10~12:50
場所: カモミール・カフェ
(大学会館2F 生協中央店前)

昼食をご持参
ください♪

みなさまのご参加をお待ちしています。

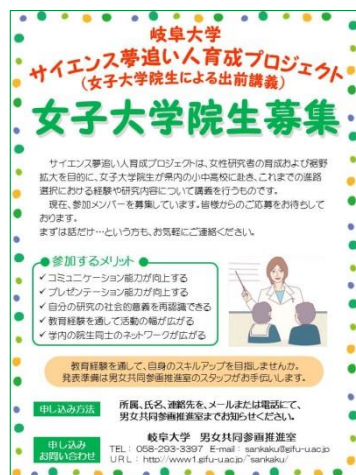
5月15日(火)のお昼休みに出前講義登録者向けの講習会を開催します。講師は教育学部理科教育講座の中村琢先生です。中高生を前に講義する際のコツや注意点などについて教えていただく予定です。出前講義の登録者や出前講義に関心がある人だけでなく、「中高生に講義する際のコツが知りたい!」という方のご参加も歓迎します!

お弁当を食べながらご参加いただけますので、お気軽に男女共同参画推進室(カモミール・カフェ)へお越しください。

お問い合わせ: 内線 3397 sankaku@gifu-u.ac.jp

【出前講義ってなに?】

男女共同参画推進室では、女性研究者の裾野拡大を目的として、岐阜大学の女子大学院生が県内の小中高等学校に赴き、自身の研究やこれまでの進路選択の経緯について講義をおこなう「サイエンス夢追い人育成プロジェクト(女子大学院生による出前講義)」を実施しています。日本における女性研究者比率は先進諸国と比べて低く、なかでも自然科学分野においてその傾向が顕著です。岐阜大学でも女性研究者比率の向上に向けた取り組みを展開しており、出前講義はそのひとつです。そのため、本事業において講師として登録できるのは【岐阜大学に在籍する女子大学院生】に限定しています。



室員インタビュー

「思い込みから自由になること」 医学部看護学科 魚住 郁子 准教授

「室員インタビュー」第1回は、4月から室員に加わってくださった魚住郁子先生に、仕事と生活の調和(葛藤)についてコーディネーターの落合絵美がお話を伺いました。

病院で看護師長などを長年務めた後に「より質の高い看護教育を」との思いから教員としてのキャリアをスタートされた魚住先生。現在は、看護師の抱えるストレスと就業継続の関係について調査・研究しています。

岐阜大に着任して今年で3年目。同居する母親の介護をしながら教育・研究する毎日はまさに「息つく暇もない」ほどの忙しさですが、周囲の人々の理解や支援、そして学生の頑張る姿に勇気づけられる毎日です。

2018年1月に岐阜大学と共同実施機関が開催した「仕事と介護の両立支援セミナー」に参加し、介護を抱えながら働く岐阜大の仲間と交流できたことで「憑き物が落ちた」ように介護サービスを利用することへの罪悪感から解放されたとのこと。そして、仕事と育児や介護を両立するためには「完璧主義を捨てる」ことも大切だと語ってくれました。

【魚住先生からのメッセージ】

「仕事って楽しいですよ。継続しないと見えてこない世界があります。『何とかなる』と思って前向きに『辞めないための方法』を探してみてください。」

【魚住先生の「あったらいいな」】

岐阜大学の教職員や学生が仕事や学生生活、育児・介護などについて情報交換できる交流会



保育園たより



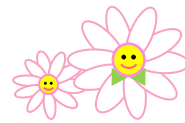
岐阜大学保育園には毎月楽しいイベントがあります。きれいな桜を観察しながらのお散歩、お天気がいい日には砂場で外遊び、外に出られない日でもマットで室内遊び、4/17にはお話し会もおこなわれました!



岐阜大学男女共同参画推進室(人材開発部職員育成課男女共同参画係) URL: <http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL: 058-293-3378 FAX: 058-293-3396 E-mail: sankaku@gifu-u.ac.jp

*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。



CONTENTS

- | | | |
|-----------|--------------------|------------|
| * 連携型共同研究 | * ランチタイム カモミール・カフェ | * 室員インタビュー |
| * カモミール月暦 | * 男女共同参画週間 | * 保育園たより |

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」



連携型共同研究

— 2018年（平成30）度 連携型共同研究助成 採択者決定 —

本制度は、平成27年度に採択された科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」（代表機関：岐阜大学）の一環として、同事業の共同実施機関（岐阜薬科大学、岐阜女子大学、アピ株式会社）および岐阜県内の女性研究者の研究力向上を図り、研究者同士の交流、地域への定着、さらには上位職登用につながるような「地域循環型研究者育成」をめざして実施しています。

2018年度は、すでに実用化段階にある共同研究に対して研究費用を助成するものであり、厳正な審査の結果、今年度は岐阜大学で4件（共同実施機関の合計：7件）の共同研究が採択されました。

柴田早苗准教授（応用生物科学部）

「プロポリスを含む動物用創傷保護剤の製品化に向けた研究」

山根京子准教授（応用生物科学部）

「ワサビの甘味の客観的評価方法の確立」

稲垣瑞穂助教（応用生物科学部）

「授乳と離乳による微生物共生関係の変換点：離乳食開始の指標づくり」

小山真紀准教授（流域圏科学研究センター）

「生きづらさ学研究成果の出版」

※上記は岐阜大学での採択課題。研究代表者名のみ掲載。

2019年2月には採択課題（4機関合計7件）の研究成果報告会が開催される予定です。上記の研究課題に関心のある方や次年度の応募を検討されている方など、多くの方々のご参加をお待ちしております。

カモミール月暦 （室長からのメッセージ）

副学長（多様性人材活力推進担当） 林 正子

— 多様なあり方（LGBT）の支援に向けて —

皆さん、昨年10年ぶりに改訂された岩波書店『広辞苑』第7版における「LGBT」の解説文が訂正されたとの年頭のニュースをご記憶でしょうか。また、著名な経済評論家が同性のパートナーとの同居を公表したニュース、同性愛や同性婚をテーマとするテレビドラマが話題となっている最近の動向に詳しい方々も大勢いらっしゃることでしょう。

『広辞苑』第7版の修正された解説文によれば、「LGBT」とは、

1. レズビアン・ゲイ・バイセクシャルおよびトランスジェンダーを指す語。
2. 広く、性的指向が異性愛でない人々や、性自認が誕生時に付与された性別と異なる人々。

と説明されています。当初は、「多数派とは異なる性的指向をもつ人々」と記述されており、「T」のトランスジェンダーについて、「心と体の性が一致しないことを指すもので、性的指向とは関係がない」と指摘され、上記のような訂正に至ったとされています。

このような「性」の多様なあり方を尊重し、LGBTの支援に取り組む大学や企業が増えています。専任職員と学生スタッフが常駐する早稲田大学「GSセンター」では、LGBTの学生と支援者らが自由に使えるスペースを用意し、プライバシーが保てる相談室の利用者数が1年間に延べ約960人上っているとのこと。また、筑波大学では、改訂版ガイドラインに、カミングアウト後に第三者に暴露される「アウトティング」について、「自死（自殺）」といった最悪の結果を招きかねないことから「ハラスメントとして対処する」とし、ガイドライン末尾には、「**個人が、それぞれに価値ある存在として自らの能力を開花できる真のダイバーシティ（多様性）の実現を目指す**」と明記されています（「岐阜新聞」5月18日（金））。

また、「LGBTフレンドリー」のサービスを提唱する企業も増えており、今年4月28日（土）から5月6日（日）に開催された国内最大級のLGBT関連イベント「東京レインボープライド」には、過去最高の213の企業・団体が協賛し、LGBTの人々がそれぞれの性的指向や性自認に「誇り」をもって生きることが謳われたとのこと（「毎日新聞」5月14日（月））。

去る5月17日（木）に、岐阜県女性の活躍支援センター長の原永子さんと主査の堀川奈美さんが、センターの活動紹介と今後の連携に係る打ち合わせの趣旨でカモミール・カフェを訪ねてくださいました折に、「**岐阜大学LGBTsサークル にじねこ**」 <https://profile.ameba.jp/ameba/gifu-u-lgbt> の話題が出ました。原センター長には、「にじねこ」の活動の記事を目にいただいたとのことで、LGBTの学生の支援に取り組んでいる学生サークルの真摯でのびやかな活動に感銘を受けたとのこと言葉をいただきました。折しも、岐阜県男女共同参画プラザ（OKBふれあい会館）では、LGBTの相談を受け付ける専用電話を岐阜県下で初めて開設したとのこと。

— 岐阜県男女共同参画プラザ LGBT専門相談 —

毎月第3金曜日 17:00～20:00（祝日、年末年始、OKBふれあい会館休館日を除く）
058-278-0858

専用電話で対応している相談員の方々は、NPO法人などでLGBTの知見を積んだメンバーであり、当事者や家族、友人、パートナー、同僚らからの相談に乗り、必要に応じて別の公的機関や民間団体を紹介するとのこと。

一人ひとりがかけがえのない（異なる）存在であるように、多様性を有する性のあり方——。少数者が尊重される社会は、多数者にとっても生きやすい社会になるのではないのでしょうか。男女共同参画推進室・人材開発部職員育成課では、大学構成員一人ひとりにとって「学びやすく、働きやすい大学」となるよう、学生サークルの皆さんとも連携しつつ、この課題にも誠実に向き合っておりたいと願っています。

ランチタイム カモミール・カフェ

サイエンス夢追い人育成プロジェクト (女子大学院生による出前講義) 講習会

5月15日(火)、男女共同参画推進室(カモミール・カフェ)にて「サイエンス夢追い人育成プロジェクト(女子大学院生による出前講義)」登録者向け講習会を開催し、6名の女子大学院生が参加しました。

「高校生への出前講義を考える～出前講義を実施する大学院生の皆さんのために～」と題した講習会では、教育学部理科教育講座(物理学)の中村琢准教授が高校教員だったご自身の経験を踏まえて、高校生に授業する際のコツや注意点について、参加者同士のロールプレイを交えながら講義してくださいました。

参加した女子大学院生は、すでに自分の研究テーマの面白さや意義を相手に伝えられる能力に溢れたメンバーばかりで、有意義で充実した講習会となりました。

今年度の出前講義は7月から順次、実施する予定です。7月には3校(すべて高校)、延べ4名の講師(女子大学院生)が岐阜県下の高校に赴いて出前講義を担当します。その他にもすでに数校から講師派遣の依頼が来ています。

本事業が小中高等学校の児童・生徒のサイエンスへの興味・関心を高めると同時に、担い手である女子大学院生の研究発表を含めた研究・教育スキル向上に資することを願っています。



講師募集中

出前講義の講師になってくださる女子大学院生を募集しています！
関心のある方は、お気軽に男女共同参画推進室までお問い合わせください。

E-mail: sankaku@gifu-u.ac.jp TEL: 058-293-3397

男女共同参画週間

6月23日(土)～29日(金)は、男女共同参画週間です。

(内閣府男女共同参画推進本部決定)

男性と女性が、職場で、学校で、地域で、家庭で、それぞれの個性と能力を発揮できる「男女共同参画社会」を実現するためには、一人ひとりの取り組みが必要です。

私たちのまわりの男女のパートナーシップについて、この機会に考えてみませんか？

走り出せ、
性別のハードルを超えて、今



室員インタビュー

「大学はすべての構成員が成長できる場所」

応用生物科学部共同獣医学科 椎名 貴彦 准教授

室員インタビュー第2回は、男女共同参画推進室の室員になって4年目の椎名貴彦先生にコーディネーターの落合絵美がお話を伺いました。

幼少期から養豚業を営む祖父の姿を見て畜産動物への親しみと生体への関心を持ち、獣医を目指した椎名先生。獣医学科在学中に研究の面白さに目覚めて博士課程に進学し、岐阜大学で研究者としてのキャリアを積み重ねてきました。現在は、食物の栄養を吸収する消化管(食道、胃、小腸、大腸)の運動を制御する神経の役割について研究しています。

椎名先生が農学部(現 応用生物科学部)に着任した頃は、獣医学科(当時)に女性教員が1人もいなかったそうですが、数年前に1人目の女性教員が着任し、現在は女性教員比率が学科全体の2割近くに達するなど、女性研究者が着実に増加傾向にあるとのこと。

ご家庭では、育児と家事をパートナーと分担し、週末は父子でサイクリングや動物と触れ合える場所へお出かけするなど、パートナーと働く時間を調整し合うことでワーク・ライフ・バランスを維持できているそうです。

悩みは夏休みなど長期休暇中の子どもの預け先について。地域の学童施設に入れないため、民間の学童に預けたり大学の研究室で一緒に過ごしたりしながら、去年はなんとか乗り切ったそうです。

【椎名先生からのメッセージ】

職場でしかできない仕事(または自宅でもできる仕事)や細切れ時間の活用など、時間の使い方に敏感になりましょう。そうすることで、小さくても成果(業績)を積み重ねていくことができ、それが「次」につながります。

大学は学生だけでなく教員や職員などすべての構成員が「成長できる場所」。育児や介護などの制約を抱える構成員を支える制度の存在は、サービス利用者の利益にとどまらず多様な人々が参画する社会の形成に役立っており、ひいては社会全体の利益になるのだと思います。

【椎名先生の「あったらいいな」】

小学校の長期休暇中に安心して子どもを預けられる学童サービス



プランターに
お花の苗を植えました。



保育園たより



消防車と記念撮影♪



玉ねぎの収穫も
体験できました。



岐阜大学男女共同参画推進室(人材開発部職員育成課男女共同参画係) URL: <http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL: 058-293-3378 FAX: 058-293-3396 E-mail: sankaku@gifu-u.ac.jp

*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。



CONTENTS

- * カモミール月暦
- * サイエンス夢追い人育成プロジェクト
- * シンポジウム報告
- * 学童保育トライアル
- * 夏休みこどもガイド
- * 保育園たより

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

学童保育トライアル

カモミールこども大学

参加者募集！

開催日：8月23日(木)、24日(金)

時 間：8：45～17：00（8:15～受付開始）

お迎え時間：17：00～17：30（17:30 閉室）

場 所：岐阜大学 大学会館2F 第6集会室、図書館、岐阜薬科大学 薬草園

対 象：岐阜大学・岐阜薬科大学・岐阜女子大学・アピ株式会社に所属する
教職員・社員の子ども（小学生）

参加費：1日2,000円×2日＝4,000円

（材料費、昼食・おやつ代、傷害保険料を含む。納入後の返金不可）

定 員：25名（両日・全行程に参加できる方を優先します）

申込期間：7月2日（月）～7月13日（金）16：00まで

申込方法：参加申込書(G-group)を下記へメール・Faxで提出（持参可）

8月23日(木)

- ◆ 動くおもちゃ作り（岐阜女子大学）
- ◆ みつばち講座
（はちみつ採集・試食体験 アピ株式会社）
- ◆ 岐阜大学図書館 探検ツアー

8月24日(金)

- ★ 薬草園の見学・体験ツアー（岐阜薬科大学）
- ★ マーブルタウン（町づくり・職業体験 岐阜大学）
- ★ 閉校式、集合写真



お申込み：岐阜大学男女共同参画推進室 E-mail：sankaku@gifu-u.ac.jp Fax：058-293-3396

カモミール月暦（室長からのメッセージ）

副学長（多様性人材活力推進担当） 林 正子

「多様性人材活力推進行動計画」の実施状況

—— 第15回 多様性人材活用推進会議 報告 ——

岐阜大学は、「多様な人材」の活躍が大学全体の教育・研究・社会貢献の活力の源泉であるとの認識のもと、「**岐阜大学多様性人材活力推進行動計画**」（2014年11月20日 役員会承認）

<https://www.gifu-u.ac.jp/about/approach/diversity.html> を策定し、構成員の意識改革・環境整備などによって、多様性人材活力推進に係る岐阜大学の理念を着実に実践してゆくことをめざしています。

基本方針にもとづき、ダイバーシティ推進のための企画・立案・実施方針の策定などをおこなう「**多様性人材活用推進会議**」は、学長を議長とし、理事、副学長、学部長、研究科長、センター長、部長、機構代表者、計29名で構成されています。6月14日（水）部局長・部長会終了後に開催された、第15回 多様性人材活用推進会議の議事の一部をここにご紹介しましょう。

「岐阜大学多様性人材活力推進行動計画」にもとづく各部局等の取り組みに関して、すなわち、「大学運営における多様性人材活力の推進」「男女共同参画推進」「外国人構成員の支援と文化的多様性の促進」「障がいのある構成員の支援」「学生・教職員への多様性人材活力推進に関する啓発活動の推進」「地域社会・国際社会との連携を通じた多様性人材活力推進」の各事項に対応する各部局の取り組みに関して、昨年度の実施状況と今年度の実施計画に係る調査結果（各部局からの情報提供）を全学で共有し、実効性のある取り組みを今後の活動に活かすべく意見交換をおこないました。

「多様な人材参画推進室」設置や「研究補助員配置制度」の運用など、工学部の特筆すべき取り組みについては、「かもみーる通信」95号（2018年5月）でもご紹介したところですが、さらに工学部では、当面すべての教員公募にあたり、「**本学では、男女共同参画社会基本法の趣旨に則り、男女共同参画を推進しています。業績や能力などが同等であれば女性を採用する方針であるため、女性研究者の積極的な応募を望んでいます。**」という文面を掲載することを義務づけるなどの取り組みが進められています。工学部とともに応用生物科学部では、**女性教員限定公募による採用**の実績が着実に挙げられていることも、すでに周知の通りです。

さらに、民間からの有識者を病院長特別補佐として登用（附属病院）、障害者枠で非常勤講師を雇用（学務部）、構成員のニーズにもとづく勤務時間シフトの実施（保健管理センター）、妊娠中・育児中の職員に配慮した授業・委員会担当体制の整備（地域科学部）、ノー残業デーの実施（財務部・施設部・学務部等）、外国人構成員に向けてのホームページ英語版の充実・更新（総合企画部等）、障害者用駐車スペース設置（工学部・地域科学部等）、車椅子使用学生のための緊急避難時用エア・ストレッチャーの配置（地域科学部）、人権学習・ジェンダー研究関連授業の充実（教育学部）、県下自治体における男女共同参画推進審議会への委員派遣（教育学部、地域科学部、工学部等）、障害のある学生のサポート体制の構築・運用（障害学生支援室、保健管理センター等）等々、「**多様性人材活力推進行動計画**」に則った**堅実な取り組み**が展開されていることが確認されました。

紙幅の都合で、ここにすべての取り組み内容や成果・実績について挙げることはできませんが、他にも、医学部（医学科・看護学科）では、男女共同参画推進室・人材開発部職員育成課が中心となって開催している意識改革のための各種行事への参加や、研究補助員配置制度をはじめとする環境整備のための諸制度の活用が、構成員に積極的に呼びかけられていることも確認されました。

岐阜大学における多様性人材活力推進に向けて、全部局構成員の意識改革が進み、堅実な実践活動が繰り広げられることによって、「働きやすく学びやすい岐阜大学」が実現することを心より願っています。皆さまのご支援ご協力、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

サイエンス夢追い人育成プロジェクト

(女子大学院生による出前講義)

7月2日(月)、大垣工業高校にて出前講義(第127回)を実施しました。

講師の後藤可南子さん(自然科学技術研究科修士課程2年)が、「私の進路選択一やりたいたいことを一」をテーマに、岐阜大学での研究内容や学生生活のほか、現在に至るまでの進路選択や受験勉強への取り組み方などについて情報技術科の生徒38名を前に熱く語りました。

講義後の質疑応答の時間には、受験勉強のコツや自分の進路希望を親に理解してもらえるように伝える方法など、受験生の「先輩」である後藤さんに対して多くの質問があがりました。出前講義後のアンケートには「研究の面白さに触れることができた」「改めて大学に進学したいと思った」「親に反対されても自分の意志を伝えることが大切だと学んだ」などの感想が寄せられ、生徒の皆さんに多大の刺激と希望がもたらされたようです。



シンポジウム報告

6月30日、お茶の水女子大学にて開催された国際シンポジウム「女性リーダーはいかにして『育つ』か？」にコーディネーターの落合絵美が参加しました。

第1部の基調講演では、野田聖子総務大臣兼女性活躍・男女共同参画担当大臣および陳善美(チンソンミ)韓国国会議員が登壇しました。野田大臣は、日本は先進国のなかで(韓国と並んで)際立って女性管理職比率が低い国であること、このことは国会や市区町村議会に占める男女議員比率においても同様であり、女性議員の少なさが女性特有の課題が議会において取り上げられにくいことにつながっていることを指摘しました。陳議員は、韓国の戸主制度(男性を家族の筆頭者=戸主とする制度)の違憲判決を求める裁判に弁護士として参加したことを通して「人の生活を抑圧する法律を変えたい」との思いから政治家になったこと、2005年に比例代表選挙の候補者名簿の女性割合を50%とするクオータ制度がスタートしたことで女性議員比率が増加したものの依然として国際基準に比べて低位であることなどの報告がありました。

続く第2部では、円より子元参議院議員とヨハンナ・ウッカマン社会民主党常任理事(ドイツ)がパネリストとして登壇しました。円元参議院議員は政党執行部において女性が圧倒的に少ないことや長年取り組んでいる女性政治家養成スクールにおける取り組みについて、ウッカマン社会民主党常任理事は同じ行為をしたときに男女によって評価が変わる(例:権力者に対して異議申し立てをしたとき、男性であれば「勇敢」と評価されることが女性の場合は「ヒステリック」とバカにされる)など、どの報告も政治の世界で女性が活躍することの困難そして将来への希望を感じさせる、若い世代へのエールが込められた内容でした。



夏休みこどもガイド

7月中旬に「働く親のための夏休みこどもガイド」を発行します。

こどもガイドは、G-groupでPDFをダウンロードしてご利用ください。

夏休みに開催される小中学生向けイベントを掲載しています。

岐阜大学									
イベント名	開催日時	開催場所	対象年齢	参加費	申込方法	申込期限	申込先	問い合わせ先	備考
自然体験学習(岐阜県自然体験学習会)	7/10(日)	岐阜県自然体験学習会	小学生	無料	岐阜県自然体験学習会	7/10(日)	岐阜県自然体験学習会	岐阜県自然体験学習会	
自然体験学習(岐阜県自然体験学習会)	7/11(月)	岐阜県自然体験学習会	小学生	無料	岐阜県自然体験学習会	7/11(月)	岐阜県自然体験学習会	岐阜県自然体験学習会	
自然体験学習(岐阜県自然体験学習会)	7/12(火)	岐阜県自然体験学習会	小学生	無料	岐阜県自然体験学習会	7/12(火)	岐阜県自然体験学習会	岐阜県自然体験学習会	
自然体験学習(岐阜県自然体験学習会)	7/13(水)	岐阜県自然体験学習会	小学生	無料	岐阜県自然体験学習会	7/13(水)	岐阜県自然体験学習会	岐阜県自然体験学習会	
自然体験学習(岐阜県自然体験学習会)	7/14(木)	岐阜県自然体験学習会	小学生	無料	岐阜県自然体験学習会	7/14(木)	岐阜県自然体験学習会	岐阜県自然体験学習会	
自然体験学習(岐阜県自然体験学習会)	7/15(金)	岐阜県自然体験学習会	小学生	無料	岐阜県自然体験学習会	7/15(金)	岐阜県自然体験学習会	岐阜県自然体験学習会	
自然体験学習(岐阜県自然体験学習会)	7/16(土)	岐阜県自然体験学習会	小学生	無料	岐阜県自然体験学習会	7/16(土)	岐阜県自然体験学習会	岐阜県自然体験学習会	
自然体験学習(岐阜県自然体験学習会)	7/17(日)	岐阜県自然体験学習会	小学生	無料	岐阜県自然体験学習会	7/17(日)	岐阜県自然体験学習会	岐阜県自然体験学習会	
自然体験学習(岐阜県自然体験学習会)	7/18(月)	岐阜県自然体験学習会	小学生	無料	岐阜県自然体験学習会	7/18(月)	岐阜県自然体験学習会	岐阜県自然体験学習会	
自然体験学習(岐阜県自然体験学習会)	7/19(火)	岐阜県自然体験学習会	小学生	無料	岐阜県自然体験学習会	7/19(火)	岐阜県自然体験学習会	岐阜県自然体験学習会	
自然体験学習(岐阜県自然体験学習会)	7/20(水)	岐阜県自然体験学習会	小学生	無料	岐阜県自然体験学習会	7/20(水)	岐阜県自然体験学習会	岐阜県自然体験学習会	
自然体験学習(岐阜県自然体験学習会)	7/21(木)	岐阜県自然体験学習会	小学生	無料	岐阜県自然体験学習会	7/21(木)	岐阜県自然体験学習会	岐阜県自然体験学習会	
自然体験学習(岐阜県自然体験学習会)	7/22(金)	岐阜県自然体験学習会	小学生	無料	岐阜県自然体験学習会	7/22(金)	岐阜県自然体験学習会	岐阜県自然体験学習会	
自然体験学習(岐阜県自然体験学習会)	7/23(土)	岐阜県自然体験学習会	小学生	無料	岐阜県自然体験学習会	7/23(土)	岐阜県自然体験学習会	岐阜県自然体験学習会	
自然体験学習(岐阜県自然体験学習会)	7/24(日)	岐阜県自然体験学習会	小学生	無料	岐阜県自然体験学習会	7/24(日)	岐阜県自然体験学習会	岐阜県自然体験学習会	
自然体験学習(岐阜県自然体験学習会)	7/25(月)	岐阜県自然体験学習会	小学生	無料	岐阜県自然体験学習会	7/25(月)	岐阜県自然体験学習会	岐阜県自然体験学習会	
自然体験学習(岐阜県自然体験学習会)	7/26(火)	岐阜県自然体験学習会	小学生	無料	岐阜県自然体験学習会	7/26(火)	岐阜県自然体験学習会	岐阜県自然体験学習会	
自然体験学習(岐阜県自然体験学習会)	7/27(水)	岐阜県自然体験学習会	小学生	無料	岐阜県自然体験学習会	7/27(水)	岐阜県自然体験学習会	岐阜県自然体験学習会	
自然体験学習(岐阜県自然体験学習会)	7/28(木)	岐阜県自然体験学習会	小学生	無料	岐阜県自然体験学習会	7/28(木)	岐阜県自然体験学習会	岐阜県自然体験学習会	
自然体験学習(岐阜県自然体験学習会)	7/29(金)	岐阜県自然体験学習会	小学生	無料	岐阜県自然体験学習会	7/29(金)	岐阜県自然体験学習会	岐阜県自然体験学習会	
自然体験学習(岐阜県自然体験学習会)	7/30(土)	岐阜県自然体験学習会	小学生	無料	岐阜県自然体験学習会	7/30(土)	岐阜県自然体験学習会	岐阜県自然体験学習会	
自然体験学習(岐阜県自然体験学習会)	7/31(日)	岐阜県自然体験学習会	小学生	無料	岐阜県自然体験学習会	7/31(日)	岐阜県自然体験学習会	岐阜県自然体験学習会	

保育園たより

つばめ



かもめ



すこやか



岐阜大学男女共同参画推進室(人材開発部職員育成課男女共同参画係) URL: <http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL: 058-293-3397 FAX: 058-293-3396 E-mail: sankaku@gifu-u.ac.jp

*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。



CONTENTS

- | | | |
|-------------|---------------------|--------------|
| * 研究補助員配置制度 | * カモミール月暦 | * 「のむゼミ」のご紹介 |
| * 英文校閲助成 | * サイエンス夢追い人育成プロジェクト | * 保育園たより |
| | * 長良高校研究室見学会 | |



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」



募集予告

研究補助員配置制度

男女共同参画推進室では、育児や介護等と研究との両立支援および研究補助員（研究支援者）のチャレンジ支援・再チャレンジ支援に寄与することを目的として、研究補助員配置制度を実施しています。

＜ 申請期間 ＞ 2018年8月27日（月）～ 9月5日（水）午後4時 必着

＜ 配置期間 ＞ 2018年11月1日（木）～ 2019年3月31日（日）

＜ 雇用時間数 ＞

原則として週8時間を上限とし、5ヶ月間で合計160時間まで

TA（ティーチング・アシスタント）、RA（リサーチ・アシスタント）を担当している大学院生を研究補助員とする場合には、TA、RAと研究補助員の勤務時間が合わせて週20時間を超えないことを条件とします。

雇用時間数は、諸条件を勘案したうえで男女共同参画推進室が決定しますので、申請された時間よりも短くなる場合があります。

申請資格、申請方法などの詳細は、申請期間中に男女共同参画推進室WEBでご確認ください。

<https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」



英文校閲助成

2015（平成27）年度に採択された「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」事業の一環として、女性研究者の研究力向上を目的に、学術雑誌への論文投稿に必要な英文校閲費を助成します。

＜ 申込期間 ＞ 2018年9月3日（月）～2018年10月5日（金）

＜ 応募資格 ＞ 岐阜大学に所属し、国際誌に英語論文を投稿する女性研究者（常勤の教員に限る。）
研究分野は問いません。ただし、原則として投稿する論文の筆頭著者であること。

助成対象、助成金額、応募方法などの詳細は、申込期間中に男女共同参画推進室WEBでご確認ください。

<https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>

カモミール月暦 （室長からのメッセージ）

副学長（多様性人材活力推進担当） 林 正子

女性の活躍推進、地元企業との連携

—— 太平洋工業株式会社 訪問 ——

岐阜大学が代表機関となり、岐阜薬科大学、岐阜女子大学、アピ株式会社の方々とともに、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」（2015年度～20年度）「地域循環型女性研究者育成・支援プログラム」を開始して4年目を迎えました。「清流の国 輝くギフジョ 支援プロジェクト」と称しての本連携事業の成果と課題につきましては、「かもみーる通信」でも折に触れてご報告ご紹介してきたところです。

女性研究者育成・支援事業として、すでに多くの方々に関わっていただきましたように、意識啓発やキャリアパス支援のための種々のセミナー、フォーラム、シンポジウムの開催のみならず、女性教員限定公募、研究補助員配置制度、人財バンク、学童保育トライアル、保育園の拡充等々、さまざまな取り組みの実施運用を進めてきました。

また、「岐阜県を中心とする地域内での女性研究者・女性技術者の流動性」を高めつつ、安定した活躍の場を確保することによって、女性による岐阜創生に繋げる」ための取り組みとしては、「連携型共同研究プロジェクト支援制度」や「女性研究者インターンシップ」等々を精力的に展開してきましたが、今年度はさらに、共同実施機関であるアピ株式会社との協同を範例として、地元企業の皆さんとの連携を模索しているところです。

その一環として、去る7月2日（月）、自動車部品・電子機器製造で有名な太平洋工業（株）（従業員数：男性1,508名 女性 170名 計1,678名 2017年3月現在）の本社（大垣市久徳町）と東大垣工場（大垣市浅西）を訪問し、小川信也 代表取締役社長との対談、女性社員の方々との座談会に参加しました。

太平洋工業（株）は「岐阜県子育て支援エクセレント企業」（現、岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業）として認定されており、小川社長は、女性活躍推進に向けた機運を醸成するために岐阜県内の企業経営者が一堂に会した「清流の国ぎふ女性の活躍推進サミット」（2018年2月22日、岐阜都ホテル）でも、旗振り役となって「行動宣言」を提唱なさるなど、女性活躍推進について意識が高く実行力のあるリーダーとして知られています。ちなみに、小川社長には、岐阜大学経営協議会の学外委員もお務めいただいています。

太平洋工業（株）を代表する5名の女性社員の方々との座談会では、以下のようなテーマで意見交換をおこないました。

- 女性が長く（定年まで）働くために必要なことは何だと思いますか？
 - 社員一人ひとりが生き生きと働くにはどうしたらよいと思いますか？
 - ワーク・ライフ・バランスで大切にしていることは何ですか？
 - 入社してから現在までにおいて、転機となったことや新たなやりがいを見出した経験はありますか？
 - 自身の能力を十分に発揮するために心がけていることは何ですか？
 - 仕事とスポーツ競技*の両立、仕事と家庭生活の両立で心がけていることは何ですか？
- *日本リーグ所属女子ソフトテニス部主将の女性社員
- 障害者、外国人、高齢者、女性などの多様な人材が、差別なく活躍できる職場環境をつくるにはどうしたらよいと考えますか？ 等々

今回は紙幅の都合で、女性社員の方々による個々のコメントをご紹介することはできませんでしたが、75分にわたる座談会は、女性の活躍推進に向けて、ひいては社員一人ひとりの活躍に向けて、太平洋工業（株）の皆さんの意識の高さや取り組みの充実ぶりがうかがえる有意義な機会となりました。育休や短時間勤務の期間延長などの制度拡充や、育児や介護時に社員どうしが支え合う風土づくりを率先なさっていらっしゃる小川社長との90分におよぶ対談については、今秋、『CSRレポート 2018』に掲載していただく予定となっています。

今回の太平洋工業（株）訪問をとおして、研究開発や人材確保について大学に寄せる企業側の多大の期待を感じました。今後、男女共同参画推進室としては、企業と大学の女性研究者による共同研究に向けてのワークショップ、情報交換、交流会等の開催、ワーク・ライフ・バランス実現のための勉強会実施やインターンシップ制度の構築等々、企業と大学が協同してのさまざまな連携の可能性を追求してゆきたいと願っています。

サイエンス夢追い人育成プロジェクト (女子大学院生による出前講義)

7月9日(月)岐阜県立多治見高等学校において大学院生の後藤可南子さん(生物生産環境科学専攻 修士課程2年)と永田麻純さん(知能理工学専攻 修士課程2年)が出前講義を実施しました。

後藤さんと永田さんは、自然科学コースの2、3年生(合計70名、うち女子19名)を前に、大学・大学院における研究活動や現在に至るまでの進路選択の経緯、そして受験勉強への取り組み方などについてご自身の経験を紹介しながら丁寧かつ具体的に語ってくれました。

講義後のアンケートには、「受験勉強のコツが参考になった」「研究の話が面白く、自分も研究したいと思った」「受動的ではなく能動的に物事に取り組んでいきたいと思った」等の感想が記され、今まさに進路選択に直面している高校生たちにとって有意義な機会となったようです。

岐阜大学男女共同参画推進室では、今後も岐阜県内の高校を中心に女子大学院生による出前講義を精力的に実施していきます。



▲ 後藤可南子さん



▲ 永田麻純さん

研究室見学会(発展型出前講義)

7月19日(木)、長良高校の2年生(理系クラス)女子生徒34名が岐阜大学を訪問し、今年で7回目となる研究室見学会を開催しました。

見学会では、4つの見学コースに分かれて工学部、応用生物科学部、教育学部の計5研究室の中から1グループにつき2か所の研究室を見学しました。

各研究室では、施設や設備を見学したほか、各研究室に所属する女子大学院生が研究内容の紹介や大学・大学院での学生生活などについて分かりやすく説明しました。

研究室見学後の女子大学院生との交流会では、女子生徒を3つのグループに分け、それぞれのグループに分野の異なる女子大学院生2名が加わり、自由な質疑応答の時間を設けました。研究室見学の際には緊張していた高校生たちでしたが、交流会では年齢の近い「先輩」たちに将来のこと、受験勉強のことなど次々に質問が寄せられ、笑い声の絶えない賑やかな交流会となりました。

アンケートには、「進路希望がより明確になった」「女子大学院生との交流会が楽しかった」「大学や研究の面白さが分かり、はやく大学生になりたいと思った」などの感想が寄せられ、女子大学院生が女子高生たちにとっての「憧れ」のロールモデルになったようです。



▲ 女子大学院生との交流会



▲ 仲澤和馬研究室



▲ 獣医病理学研究室



▲ 比較生化学研究室



▲ 王志剛研究室



▲ 自然エネルギー研究室

【参加女子大学院生】

- ・May Sweet(工学研究科) ・Phyo Myat Lin(自然科学技術研究科)
- ・後藤 みなみ(連合獣医学研究科) ・松井 友梨(自然科学技術研究科) ・松本 昇子(自然科学技術研究科)
- ・沓掛 あすか(自然科学技術研究科) ・吉崎 響子(連合獣医学研究科)

(50音順) (敬称略)

「のむゼミ」のご紹介

7月11日(水)の午後、岐阜大学を中心とする大学生たちが社会で活躍するゲストを囲んで社会問題を勉強する「のむゼミ」に、コーディネーターの落合絵美が参加しました。

主催者の野村奈々子さん(医学部看護学科1年生)が「岐阜大学生同士が学び合う場を作りたい!」との思いで設立した「のむゼミ」の7月のテーマは「個人が輝く社会」。オフィスリブ代表の上松恵子さんを講師にお招きしてワークライフバランスや働き方改革に関する



説明の後、4名ずつ3グループに分かれてグループワークを行いました。グループワークでは、『AERA』の「家事育児100タスク表」や付箋を用いながら「パートナーと家事・育児を分担するには?」「子どもがインフルエンザで5日間登校停止になったらどうする?」など、共働き夫婦が直面しやすい問題について参加者が意見を出し合いました。

参加した学生たちは、「パートナーと相談しながら『自分たちの方法』を見つけることが大切」「普段から家族や会社の同僚と助け合える関係性を築いておくことが緊急時の支えになる」「自分たちの努力では解決できないことは社会の問題としてみんなで議論することが重要」などの感想が寄せられました。身近な話題を題材に思考し、仲間の多様な意見に触れられる貴重な機会となりました。



保育園たより



かもめ



つばめ



すこやか



岐阜大学男女共同参画推進室(人材開発部職員育成課男女共同参画係) URL: <http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL: 058-293-3397 FAX: 058-293-3396 E-mail: sankaku@gifu-u.ac.jp

*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。

かもみーる通信



99号

2018年9月

CONTENTS

- * 後期授業ご案内
- * 学童保育トライアル
- * トップマネジメントセミナー
- * カモミール月暦
- (カモミールこども大学)
- * 保育園たより



後期授業ご案内

水曜1限

全学共通教育科目

～ワーク・ライフ・バランス（男女共同参画論）～

「ワーク・ライフ・バランス」や「男女共同参画」という言葉を聞いて皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。ワーク・ライフ・バランスや男女共同参画は、政府や企業が掲げる重点課題であると同時に、私たちの日常生活に深く関わっている事柄でもあります。授業では、様々な専門分野の担当者がオムニバス形式で政策、仕事と育児の両立、身体、テクノロジー、DV（ドメスティック・バイオレンス）、生物学、文学など様々な視点から「男／女（共同参画）」とは何か、またその関係について、諸外国の例も取り上げながら学びます。

	開講日	タイトル	講 師
第1回	10月3日	イントロダクション: 岐阜大学における男女共同参画推進の取り組み	林 正子（副学長・男女共同参画推進室長）
第2回	10月10日	現代日本社会における男女共同参画論の意義	落合 絵美（男女共同参画推進室）
第3回	10月17日	ライフ・デザインを考える（仮）	落合 歩 （リクルートマーケティング ※岐阜県委託）
第4回	10月24日	健康で充実した人生のための健康基礎知識	山本 真由美（大学保健管理センター長）
第5回	10月31日	中国古典世界における男と女	松尾 幸忠（地域科学部地域文化学科）
第6回	11月7日	女性のキャリアの現状—看護職の例から	高橋 由起子（医学部 看護学科）
第7回	11月14日	海外での男女共同参画	森田 浩之（医学部附属病院総合内科）
第8回	11月21日	政治と男女共同参画	落合 絵美（男女共同参画推進室）
第9回	11月28日	情報通信技術と仕事・生活	田中 雅宏（工学部 電気電子・情報工学科）
第10回	12月5日	『リケダン』の『オトコもつらいよ』—「共働きと共子育ての楽しさについて」	新村 昌治（工学部 電気電子・情報工学科）
第11回	12月12日	デートDV — 相談の現場から	片桐妙子（NPO法人 手をつなぐ女たちの会 ※岐阜県委託）
第12回	12月19日	動物の家族関係について	椎名 貴彦（応用生物科学部 共同獣医学科）
第13回	1月9日	中国における女性の役割	魏 永芬（流域圏科学研究センター）
第14回	1月23日	男女共同参画社会で「働く」ための就職活動セミナー	白村 直也（教育推進・学生支援機構）
第15回	1月30日	男女共同参画社会の実現に向けて（全体の総括）	落合 絵美（男女共同参画推進室）



カモミール月暦 （室長からのメッセージ）



副学長（多様性人材活力推進担当） 林 正子

「連携型共同研究プロジェクト支援」対応事業のご案内

～ 岐阜大学地域交流協力会会員企業 R&D 向上促進事業 ～

毎年8月に開催している「カモミールこども大学」（夏季休業期間学童保育）は、一昨年度より、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境イニシアティブ（連携型）」（2015年度～20年度）の一環として実施しており、今夏も、岐阜大学・岐阜薬科大学・岐阜女子大学・アピ株式会社の教職員のお子さんたち（小学生）25名の参加を得て、無事終了しました。参加者が充実したプログラムを満喫しているようすを、3頁の記事・写真でどうぞお楽しみください。

今後の実施に向けての課題は、お申し込みいただいた方々全員の受け入れが、実務上困難となっていることです。今回も38名の方々に参加のご希望をいただきましたが、厳正な抽選によって25名に絞らせていただかざるを得ませんでした。ご参加いただけなかった皆さん、本当に申し訳ありません。定員25名での実施にあたって、実働部隊の男女共同参画推進室・人材開発部職員育成課のメンバーに加え、全プログラムを展開するために4機関合計100名近い方々のご協力を得ています。今後、一層の工夫を重ね、参加を希望してくださっている多くの皆さんのご期待に添えるよう努めてまいりますので、どうぞご了承ください。

女性研究者育成・支援の取り組みについても、同様の課題認識をしています。2015年度から運用している「連携型共同研究プロジェクト支援」も、既に4機関の女性研究者延べ95名（うち、岐阜大学所属の女性研究者延べ48名）の方々に文部科学省の補助金を活用していただいています。自主経費での対応となった今年度も、8件17名の方々（岐阜大学12名）に助成をおこなっているところです。しかしながら、4機関242名（うち岐阜大学137名）の女性研究者の一層の研究力向上をめざし、「岐阜県を中心とする地域内での女性研究者・女性技術者の流動性を高めつつ、安定した活躍の場を確保することによって、女性による岐阜創生に繋げる」ための取り組みとしては、十分とは言えない状況にあります。

という次第で、今年度より自主経費での対応となったことに伴い、女性研究者の皆さんのご研究の一層のご発展に向けて、学内で対応する公募事業を以下のようにご案内いたします。

目下、岐阜大学地域交流協力会 http://www.gifu-u.com/sub/sub1/indexSub1_1.html が「会員企業R&D 向上促進事業」の公募（25万円以下/件、年度内5件程度）をおこなっています。この事業は、岐阜大学地域交流協力会の「会員企業」 http://www.gifu-u.com/sub/sub4/indexSub4_1.html と共同研究を推進することを目的としており、既に「会員企業」との共同研究の実績がおありの方々のみならず、今後、「会員企業」の研究者の方々との共同研究をご検討なさっていらっしゃる場合は、ぜひ本事業に応募ください。

応募の3要件

- ① 企業については、岐阜大学地域交流協力会の「会員企業」であること。
- ② 「会員企業」としての入会期間が1年以上経過していること。
- ③ 共同研究をおこなう教員は、岐阜大学の専任教員であること。

支援期間

- 共同研究契約書締結日が11月末までの場合、翌年の3月末まで
- 共同研究契約書締結日が12月以降の場合、翌年の9月末まで

会員企業一覧や申請書の様式等、詳細につきましては、以下のお問い合わせ先にご連絡ください。

女性研究者の皆さん、ひいては男女を問わず構成員の皆さんのご研究が、助成制度による共同研究をとおして一層の進展をなされますよう、心より願っています。

「岐阜大学地域交流協力会会員企業 R&D 向上促進事業」のお問い合わせ先
産官学連携推進本部 坪井さん、武藤さん

TEL:058-293-3187 FAX:058-293-2032 Mail: ccr-jimu@gifu-u.ac.jp



夏季休暇中の学童保育トライアル

（カモミールこども大学）

毎年参加者にご好評頂いている「夏季休業期間学童保育（カモミールこども大学）」を今年も8月23日（木）・24日（金）の2日間にわたって実施しました。

25名の小学生たちは、動くおもちゃ作り（岐阜女子大学）、みつばち講座（アピ株式会社）、図書館探検ツアー（岐阜大学図書館学術情報課）、薬草園ツアー（岐阜薬科大学）、職業体験（岐大祭実行委員会）など、岐阜大学および連携機関が提供する盛りだくさんのプログラムを満喫しました。



動くおもちゃ作り どうしたら辿り着けるかな？



手作りおもちゃでゲーム



沢山の薬草に興味津々

どんな味？



葉っぱに小枝で字を書こう



いらっしゃいませ！



飛行機大会



入館カードで図書館へ



ミッションを達成するぞ



修了証書をもらいました



新聞記者です



大学食堂でランチ



はちみつ採集体験



2日間楽しかったね！

8/23・24

10種類の
蜂蜜を試食！



トップマネジメントセミナー

8月1日（水）、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」トップマネジメントセミナーがアピ株式会社（岐阜市）にて開催されました。

「地方創生と女性の活躍推進」と題したセミナーでは、講師の藻谷浩介さん（日本総合研究所主席研究員）が日本および地方自治体ごとの年齢階層別人口の推移など各種統計を駆使しながらクイズ形式で深刻化する少子化および高齢化の現状について説明しました。

昨今の若年層の高い就職内定率や労働力不足は43年前に始まった若年人口の減少すなわち少子化の結果であること、これは女性や高齢者、外国人労働者の労働市場への参入では解消できないほどに深刻化しており、増加し続ける高齢人口を支えながら社会が機能するためには出生率の回復が重要であると主張したうえで、「仕事第一」の男性だけでは経済活動は維持できず、今後は育児中の女性や障害者など多様な人々がともに働き続けられる労働環境、すなわちダイバーシティ社会の構築が必要不可欠であると熱く語りました。

労働力人口が今後も減少し続ける日本において、育児や介護、持病や障害などを抱える労働者も等しく構成員として働き続けられる雇用環境の有無が、企業や大学、そして日本の将来を大きく左右すると改めて実感したセミナーでした。



夏祭り

保育園たより

8月21日（火）、外でかき氷を食べた後、グループごとに部屋を入れ代わり、魚釣り、トンネルくぐり、くじ引きなどをして楽しく過ごしました。

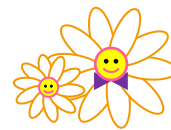


かもめ

つばめ

すこやか





CONTENTS

- | | | |
|-----------|-----------------------|----------|
| * フォーラム | * サイエンス夢追い人育成プロジェクト | * 研究倫理研修 |
| * カモミール月曆 | * ロールモデル講演会/リーダーシップ研修 | * 保育園たより |

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」



フォーラム

地域貢献型大学における女性研究者の活躍とAI研究力分析

日 時：2018年11月2日（金）15：00 -17:00
場 所：岐阜大学 講堂

近年、様々な分野において「女性活躍」への関心が高まっており、女性研究者の活躍を目にする機会も増えています。また、AIやビッグデータに代表される情報通信技術の発達、大都市と地方の情報格差を縮小させており、地方（ローカル）から世界水準（グローバル）の研究成果を発信することを可能にしています。

それでは、地方の女性研究者はいかにして世界水準の研究成果に向けて取り組んでいるのか、また、AIやビッグデータは研究者がさらなる研究水準の向上を目指すうえでどのように活用できるのか。

第1部では、エルゼビア社が2017年に発表した世界各国における研究者の男女別パフォーマンスの分析結果、およびAIを活用した岐阜大学を中心とする研究者の活動情報分析とその可能性について、膨大なデータ分析に基づいて報告します。

第2部のトークセッションでは、研究者を志す女子大学院生および様々な立場で活躍する女性研究者が登壇し、女性研究者が地方から世界水準の研究成果を生み出し発信するための方法、およびキャリア形成について語り合います。

<第1部 報告>

高石 雅人（エルゼビア・ジャパン株式会社 ソリューションコンサルタント）
「世界の研究環境におけるジェンダー 女性研究者の割合増加と男性研究者と同等の影響力」
利光 哲哉（岐阜大学研究推進・社会連携機構 特任講師）
「AIの活用による岐阜大学研究力の可視化から向上への分析アプローチ」

<第2部 トークセッション>「岐阜で研究者としてのキャリアを構築する」

馬淵 法子（岐阜女子大学 大学院文化創造学研究科 修士課程2年）
吉崎 響子（岐阜大学 連合獣医学研究科 博士課程1年）
丸山 広恵（アピ株式会社 事業戦略室 次長）
リム リーフ（岐阜大学 工学部 化学・生命工学科 教授）
永澤 秀子（岐阜薬科大学 創薬化学大講座 教授）
落合 絵美（岐阜大学 男女共同参画推進室 特任助教）※トークセッション司会

カモミール月曆（室長からのメッセージ）



副学長（多様性人材活力推進担当） 林 正子

「かもみーる通信」創刊100号に寄せて

岐阜大学男女共同参画推進室ニューズレター「かもみーる通信」が2010年7月に創刊されてから、早くも8年を超える年月が経ちました。この度、通算100号を発行するにあたり、日頃、岐阜大学の男女共同参画推進、多様性人材活力推進の諸活動にさまざまなかたちでご支援、ご協力くださっている皆さまに、改めてお礼申し上げます。

2010年4月に男女共同参画推進室が設置されて以降、人材開発部職員育成課（旧・総務部人事労務課）の職員の皆さんとともに携わってきた活動の指針として、「岐阜大学男女共同参画行動計画 <https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/outline/O2.html>」が挙げられます。全構成員を対象として、男女共同参画の視点に立った教育・研究環境及び就業体制の確立、教育・研究及び就業と家庭生活との両立を図るための支援、女性研究者の支援及び育成の推進、教職員・学生への男女共同参画に関する啓発活動の推進、大学運営における意思決定への女性参画の推進、国・岐阜県・各市町村、企業等諸団体との連携の促進に向けてのさまざまな取り組みや、構成員の皆さんにご利用いただける制度などについて、「かもみーる通信」を媒介として発信してきました。

当初の活動の基盤となったのが、「多様性活力発揮に向けての女性研究者支援」（文部科学省科学技術人材育成費による女性研究者研究活動支援事業 2010～2012年度）の取り組みです。事業終了後も、研究補助員配置制度、人材バンク、メンター制度など、女性研究者が子育てや介護などのライフイベントと研究を両立できる環境を整備し、男性研究者にも適用するなど、発展的に運用してきました。また、女子大学院生による出前講義「サイエンス夢追い人育成プロジェクト」も、岐阜県下の小・中・高等学校の生徒たちに身近なロールモデルを提供するとともに、院生にとっても研究活動へのモチベーションを高めるなどの成果を上げている状況について、「かもみーる通信」の多くの号でご紹介してきました。

2014年度には、「多様性人材活力推進行動計画」 <https://www.gifu-u.ac.jp/about/approach/diversity.html> を策定して、大学運営における多様性人材活力の推進、外国人構成員の支援と文化的多様性の促進、障がいのある構成員の支援、学生・教職員への多様性人材活力推進に関する啓発活動の推進、地域社会・国際社会との連携を通じた多様性人材活力推進に向けて、全学的な取り組みの橋渡しに努めているところです。学長を議長とする「多様性人材活用推進会議」の報告の機会などに、「かもみーる通信」でも現状をご紹介します、直面する諸課題や方向性について構成員の皆さまに共有していただけてきました。

2015年度以降の紙面に頻出しているテーマが、岐阜薬科大学・岐阜女子大学・アピ株式会社との連携事業「地域循環型女性研究者育成・支援プログラム」（「清流の国 輝くギフジョ 支援プロジェクト」）です。この文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」（2015年度～2020年度）については、女性研究者の研究環境整備、研究力向上、上位職登用へのさまざまな課題に挑戦していることを、「清流の国 輝くギフジョ 支援プロジェクト通信」（2016年3月～2018年3月 全9号） <https://www1.gifu-u.ac.jp/~kagayaku/data/> と併せて、「かもみーる通信」でもご紹介してきました。

男女共同参画推進室・人材開発部職員育成課が中心となつての取り組みは、女性研究者育成・支援事業に限定されません。性差・年齢・国籍・職掌などの違いを超えて、段階的に対象範囲を広げていくことで、構成員一人ひとりがその能力を遺憾なく発揮できる大学づくりをめざしています。シンボル花「カモミール」の花言葉のように、全構成員が「親交」し、「逆境に負けない強さ」を発揮して、数多くの課題とともに乗り越えてゆけるよう願っています。皆さまのご支援、ご協力、引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

サイエンス夢追い人育成プロジェクト

(女子大学院生による出前講義)

9月13日、岐阜大学において「長良高校1年生大学見学会」を開催しました。大学入試課による大学入試等の説明に続いて、3名の女子大学院生が大学生活、研究内容、受験対策や進路選択の経験などについて、362名の高校生を前に写真や動画を用いながら講義をおこないました。

高校生からは、「女子大学院生の話聞いて自分も研究したいと思った」「早く岐阜大学生になりたいと思った」など、進路選択において有意義な機会となったようです。



藤田 真由 さん



永田 麻純 さん



今井 美歩 さん



平成30年度の「サイエンス夢追い人育成プロジェクト（女子大学院生による出前講義）」は、昨年度に引き続き本年度も岐阜県内の高校から数多くのご依頼を頂いた結果、8月末をもって平成30年度の受付を終了しました。平成31年度のご依頼の受付開始時期については、来年4月以降に男女共同参画推進室のホームページまたは「かもみーる通信」紙面にてお知らせする予定です。

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

ロールモデル講演会 / リーダーシップ研修

ロールモデル講演会

女性研究者・医療職として等身大で生きる
～ワークライフバランス～

講師：錦織 淳美氏
岡山大学病院薬剤部 薬劑師 / Pharm.D.

日時：平成30年10月9日(火) 13:00～14:30
場所：岐阜薬科大学本部 第二講義室

ロールモデル講演会

日時：10月9日(火) 13:00～14:30

場所：岐阜薬科大学本部 第二講義室

リーダーシップ研修

日時：10月26日(金) 16:00～17:30

場所：岐阜薬科大学本部 大学院講義室

リーダーシップ研修

医薬品の価値を最大化するための
バイオマーカー検討
～多様なメンバーでシナジーを発揮するチームの導き方～

講師：田窪 亮子氏
中外製薬株式会社
トランスレーショナルリサーチ本部
臨床薬理部 バイオマーカーリーダー

日時：2018年10月26日(金) 16:00～17:30
会場：岐阜薬科大学本部 大学院講義室

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

研究倫理研修

9月19日(水)、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」平成30年度研究倫理研修がアピ株式会社（岐阜市）にて開催されました。

「科学に携わる者のための倫理—技術者倫理教育の視点から—」と題した研修では、片倉啓雄 関西大学化学生命工学部教授が、技術者としての知識不足が引き起こした重大な事故事例について紹介しながら、特定の組織内の考え方は偏向性を有していること、そのなかで「逸脱」を許容することによって次第に「逸脱の標準化」が生じ、その積み重ねが重大な事故や不祥事につながると指摘しました。そのうえで、プロフェッショナル（技術者）はこのような逸脱を許容しない高い倫理意識が求められていることについて、過去の成功例と失敗例を取り上げながら具体的に説明されました。

研究不正が社会問題として大きく注目されている現在、技術者にとどまらずすべての研究者および学生が「組織の偏向性」や「逸脱」について敏感になり、改めて自らの行動をセルフチェックすることの重要性について認識を深める貴重な機会となりました。

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」
平成30年度 研究倫理研修
科学に携わる者のための倫理
—技術者倫理教育の視点から—

【日時】 9月19日(水) 13:30～14:45
【会場】 アピ株式会社 長良川リサーチセンター
2F 大会議室

講師：片倉啓雄氏
関西大学 化学生命工学部 教授

【主催】 アピ株式会社、岐阜大学、岐阜薬科大学、岐阜女子大学

保育園たより

つばめ



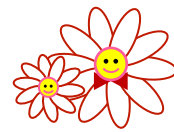
かもめ



すこやか



岐阜大学男女共同参画推進室（人材開発部職員育成課男女共同参画係） URL: <http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL: 058-293-3397 FAX: 058-293-3396 E-mail: sankaku@gifu-u.ac.jp
*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。



CONTENTS

- * フォーラム
- * カモミール月暦
- * フォーラム（第2部）
- * サイエンス夢追い人育成プロジェクト
- * リーダーシップ研修
- * 保育園たより

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」



フォーラム

11月2日（金）、第53回岐阜大学フォーラムとなる文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」フォーラム『地域貢献型大学における女性研究者の活躍とAI研究力分析』が岐阜大学講堂にて開催されました。



▲ 高石 雅人 氏

第1部では、エルゼビア・ジャパン株式会社の高石雅人ソリューションコンサルタントが「世界の研究環境におけるジェンダー 女性研究者の割合増加と男性研究者の同等の影響」と題して、エルゼビア社が2017年に発表した『ジェンダーレポート』に基づいて報告しました。ここでは、日本における女性研究者の割合は男性に比べて際立って低い一方、男性よりも平均して多くの論文数を発表していることや日本から海外へ流出する女性研究者の人数が日本へ流入する人数を上回っていることなどについて、国際比較の観点から説明しました。

続いて、岐阜大学研究推進・社会連携機構の利光哲哉特任講師が「AIの活用による岐阜大学研究力の可視化から向上への分析アプローチ」と題して、AI（人工知能）を用いて岐阜大学の研究者をグループ化して分析した結果や学部・専門分野を越えた人的ネットワークの可視化について実演を交えながら解説したうえで、新たな価値を創造するためには研究者の特徴をとらえた分野横断的な共同研究がより一層求められていると指摘しました。

— 第2部 トークセッションについては、P3でご報告します。 —



利光 哲哉 特任講師 ▲

カモミール月暦 （室長からのメッセージ）

副学長（多様性人材活力推進担当） 林 正子

「人口減少時代」、岐阜県民・岐阜大学人の活躍に向けて ～「清流の国ぎふ 女性の活躍推進会議」報告～

去る10月4日付の各紙で、岐阜県の推計人口が1983年以降、35年ぶりに200万人を切ったことが報じられました。岐阜県の人口は、2000年の国勢調査での210万7,700人をピークに減り続けているとのこと。2005年以降は、出生数が死亡数を下回る自然減のみならず、進学、仕事、結婚などによって愛知県を中心に（約37%）県外への転出超過も続いているとのこと。

連動して労働人口が減少の一途をたどるなか、9月28日総務省発表の8月労働力調査によると、人手不足を背景に、15歳から64歳までの女性のうち就業者の割合が初めて7割になったことも報じられています。

このような状況下、「カモミール月暦」でも随時ご紹介してきました古田肇 岐阜県知事主宰の「**清流の国ぎふ 女性の活躍推進会議**」が、10月10日（水）に開催されました。当会議での議論や資料を通して、大学での男女共同参画推進や女性の活躍推進の取り組みにおいても貴重な示唆が得られることから、ここにご紹介させていただく次第です。

岐阜県は、「**女性活躍推進法**」第6条の規定にもとづき、県、市町村、事業主、労働者、関係団体、県民等が相互に連携しながら女性の活躍推進を加速化することを趣旨として、「**清流の国ぎふ女性の活躍推進計画**」（2016年度～2020年度）を策定し、諸課題に取り組んでいます。「推進計画」には、性別による固定的な役割分担意識が強い、M字カーブの底が深い、女性管理職比率が全国最低であるという岐阜県の現状を踏まえて、次のような政策の柱と基本施策が定められています。

① 女性の活躍推進に向けた組織風土づくり

- (1) トップの意識改革、女性人材登用を経営戦略とする姿勢を明確にする
- (2) 男性の意識を変え、女性を育成できる管理職を増やす
- (3) 社会全体の気運の醸成をはかる

② ワーク・ライフ・バランスの実現、働き方改革の推進に向けた環境整備

- (1) 働き方改革、ワーク・ライフ・バランスの環境を提供する
- (2) 男性の育児休業、家事・育児参画を推進する
- (3) 就労・子育ての不安を解消する
- (4) 子育て支援サービスの環境を整備する
- (5) 女性を励まし、自信を持たせる仕掛けをつくる

③ 女性の希望に応じたキャリアアップに向けた支援

- (1) 女性を支援し、鍛える仕掛けをつくる

「清流の国ぎふ女性の活躍推進会議」で提示された資料によると、岐阜県の6歳未満の子どもがいる夫の家事・育児平均時間は68分（妻は440分）と、全国平均の83分を下回り、全国38位にとどまっています（2016年社会生活基本調査）。また、全国の男性の育児休業取得率が5.1%であるのに対して、岐阜県の男性従業員の育児休業取得率は2.3%というように、依然として低い水準にあります（2017年度岐阜県育児休業等実態調査）。

2017年「仕事と家庭の両立に関する実態把握のための調査」では、妻が末子を出産した男性（正社員）の35.3%が育児休業制度を利用希望していながら利用できていない実態も明らかになっています。育児休業制度を利用しなかった理由として多いのは、「業務が繁忙で職場の人手が不足していた」（38.5%）、「職場が育児休業を取得しづらい雰囲気だった」（33.7%）、「自分にしかできない仕事や担当している仕事があった」（22.1%）の順となっています。

一方、女性については、岐阜県の女性の労働力率は、ほとんどの年代で全国より高いにもかかわらず、出産年齢にあたる25歳から34歳と80歳以上で全国を下回っています（2015年国勢調査）。岐阜県では「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業に就く方がよい」が38.4%と最も高く、全国の26.3%と12.1ポイントの差があり、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した人は、全国では54.2%、岐阜県では36.4%にとどまっています（2017年 県民意識調査）。また、就業を希望しながら、働いていない女性が、岐阜県内には74,200人いると推定されています（2017年就業構造基本調査）。

このような特筆すべき現状・推定に加え、岐阜県では、女性管理職比率が相変わらず全国的にみて低位にあることから、経営者等の意識改革を進め、女性管理職登用にに向けた積極的な取り組みが必要であること、引き続き、オール岐阜県での女性活躍の機運醸成に向けての取り組みが必要であることが、課題として共有されています。

今回は、諸課題に対する岐阜県の具体的な取り組みについてご紹介することができませんでしたが、岐阜県岐阜市に所在する本学も、「岐阜大学男女共同参画推進計画」の一項として、「国・岐阜県・各市町村、企業等諸団体との連携の促進」を謳っていることから、今後も県のさまざまな取り組みにも学び、課題解決に向けた活動を展開してゆきたいと願っています。皆さんの一層のご支援ご協力、どうぞよろしくお願いいたします。



フォーラム（第2部）



第2部のトークセッション「岐阜で研究者としてのキャリアを構築する」では、女子大学院生および企業や大学で活躍する女性研究者が登壇し、それぞれの立場から岐阜で研究者としてキャリアを構築する／してきた経験について語り合いました。ここでは、岐阜県内には日本のみならず国際的に高い評価を得ている研究者が数多く活躍していること、所属機関にない設備・機材があれば他機関で利用するなど共同利用の取り組みも進んでおり研究環境の面で不利に感じることはほとんどないこと、また保育園への入りやすさや自動車通勤など居住環境の面からも研究生活を送りやすいといった指摘がありました。

他方で、岐阜だけでなく日本では依然として家事・育児負担が女性（妻）側に偏る傾向が強いため、女性が研究者としてキャリアを積み上げていくためには夫婦の役割分担や職場環境、社会サービスの活用などが重要といった発言が続きました。最後に、トークセッション司会の落合絵美特任助教（岐阜大学男女共同参画推進室）より、新たな価値を生み出すためには所属機関や専門分野のほか性別、年齢、国籍や障害・持病の有無などにかかわらず多様な人材がともに研究に取り組める環境、すなわち多様性（ダイバーシティ）が保障された研究環境の整備が今後ますます重要になってくると総括しました。

その後の質疑応答では、日本における職場慣行の問題点やAIによる研究分析の可能性に関する質問のほか、トークセッションでの女性研究者の言葉に勇気づけられた等の発言が相次ぎました。1部・2部を通して多角的な視点から女性研究者やダイバーシティ社会について再考する有意義なフォーラムとなりました。

《登壇者》

高石 雅人（エルゼビア・ジャパン株式会社 ソリューションコンサルタント）
利光 哲哉（岐阜大学研究推進・社会連携機構 特任講師）
馬淵 法子（岐阜女子大学 大学院文化創造学研究科 修士課程2年）
古崎 響子（岐阜大学 連合獣医学研究科 博士課程1年）
丸山 広恵（アビ株式会社 事業戦略室 次長）
LIM Lee Wah（岐阜大学 工学部 化学・生命工学科 教授）
永澤 秀子（岐阜薬科大学 創薬化学大講座 教授）
落合 絵美（岐阜大学 男女共同参画推進室 特任助教）



サイエンス夢追い人育成プロジェクト

（女子大学院生による出前講義）



▲ 後藤 可南子 さん

10月19日（金）、岐阜県立飛騨神岡高校において大学院生の後藤可南子さん（生物生産環境科学専攻 修士課程2年）が出前講義（第133回）を実施しました。

後藤さんは、「私の進路選択—やりたいことを—」と題して進学クラス2年生（18名、うち女子12名）を前に、大学・大学院における研究活動や現在に至るまでの進路選択の経緯、そして受験勉強への取り組み方などについて、ご自身の経験を踏まえながら丁寧かつ具体的に語り、生徒たちは熱心に後藤さんの講義に耳を傾けていました。

講義後のアンケートには、「生物や研究について興味を持った」「周囲の助言だけでなく自分の意見をしっかり持つ大切さを学んだ」「進路選択で悩んでいるので参考になった」「後藤さんのような大学生になりたい！」など、今まさに進路選択に直面している高校生たちにとって、有意義な機会となったようです。

岐阜大学男女共同参画推進室では、来年度も引き続き、岐阜県内の高校を中心に岐阜大学の女子大学院生による出前講義を積極的に実施していきます。どうぞご期待ください。



リーダーシップ研修



10月26日（金）、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」平成30年度リーダーシップ研修が、岐阜薬科大学（岐阜市）にて開催されました。

「医薬品の価値を最大化するためのバイオマーカー検討～多様なメンバーでシナジーを発揮するチームの導き方～」と題した研修では、講師の田窪亮子さん（中外製薬株式会社 トランスレーショナルクリニカルリサーチ本部 臨床薬理部 バイオマーカーリーダー）が、バイオマーカー解析グループの業務内容について説明したうえで、どのような専門家（チーム）が開発事業に関与しているのかについて、それぞれの役割にも言及しながらチーム編成について語りました。

続いて、バイオマーカーリーダーとしてのご経験から、多様な専門分野の担当者を統括するうえで、各自の立場を尊重しつつ各担当者の不安を取り除き、チームとしてより良い成果につなげていくための調整方法や工夫について、その難しさも含めて話してくださいました。その際、特に外国人など多様性に富むチームを率いる際には、「その場の雰囲気」や「暗黙の了解」に頼ることなく常に言葉に出して互いに確認し合いながら進めていくことの重要性を指摘しました。最後に、ご自身のこれまでのご経験を振り返ったうえで、責任の重いポストに就いたことでより一層仕事に対して真剣に取り組むよりになり、そのことがキャリアの転機になったと語ってくださいました。女性のキャリアパスを考えるうえで、大いに参考になるリーダーシップ研修となりました。

保育園たより



かもめ

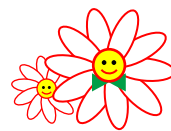


つばめ



すこやか





CONTENTS

- * クリスマス交流会
- * カモミール月曆
- * サイエンス夢追い人育成プロジェクト
(女子大学院生による出前講義)
- * 研究補助員配置制度
- * 保育園たより

クリスマス交流会

様々な学部や専門分野の先生たち（男女共同参画推進室員）と一緒に
気軽におしゃべりしてみませんか？

将来は研究者になりたいけど、出産したあとも研究できる？
岐阜大学の先生たちはどうやって育児・介護と仕事を両立してるの？
ワーク・ライフ・バランスやジェンダーって何だろう・・・

他の人たちの話を聴いているだけでもOK！
お茶とお菓子をご用意してお待ちしています♪

申込不要・参加費無料・入退室自由

日時 12月18日（火） 16:30 ～ 18:00

場所 男女共同参画推進室（大学会館2階 生協中央店向かい）

岐阜大学の構成員（学部生・院生、教職員など）
男女問わずどなたでもご参加頂けます♪

お問い合わせ

E-mail: sankaku@gifu-u.ac.jp

Tel: 058-293-3397

カモミール月曆（室長からのメッセージ）

副学長（多様性人材活力推進担当） 林 正子

「働き方改革関連法」2019年4月より順次施行 ～ 平成30年度 岐阜地方労働審議会 報告 ～

11月12日（月）、「岐阜地方労働審議会」（岐阜地方合同庁舎）に出席しました。折しも来年4月1日より「働き方改革関連法」が順次施行されるとのことで、厚生労働省発行のリーフレット「働き方改革～一億総活躍社会の実現に向けて～」<https://www.mhlw.go.jp/content/000335765.pdf> を用いての勉強会となりました。

リーフレットには、「働き方改革」全体の推進内容が、ポイントⅠ「労働時間法制の見直し」、ポイントⅡ「雇用形態に関わらない公正な待遇の確保」としてわかりやすく説明されていますので、お時間のおありの折に、上記URLをぜひご覧ください。

Ⅰ「労働時間法制の見直し」は、長時間労働をなくし年次有給休暇を取得しやすくすることなど、個々人の事情に応じたワーク・ライフ・バランスの実現がめざされるとともに、「自律的で創造的な働き方」を希望する人々にとっての新たな制度をつくることが趣旨とされています。具体的に挙げられているのは以下の事項です。

- ① 残業時間の上限の規制
- ② 「勤務間インターバル」制度導入の促進
- ③ 1年に5日間の年次有給休暇取得の義務づけ（企業に対して）
- ④ 月60時間を超える残業に対する割増賃金率の引き上げ（25%→50%）
▶ 中小企業で働く人にも適用（大企業は2010年度から適用）
- ⑤ 労働時間状況についての客観的把握の義務づけ（企業に対して）
▶ 働く人の健康管理の徹底
▶ 管理職・裁量労働制適用者も対象
- ⑥ 「フレックスタイム制」制度拡充
▶ 労働時間の調整可能な期間（清算期間）の延長（1か月→3か月）
▶ 子育て・介護をしながらでも、働きやすい制度構築
- ⑦ 「高度プロフェッショナル制度」の新設・選択制
▶ 働く人の健康を守る措置の義務化（罰則規定）
▶ 対象の限定（一定の年収以上で特定の高度専門職のみが対象）

また、Ⅱ「雇用形態に関わらない公正な待遇の確保」の項では、同一企業内における正規・非正規の間の不合理な待遇差を解消し、多様で柔軟な働き方を「選択」することができるようにとの「見直しの目的」が掲げられ、「パートタイム労働法」「労働契約法」「労働者派遣法」の改正、「同一労働同一賃金ガイドライン案」の概要も提示されています。さらに、事業主が労働者に対して説明しなければならない内容が、パート・有期・派遣で統一的に整備されており、改正によって、非正規雇用労働者が「正社員との待遇差の内容や理由」についても説明を受けられるようになるとされています。

「働き方改革関連法」の順次施行にともない、私たちの生活にはどのような影響がもたらされるのでしょうか。構成員の皆さんにおかれましては、ご自身のお仕事とは無関係とせず、ぜひ一度、上記URLをご参照いただき、ご自身の「働き方」を考える契機としていただければと思います。

先日の「岐阜地方労働審議会」では、今年度の岐阜労働局行政運営方針に関する上半期の進捗状況が報告されるとともに、ハローワークのセーフティネットとしての機能強化、労働環境の整備、女性・若者・障害者・高齢者ら多様な働き手の参画、職業能力開発支援など人材開発関係業務の推進、派遣労働者の保護および就業条件の確保対策に向けて、岐阜労働局による下半期の取り組みについても紹介されました。

新聞報道などをおして、皆さんお詳しいことと思いますが、岐阜県内の雇用情勢は着実に改善が進んでおり（最新の完全失業率 岐阜県1.6%、全国2.3%）、求人が求職を大幅に上回って推移しています。このことはご存知のように、岐阜県における人手不足が深刻であることも意味しています。

岐阜県で生活し、岐阜県で働く一人ひとりの大学構成員にとって、職場環境がより良いものとなり、「働く」ことの意義がそれぞれに発揮されることを心より願っています。

(女子大学院生による出前講義)

サイエンス夢追い人育成プロジェクト



11月9日（金）、岐阜県立岐阜農林高校において大学院生の松本昇子さん（生物生産環境科学専攻 修士課程1年）が出前講義（第134回）を実施しました。

松本さんは、「『大学生』を終えて思うこと」と題して動物科学科の1年生（37名、うち女子25名）を前に、大学・大学院におけるご自身のフクロウの腸内細菌に関する研究や現在に至るまでの進路選択の経緯、そして進学に悩んでいる生徒に向けたアドバイスなど、丁寧かつ具体的に語り、生徒たちは熱心に松本さんの講義に耳を傾けていました。

講義後のアンケートには、「大学に進学したいと思った」「講義内容が分かりやすく面白かった」「趣味や熱中できることが研究にも生かせることが分かった」「何かに興味を持ったり挑戦したりすることの大切さを学んだ」など、今まさに進路選択に直面している高校生たちにとって実りある時間となったようです。



▲ 講義をする松本さん

11月27日（火）、岐阜県立池田高校の生徒が岐阜大学を訪問し、女子大学院生による出前講義を受講しました。

出前講義では、自然科学技術研究科の永田麻純さん（知能理工学専攻修士2年）および藤田真由さん（生物生産環境科学専攻修士1年）の2名が、池田高校2年生（39名、うち女子25名）を前に、大学・大学院での学生生活や研究内容、高校生の頃に実践していた受験勉強の方法や進路選択の経験など、約2時間にわたって講義をおこないました。

高校生らによる講義後のアンケートには、「進路選択で迷っているので2人の話が参考になった」「研究の面白さに触れることができた」「講義内容が分かりやすく面白かった」など、年齢の近い大学院生たちの話を通して大学進学への意欲が高まった様子でした。



▲ 永田さん

▲ 藤田さん

岐阜大学男女共同参画推進室では、来年度も引き続き、岐阜県内の高校を中心に岐阜大学の女子大学院生による出前講義を積極的に実施します。

※平成30年度の受付は終了しました。

講師となる女子大学院生（全分野）を随時募集しています！
興味のある方は男女共同参画推進室までお気軽にお問合せください。
E-mail : sankaku@gifu-u.ac.jp Tel : 058-293-3397

<募集予告>

研究補助員配置制度

男女共同参画推進室では、育児や介護等と研究との両立支援および研究補助員（研究支援者）のチャレンジ支援・再チャレンジ支援に寄与することを目的として、研究補助員配置制度を実施しています。

2019年度（第1期）の申請受付は、2019年1月を予定しています。申請資格や申請受付期間等に関する詳細については、来月号（2019年1月号）の「かもみーる通信」または男女共同参画推進室WEB <https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/> にてご確認ください。

2019年度（第1期）研究補助員配置制度

申請受付期間（予定）：2019年1月15日（火）～2019年1月23日（水）午後4時

研究補助員の配置期間：2019年5月1日～2019年9月30日（5か月間）

募集人数：若干名

選考方法：書類による一次審査の通過者を対象として、二次審査（ヒアリング）を実施します。二次審査（ヒアリング）は2月5日を予定しています。

保育園たより

つばめ



かもめ



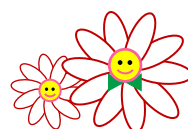
すこやか



岐阜大学男女共同参画推進室（人材開発部職員育成課男女共同参画係） URL : <http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL : 058-293-3397 FAX : 058-293-3396 E-mail : sankaku@gifu-u.ac.jp

*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。



CONTENTS

- * 研究補助員配置制度
- * 社会活動演習
- * カモミール月曆
- * サイエンス夢追い人育成プロジェクト
- * 大女子会
- * カモミール クリスマス交流会
- * 保育園たより

研究補助員配置制度



この制度は、育児や介護等により研究時間の確保が困難な研究者を対象に、研究データ解析、学会発表資料作成、実験補助、文献調査、統計処理等の研究補助業務を行う研究補助員を配置し、育児等と研究との両立を支援する目的で行うものです。また次世代育成のために、研究支援者と被支援者双方のキャリア形成、キャリア復帰等のチャレンジ支援・再チャレンジ支援に寄与することも目的としています。

2019年度 第1期 研究補助員の配置を希望する研究者の募集

配置期間：2019年5月1日～2019年9月30日

申請期間：2019年1月15日（火）～2019年1月23日（水）午後4時まで

申請資格

本学に雇用される研究者で次のいずれかに該当する者

- 1) 小学校3年生までの子どもをもつ研究者（休暇、休業中を除く）
- 2) 市町村から要介護、要支援、障害者の認定を受けている親族について、主たる介護・看護者が申請者自身である研究者
 - * 上記1) 2) の申請資格に関しては、配偶者がいる場合は、配偶者がフルタイム就労者である者に限る。
- 3) 妊娠中の体調不良により、研究活動等の遂行に支障がある女性研究者（産前休暇中を除く）
 - * 上記3) の申請資格に関しては、配偶者の就労形態に関しては問わないが、申請者の体調に関して、配偶者、研究室責任者あるいは部局長、医師などによく相談し、研究継続が可能かどうかを確認のうえ申請すること。
- 4) 男女共同参画推進室長が認める者

本制度の対象となる職

- 1) 常勤職員のうち、以下の職に従事している者
 - (a) 教授、准教授、講師、助教、助手
 - (b) 医員（専攻医、臨床助教）*
- 2) 有期雇用職員（フルタイム）のうち、以下の職に従事している者
 - (a) 特任教員（特任教授、特任准教授、特任講師、特任助教）
 - (b) 研究員・研究支援員*
- 3) 男女共同参画推進室長が認める者

* ただし、大学院生は不可

★ 詳細は男女共同参画推進室WEB
<https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>
 でご確認ください。

カモミール月曆（室長からのメッセージ）



副学長（多様性人材活力推進担当） 林 正子

朝日大学教職員・学生の皆さんとの交流 ～ JST連携事業紹介と「男女共同参画学」担当報告 ～

2018年12月5日（水）三重大学・朝日大学第8回連携協議会にて、「男女共同参画推進のための組織づくり——岐阜大学の取り組み紹介」と題しての講演を担当し、2015年度より取り組んでいる文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」「清流の国 輝くギフショ 支援プロジェクト」の活動内容を両大学の役員の方々にご紹介しました。三重大学では、駒田美弘学長はじめ理事・副学長、各学部長・研究科長が「イクボス宣言」を行い、構成員のワーク・ライフ・バランスを応援する取り組みを実施していること、また、朝日大学では瑞穂市と「男女共同参画・女性の活躍推進事業の連携に関する覚書」を締結し、連携して諸課題に臨んでいらっしゃるなど、活発な意見交換をおこなうことができました。誰もが働きやすい職場づくりの取り組みから、岐阜大学の今後の活動に向けて有益な示唆を得ることができました。

続けて12月17日（月）には、朝日大学法学部と経営学部の3年生・4年生を対象とする「男女共同参画学」を担当しました。この授業は教職員FD・SD研修会も兼ねていたことから、合計約150名の教職員・学生の皆さんが参加してくださいました。

「近代日本における女性解放の先駆者——岸田俊子の人生と文学——」と題して、明治時代の自由民権運動家・作家であり「近代日本最初のフェミニスト」とされている岸田俊子（後の中島湘烟 1861～1901）の人生行路と文学活動を紹介し、先人の生き方から学ぶ「男女共同参画推進・女性の活躍推進の意義」を説く機会をいただきました。

今後も、近隣の大学との交流を深め、連携しての男女共同参画推進・女性の活躍推進に向けて取り組みを強化してまいります。皆さんのご支援ご協力、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

岐大生と一緒に

参加
無料

遊んで・食べて・ダンスをしよう！



募集定員
16組

元気な幼児～小学生のお子さん大募集♪

岐阜大学地域科学部の近藤真庸教授のもと、社会活動演習「地域の子育て支援」に参加している17名の大学1年生と一緒に、牛乳パックを使った工作、ゲーム（プレゼントもあり）、パンケーキのデコレーション、楽器伴奏に合わせてダンスをして楽しい時間を過ごしましょう！

日時：2月16日（土）13：15～15：30（13：00～受付）

場所：地域科学部 地101講義室

お父さんの参加大歓迎。兄弟姉妹、ご一緒にどうぞ！

申込方法：< shinyo118@yahoo.co.jp >宛、メールでお申し込みください。折り返し連絡します。

【主催】岐阜大学地域科学部 近藤真庸研究室 【後援】岐阜大学男女共同参画推進室



サイエンス夢追い人育成プロジェクト

(女子大学院生による出前講義)



12月3日(月)、岐阜県立大垣南高校において大学院生の藤田真由さん(自然科学技術研究科 修士課程1年)が出前講義(第137回)を実施しました。藤田さんは、「私の進路選択」と題して理系クラス2年生(計77名、うち女子18名)を前に、大学生活や研究内容、そして幼少期から大学受験に至るまでの興味関心と進路選択の経緯および受験勉強の効果的な方法などについて具体的に語り、生徒たちは約40分の講義を熱心に受講しました。

講義後のアンケートには、「大学生活や研究が楽しそうだった」「同じ学部名でも大学によって強みのある分野が異なることを初めて知った。大学についてもう一度よく調べたい」「今できる最善のことをしようと思った」など、今後の進路選択において大いに参考になったようです。そのほか、「大学の先生の話聴く機会は多いが、大学生から直接話を聴く機会は珍しいので貴重な時間になった」といった感想を寄せてくれた生徒もいました。



12月17日(月)、岐阜県立岐山高校において大学院生の後藤可南子さん(自然科学技術研究科 修士課程2年)が出前講義(第138回)を実施しました。後藤さんは、「私の進路選択—やりたいことを—」と題して理数科の2年生(74名、うち女子20名)を前に、大学および大学院での研究テーマとその成果、大学～大学院生活、進路選択のプロセスや実践した受験勉強方法

などについて分かりやすく発表し、生徒たちは熱心にメモを取りながら後藤さんの話に耳を傾けました。

講義後のアンケートには、「研究の話が面白かった」「生物学に興味が出た」などのほか、「大学の学部選択や大学院進学時の後藤さんの経験が参考になった」など、迫りくる進路選択に向けて有意義な時間になったようです。



カモミール クリスマス交流会



12月18日(火)、男女共同参画推進室(カモミール・カフェ)にて恒例のクリスマス交流会を開催しました。今年のクリスマス交流会は岐阜大学に所属するすべての構成員(学部生・大学院生、教職員など)を対象に開催しました。様々な学部・研究科の学生や教職員が男女共同参画推進室に集い、リラックスした雰囲気の中で大学生活や職業選択、

研究者のキャリア形成やワーク・ライフ・バランスなど、自分自身や周囲の人々の経験なども共有しながら多岐にわたる話題で語り合いました。普段出会う機会のない学生同士や教職員が学部や部署を越えて交流できる貴重な機会となりました。

男女共同参画推進室では、メンター制度(先輩研究者(メンター)による相談事業)を実施しております。

ご関心のある方は男女共同参画推進室ホームページの「メンター制度」をご覧ください。

<https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/activity/04.html>

大女子会

12月8日(土)、じゅうろくプラザ(岐阜市)にて開催された岐阜県主催の「大女子会」に男女共同参画推進室員の落合絵美コーディネーターが参加しました。

第1部は、テレビのコメンテーターとしても活躍されている少子化ジャーナリスト・作家の白川桃子さんが「男女ともに、仕事・結婚・共働き・両立のリアルを知ろう」と題した講演をおこないました。講演では、人口ボーナス期から人口オーナス期への移行にともない、求められる働き方や仕事のかたちが大きく変化していること、そのなかで男女の働き方や家族のかたちも多様化しており、今後ますます男女ともに「共働き共育て」が重要になると指摘しました。また、様々な統計資料やインタビュー調査の結果などを紹介しながら「自分の幸せを自分でデザインできる女子を育てる」ことの重要性を強調しました。

第2部では、「教えて先輩! 社会人女性の歩み方」をテーマに参加者同士の交流会がおこなわれました。交流会では、5～6名の学生(高校生や大学生)および社会人女性が1テーブルに着席し、第1部の講演を聞いて感じたことや自分自身の社会人としての経験などについて語り合いました。全体を通じて、先輩女性から若年世代の女性たちへのあたたかいメッセージに溢れたイベントでした。



保育園たより

かもめ



つばめ



ひよこ



すこやか



岐阜大学男女共同参画推進室(人材開発部職員育成課男女共同参画係) URL: <http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL: 058-293-3397 FAX: 058-293-3396 E-mail: sankaku@gifu-u.ac.jp

*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。



かもみーる通信

104号

2019年2月

CONTENTS

- * 連携型共同研究成果報告会
- * 名古屋大学GRLシンポジウム
- * 英語コミュニケーション力向上セミナー
- * 働く女性のパワハラ防止セミナー
- * カモミール月暦
- * 意識啓発セミナー
- * 保育園たより

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」



連携型共同研究成果報告会

平成30年度に採択された連携型共同研究の成果報告会を開催します。

本事業は、民間企業、地方自治体、他大学などとのアカデミックな交流を深め、女性研究者の活躍による地域活性化をめざす取り組みです。ご関心をお持ちの方はどなたでも入場可能です。多くの方々のご来場をお待ちしております。

日時：2019年2月26日（火） 15:00～17:15
会場：岐阜大学 全学共通教育棟1階 アクティブ・ラーニング教室

第1グループ（プロポリス・食品）15:05-15:45

- 課題1 プロポリスを含有する動物用創傷保護材の製品化に向けた研究
- 課題2 プロポリスタブレット摂取による歯周病原因菌定着抑制および口腔内環境改善に関する研究
- 課題3 ワサビの甘味の客観的評価方法の確立
- 課題4 授乳と離乳による微生物共生関係の変換点—離乳食開始の指標づくり—

第2グループ（医・薬学・社会科学）16:00-16:40

- 課題5 新規皮膚感作性試験法の確立と天然物の皮膚感作性評価
- 課題6 放射線増感作用を目指す腫瘍特異的活性酸素放出型プロドラッグの開発研究
- 課題7 大学生の精神的健康に影響を与える要因の多角的検討
- 課題8 生きづらさ学研究成果の出版

詳細は、男女共同参画推進室WEB <https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/> をご覧ください。

【お問い合わせ】 岐阜大学男女共同参画推進室 メール：sankaku@gifu-u.ac.jp 電話：058-293-3397

カモミール月暦 （室長からのメッセージ）

副学長（多様性人材活力推進担当） 林 正子

国立大学における男女共同参画推進の実施に関する 追跡調査とアクションプラン（2016～2020）

2001年以降、一般社団法人 国立大学協会（教育・研究委員会 男女共同参画小委員会）は、全国の国立大学における男女共同参画推進のための取り組み状況の把握とともに各機関への情報提供を趣旨として、「国立大学における男女共同参画推進の実施に関する追跡調査」を実施しています。また、2011年2月には、「国立大学における男女共同参画推進について——アクションプラン——」を策定して達成目標を定め、各大学の達成状況を追跡調査してきました。さらに、2016年1月には、2020年度までの5年間に国立大学が達成すべき目標と、そのために取り組むべき新規のアクションプランを策定しています。以下に国立大学協会が提示する達成目標とともに、2019年1月発行の第15回追跡調査報告書の一部をご紹介します。

「アクションプラン（2016～2020）」に掲げる達成目標

◆ 女性教員比率

現在の比率が30%以上の大学は40%以上、20%の大学は30%以上、10%以上の大学は20%以上、10パーセント未満の大学は10%以上というように、より高い比率の達成をめざす。

◆ 指導的地位に女性が占める割合

国立大学全体の学長・理事・副学長に占める女性の割合は12%以上、大学の意思決定機関等（学長補佐・部局長・監事・経営協議会委員・教育研究評議会委員等）は10%以上、教授は15%以上、准教授は23%以上、課長相当職以上は17%をめざす。

第15回追跡調査結果の概要

■ 女性教員比率 [女性教員数（助手を除く）／教員数（助手を除く）]

2018年5月1日現在の女性教員比率は16.7%（前回調査より0.5ポイント増加）

女性教員比率が20%以上の大学 29大学（前回調査より5大学増加）

■ 大学別女性教員比率の平均 [各大学における女性教員比率の総和／86（大学数）]

18.3%（前回調査より0.5ポイント増加）

■ 女性教員比率区分別大学数

女性教員比率	第12回調査（2015年）	第15回調査（2018年）
40%以上	1大学	1大学
30%以上～40%未満	2大学	3大学
20%以上～30%未満	15大学	25大学
15%以上～20%未満（岐阜大学を含む）	40大学	34大学
10%以上～15%未満	18大学	15大学
1%～10%未満	10大学	8大学

岐阜大学は、第3期中期目標・中期計画、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」に基づく行動計画、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」の数値目標について、**2020年度（2021年3月）までに女性教員の在職比率を20.4%以上に向上**させることを申告しています。残念ながら、**2018年10月1日現在 16.1%**にとどまっています。数値目標達成に向けて非常に厳しい状況であることを、構成員の皆さんの共通認識としていただきたく、今回の「カモミール月暦」でご紹介させていただきました。ご理解のほど、どうぞよろしくお願い致します。

名古屋大学GRLシンポジウム

1月11日（金）、名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリ（GRL）開館1周年記念シンポジウム「ジェンダー研究機関の過去・現在・未来」（名古屋大学）に落合絵美コーディネーターが参加しました。

冒頭にGRLのこれまでの活動に関する説明がおこなわれたあと、大阪府立大学女性学研究センター長の伊田久美子教授が基調講演「大学における女性学・ジェンダー研究センターの役割と課題」と題して、大阪女子大学時代から大阪府立大学への統合を経て現在に至るまでの四半世紀にわたる女性学研究センターの活動について、現在直面する課題にも言及しながら振り返りました。続いて、お茶の水女子大学ジェンダー研究所長の石井クンツ昌子教授、奈良女子大学アジア・ジェンダー文化研究センター長の松岡悦子教授、国際基督教大学ジェンダー研究センター長の高松香奈准教授が各機関における運営状況や様々な取り組み（国際シンポジウムや各種セミナーの開催、学術誌の刊行、研究プロジェクト、授業、相談事業、ネットワーク構築など）について紹介しました。

パネルディスカッション後の質疑応答では、運営経費や活動業績の評価方法、LGBT学生サークルとの交流関係などについて質問が寄せられ、各機関におけるそれぞれの現状について率直に語られました。参加者のなかには大学などの研究機関において長年にわたってジェンダー研究・教育に携わってきた研究者も多く、ジェンダー研究機関の未来について議論の尽きない充実した内容のシンポジウムでした。

働く女性のパワハラ防止セミナー

2018年12月20日、名古屋大学ハラスメント相談センター主催「働く女性のパワハラ防止セミナー」に落合絵美コーディネーターが参加しました。

この日は「女性が輝く社会ってどんな社会？」をテーマに、野田聖子衆議院議員が少子高齢化や労働力不足といった日本が直面する問題が出生率の急激な低下によって引き起こされていること、改善するためには子どもを持ちたいと願う人々の希望を叶えられる環境整備が不可欠であることについて、職場におけるセクシュアル・ハラスメントの事例や女性管理職が依然として少ない現状、そして男性の育児分担の重要性にも言及しながら約1時間にわたって論じました。全体を通して、女性に対するあたたかいエールが込められた講演でした。



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

英語コミュニケーション力向上セミナー

日時：2019年2月7日（木） 13:00～16:00

会場：岐阜薬科大学本部 大学院講義室

参加申込締切：2/5（火） 今後の他イベントにご期待ください。
イベント情報は、随時岐阜大学男女共同参画推進室WEBに掲載しています。



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

意識啓発セミナー

日時：2019年2月20日（水） 13:30～14:45

会場：アピ株式会社 本社4階 大会議室

【お問い合わせ】アピ株式会社 TEL: 058-271-3838 (代)
キャリアアップ推進室 担当：荒木陽子、野々垣裕香



保育園たより

かもめ



すこやか



つばめ



ひよこ



岐阜大学男女共同参画推進室（人材開発部職員育成課男女共同参画係） URL: <http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL: 058-293-3397 FAX: 058-293-3396 E-mail: sankaku@gifu-u.ac.jp

*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。



CONTENTS

* 連携型共同研究助成募集

* カモミール月暦

* 連携型共同研究成果報告会

* キャリアパス支援講演会

* 社会活動演習

* 保育園たより

 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

連携型共同研究助成募集

本制度は、2015年度に採択された科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」（代表機関：岐阜大学）の一環として、同事業の共同実施機関（岐阜薬科大学、岐阜女子大学、アピ株式会社）、および岐阜県内の女性研究者の研究力向上を図り、研究者同士の交流・地域への定着、さらには上位職登用につながるような「地域循環型研究者育成」をめざして実施するものです。

この研究助成制度では、**すでに実用化段階（特許、企業による製品・商品化、成果の出版等）になっている研究に対して、必要に応じてその実用化までの研究費用を支援する**ものです。共同研究の成果がある程度出ていて、その実用化（特許、企業による製品・商品化、成果の出版等）にいたる段階が具体的に示されている場合に限り、その研究費の全額・あるいは一部を支援します。

申請受付期間： 2019年3月4日（月）～3月19日（火）午後4時必着
助 成 金 額： 1件あたり 20万円 ～ 80万円程度

申請者要件

- 岐阜大学に所属する女性研究者（研究分野を問わない。特任教員・医員を含み、学生・院生・研究員である者を除く。）
- 共同研究者に共同実施機関（岐阜薬科大学・岐阜女子大学・アピ株式会社）に所属する研究者（原則として女性）が、1名以上含まれていること。共同研究者には、岐阜薬科大学・岐阜女子大学・アピ株式会社以外にも、他大学・企業との共同研究も歓迎する。
- 他の研究支援・外部資金（科研費）等との重複申請は認められるが、この研究助成でどの部分を負担するのかを明確にすること。

ご応募を検討される方は、男女共同参画推進室WEB<https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/news/477.html>で募集要項をご確認の上、申請書をご提出ください。申請書は上記WEBからダウンロードできます。（学内限定）

カモミール月暦 （室長からのメッセージ）

副学長（多様性人材活力推進担当） 林 正子

平成30年度「清流の国ぎふ女性の活躍推進会議」検討委員会合同会議

2019年1月28日（月）、岐阜県女性の活躍支援センター（OKBふれあい会館）で岐阜県子ども・女性局が主催する「清流の国ぎふ女性の活躍推進会議」検討委員会合同会議が開催されました。「M字カーブ底上げ検討委員会」「女性管理職登用検討委員会」「女性の活躍総合支援体制検討委員会」の3検討委員会合同の会議の冒頭で、性別による固定的な役割分担意識が根強いこと、M字カーブの底が深いこと、女性管理職比率が全国最低であることなど、岐阜県の現状が確認され、具体的に、

- ① 「清流の国ぎふ女性の活躍推進計画」の取り組み状況
- ② 「女性の職業生活における女性の活躍の推進に関する法律」の見直し
- ③ 「清流の国ぎふ女性の活躍推進フォーラム」の開催

をおもな議題として、合計20名の委員による意見交換がおこなわれました。私自身、「女性の活躍総合支援体制検討委員会」の委員を務めており、岐阜大学構成員の皆さんに職場やご家庭で何らかの参考にしていただければと願ひ、会議の一部をここにご紹介いたします。

- ① 「女性活躍推進法」第6条の規定にもとづき「清流の国ぎふ女性の活躍推進計画」（2016～2020年度）を策定している岐阜県では、子ども・女性局が中心となり、

- (1) 女性の活躍推進に向けた組織風土づくり
- (2) ワーク・ライフ・バランスの実現、働き方改革の推進に向けた環境整備
- (3) 女性の希望に応じたキャリアアップに向けた支援

を趣旨として、さまざまな取り組みが展開されています。諸事の実施状況を確認するなかで、岐阜県では男性の育休取得率が低い（2017年雇用均等基本調査 全国5.1% 岐阜県2.3%）ことが改めて浮き彫りになり、**男性の育休取得率の向上に向けた取り組みや、男性の家事・育児・介護等への積極的な参画を推進する取り組みの重要性が議論**されました。

- ② 2018年6月15日閣議決定された「骨太方針2018」「未来投資戦略2018」に、「女性活躍推進法」の見直しに着手し、改正内容について今年度結論を得ることが盛り込まれたことを受けて、国では、次のように「女性活躍推進法」の見直しが検討されていることが紹介されました。

- 一般事業主行動計画の拡大強化
 - ・ 行動計画策定岐阜の対象企業の拡大 301人以上 → 101人以上
- 情報公表の促進
 - ・ 情報公表義務の対象企業の拡大 301人以上 → 101人以上
 - ・ 情報公表項目の見直し
 - a. 職業生活の機会の提供に関する項目
 - b. 職業生活と家庭生活との両立に関する項目
 に区分し、各区分から1つ以上情報公表することを義務化
 - ・ 情報公表の適正化を確保するため、勧告違反の場合の企業名公表制度の創設

- えるぼし認定の見直し
 - ・ より水準の高い「プラチナえるぼし」（仮称）認定を創設し、「プラチナえるぼし」取得企業は、行動計画策定義務を免除。

- ③ 「清流の国ぎふ女性の活躍推進フォーラム」（主催：岐阜県、清流の国ぎふ女性の活躍推進会議）が開催されることの案内がありました。3月19日（火）13：00～16：00 岐阜都ホテルにて、（株）イー・ウーマン代表取締役社長、佐々木かをり氏による基調講演「企業力を高める女性活躍～ダイバーシティが成長のキーワード～」や「ぎふ女のすぐれもの」認定式がおこなわれます。プログラムの詳細は、<http://gifuio.pref.gifu.lg.jp/event/190319jokatu-forum.pdf> をご参照ください。

ロビー会場では、岐阜県図書館との連携によって、下田歌子、花子、川上貞奴ら明治期に岐阜県で活躍した女性の企画パネル展も開催されます。ご関心のおありの方は、どうぞぜひご参加ください。



連携型共同研究成果報告会

2月26日、科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」2018年度連携型共同研究成果報告会が岐阜大学にて開催されました。実施機関である岐阜大学、岐阜薬科大学、岐阜女子大学、アピ株式会社から助成を受けた8研究課題に携わった研究者が、これまでの研究成果についてパワーポイントを用いながら1課題につき10分間の報告をおこないました。

各報告の後、岐阜大学から森脇学長および野々村修一理事・副学長、岐阜薬科大学から原英彰副学長、岐阜女子大学から松川禮子学長、アピ株式会社から野々垣孝彦社長が、それぞれ研究成果についてご講評くださいました。

会場には共同研究者や学生、教職員、報道関係者など51名の方々にご参加いただきました。全体を通じて、2015年度から始まった本事業の研究成果の蓄積を感じさせる充実した内容の報告会でした。



岐阜大学では、2019年度連携型共同研究の応募を受け付けております（3月19日締切）。募集要項および申請書については、ニュースレター1面および男女共同参画推進室ホームページをご覧ください。
<https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/news/477.html>

キャリアパス支援講演会

2月1日（金）、岐阜薬科大学においてキャリアパス支援講演会「個別化治療を目指した新薬「アレクチニブ」の研究開発—ダイバーシティ実践による製薬企業での夢の追求—」が開催されました。

講師である青木裕子エーザイ（株）癌領域ポートフォリオマネジメント部シニアディレクターが、近年の高額な薬の費用対効果に対する関心の高まりや個別化による薬剤開発成功率の向上などに言及しつつ、選択的治療による効果の実証例について紹介しました。また、癌細胞の遺伝子異常における創薬研究について、ご自身が開発に携わった新薬「アレクチニブ」の研究開発から承認に至るまでの過程について詳細なデータに基づいて説明しました。さらに、近年は肺癌の類型化が進んでおり、選択的治療で効果を上げるためにはどのタイプの肺癌であるかを血液検査などの簡易な方法で診断する必要性が高まっており、そのための研究が進んでいること、将来的には未発症段階における投薬によって発症を予防する可能性があることについて言及しました。

最後に、ご自身のキャリアの原点である「薬を作りたい」という夢、性別や国籍、部署や地位など多様なメンバーの特性に配慮したチーム運営、そしてご家族のことなど、性別を問わず研究者のキャリアパスを考える上で参考になる有意義な講演会となりました。



社会活動演習

2月16日（土）、7年目を迎えた、地域科学部「社会活動演習」（担当：近藤真庸教授）子育て支援プロジェクトによるイベントが開催され、0歳から12歳までの子ども21人と父母など12人が参加しました。

7年連続で参加してくれた子（9歳）、昨年はお母さんに抱っこされていた子（2歳）、放課後の障がい児クラブの子どもたち（9人）と指導員（3人）など、参加者は、2時間30分、学生が企画したプログラム（歌、ゲーム、工作、パンケーキづくり体験）を、時間を忘れて楽しんでいました。

参加者からは、「来年もやってほしい!」「また参加したい!」という声がたくさん寄せられ、本番までの9ヶ月間、自分たちだけで準備してきただけあって、学生たちは達成感とたくさんの学びを得たようです。



来年は、いよいよファイナル。新1年生のプロジェクトメンバーは、6月に発足します。

保育園たより



5 その他の特筆すべき取り組み

5-1. サイエンス夢追い人育成プロジェクト（理系女子大学院生による出前講義）

サイエンス夢追い人育成プロジェクト（理系女子大学院生による出前講義）は、以前から岐阜大学が独自に実施してきた取り組みである。岐阜大学に所属する女子大学院生が岐阜県内の小中高校に赴き、大学・大学院での研究内容や進路選択に至る経験を紹介することを通じて、とくに女子生徒の理系分野への進学意欲を喚起し、将来的には女性研究者の増加に繋げることを目的に実施している。2018年度は5名の女子大学院生が8校の高校生715名に対して計12コマの講義を実施した。この取り組みは高校から好評を得ており、来年度以降も継続して実施する予定である。

2018（平成30）年度の実績

7月 2日 岐阜県立大垣工業高校 2年生 38名
7月 9日 岐阜県立多治見高校 2・3年生 70名
9月13日 岐阜県立長良高校 1年生 362名
10月19日 岐阜県立飛騨神岡高校 2年生 18名
11月 9日 岐阜県立岐阜農林高校 1年生 37名
11月27日 岐阜県立池田高校 2年生 39名
12月 3日 岐阜県立大垣南高校 2年生 77名
12月17日 岐阜県立岐山高校 2年生 74名



出前講義の様子（飛騨神岡高校）

5-2. 長良高校研究室見学会

【開催日時】2018年7月19日

【開催場所】岐阜大学

【参加者】岐阜県立長良高校2年生の女子生徒34名

サイエンス夢追い人育成プロジェクト（理系女子大学院生による出前講義）の「発展型」として、2012年度より毎年7月に岐阜大学において「長良高校研究室見学会」を開催している。2018年度は5研究室（工学部2、応用生物科学部2、教育学部1）が参加し、各研究室に所属する女子大学院生が長良高校の女子生徒を前に実験の実演、研究内容や大学院生活に関する説明などを行った。研究室見学会後は会場を集会室に移して、女子高生と女子大学院生の交流会を開催した。交流会では、大学生活、受験勉強、進路選択などについて自由に質問できる時間を設け、女子生徒から様々な質問が相次いだ。高校を訪問して講義する上記の出前講義に対して、研究室見学会では実際に大学の研究室を訪問して実験や研究室の様子を観察できることから、「進路選択の参考になった」「進学意欲が高まった」等の感想を得ている。

5-3. 各種セミナー・シンポジウム等への参加

本事業のコーディネーターが女性の活躍やキャリア形成に関する各種セミナー・シンポジウムに参加した。

【2018年度参加セミナー・シンポジウム】

2018 年 5 月 30 日 10 時～12 時	場所：岐阜県女性の活躍支援センター（岐阜県）
岐阜県女性の活躍支援センター主催「キャリア☆ナビ DAY」プチ講座への参加 センターへのご挨拶・意見交換（原永子センター長、堀川奈美主査）	
2018 年 6 月 9 日 13 時 30 分～17 時 30 分	場所：日本学術会議講堂（東京都）
シンポジウム「移民と人間の安全保障をジェンダー視点で考える」への参加	
2018 年 6 月 30 日 13 時 30 分～17 時	場所：お茶の水女子大学講堂（東京都）
シンポジウム「女性政治リーダーはいかにして『育つ』か？」への参加	
2018 年 12 月 8 日 13 時 30 分～15 時 30 分	場所：じゅうろくプラザ（岐阜県）
岐阜県主催「社会人女性の歩み方 大女子会」講演会・交流会への参加	
2018 年 12 月 20 日 13 時 30 分～17 時	場所：名古屋大学（愛知県）
働く女性のパワハラ防止セミナー「女性が輝く社会ってどんな社会？」への参加	
2019 年 1 月 11 日 17 時～19 時	場所：名古屋大学（愛知県）
シンポジウム「ジェンダー研究機関の過去・現在・未来」への参加	
2019 年 2 月 4 日 14 時分～17 時	場所：名古屋大学（愛知県）
シンポジウム「医学系の女性活躍推進と働き方改革」への参加	
2019 年 2 月 9 日 13 時 30 分～16 時	場所：長良川国際会議場（岐阜県）
岐阜県主催「岐阜で活躍する女性の交流会 自分を成長させることで人生の花を咲かせよう」への参加	
2019 年 2 月 24 日 13 時～16 時	場所：東京ウィメンズプラザ（東京都）
文部科学省主催「女性の学ぶ・働く・生きる応援フェスタ」への参加	

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）
「清流の国輝くギフジョ支援プロジェクト」
2018（平成 30）年度事業報告書
2019（平成 31）年 4 月発行

【発行】

国立大学法人 岐阜大学
岐阜薬科大学
学校法人 華陽学園 岐阜女子大学
アビ株式会社

発行責任者 林正子
岐阜大学副学長

連絡先（代表機関）岐阜大学男女共同参画推進室
〒501-1193 岐阜市柳戸 1－1
TEL 058-293-3397
FAX 058-293-3396